

未来をつくる実践目標

チャレンジ2025

【年度実績】
(令和7年度 分野別の主要施策)

< 5つの分野 >

○将来像の実現を目指して、次の5分野に分けて具体的な政策を企画・実行

個性を伸ばす (人材力)	成長を創る (産業力)	楽しみを広げる (創造力)	住みやすさを高める (地域力)	ともに進める (総合力)
ふくいは人が宝。 地域を支え、 未来を創造する 人材の育成	力強い産業基盤 の確立。 チャレンジできる 地域経済の構築	多彩な魅力で 交流拡大。 交通新時代の 活力の創出	人生100年時代を充 実させる「健幸文化」 の創造。 くらしを守る 安全・安心	協働による 県民主役の県政。 外に開き 連携強化

分野ごとの主な施策

分野	目指す姿	主な施策	目標(KPI)
個性を伸ばす(人材力)	17	87	82
成長を創る(産業力)	15	75	75
楽しみを広げる(創造力)	20	109	79
住みやすさを高める(地域力)	17	93	85
ともに進める(総合力)	9	31	19
合計	78	395	340

	政策	重点施策	施策	
個性を伸ばす (人材力)	1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進 子ども一人ひとりの個性を「引き出す教育」や、探究心を持って学びを「楽しむ教育」、郷土の歴史、自然、文化、人々等とつながり学ぶ「ふるさと教育」を進め、子ども一人ひとりを大切に育てる「子どもが主役の教育」を推進します。		○自らと福井の将来につながる学びの推進 ○誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの推進	・自らと福井の将来につながる学びの推進 ・誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの推進 ・人生を楽しく豊かにする学びの推進 ・基本となる学校環境づくり ・私立学校の振興
	2 ふくいの産業・社会を支える人づくり 本県の特徴を活かした教育・研究の推進、魅力的な学びの場の創出、産学官連携の強化により、地域に貢献したいと思う意欲を醸成し、地域のために積極的に行動できる人材や、生涯活躍・成長を続け、ふくいの未来を創る人材を育成します。		○魅力的な大学づくり ○地域拠点校や職業系高校の魅力向上	・地域に愛着を持ち、積極的に貢献する人材の育成 ・産学官等の連携強化による地域人材の育成 ・生涯活躍・成長を続ける人材の育成
	3 多様な個性や能力を育み、活かす共生社会の実現 多様な価値観や考え方を認め合える寛容な社会を実現するとともに、性別や年齢、国籍、障がいの有無などに関わらず、県民一人ひとりが自分らしく活躍できる社会を目指します。		○多様な個性や能力が輝く寛容な共生社会の実現 ○女性、若者が自分らしく活躍できる社会の実現	・多様な価値観が認められ自分らしく生きられる社会の実現 ・女性の「なりたい自分」や「かなえたいキャリア」の実現に向けた環境づくり ・若者のチャレンジ応援 ・社会貢献活動の参加拡大 ・多様な人材が活躍する共生社会の実現
	4 こども・子育ての“よろこび”を次世代につなぐ「ふく育県」の推進 家庭や地域のつながりを大切に育てる福井らしい子育て環境を活かしながら、こども・若者や子育て世代一人ひとりの多様な夢や希望がかなう社会づくりを進めます。さらに、社会全体でこどもの“よろこび”や子育ての“よろこび”を育み、共感し合う「ふく育県」を実現します。		○一人ひとりに寄り添い、誰も取り残されない「ふく育安心モデル」 ○一人ひとりの夢や希望がかなう、幸せを実感できる「ふく育希望モデル」	・こどもの安全・安心を確保 ・安心の子育て環境を確保 ・結婚や子育ての希望を応援 ・社会全体でこども・子育てを応援
成長を創る (産業力)	5 稼げる農林水産業で農山漁村の活性化 水稲、園芸、畜産、林業、漁業等における担い手や大規模事業者を育成し、本県の農林水産業の長所や農山漁村の魅力をさらに伸ばすとともに、新幹線開業等によるチャンスを活かして、新たに本県を訪れる人々や県民を巻き込んだ多面的な政策を展開します。		○稼げる農林水産業の展開 ○農山漁村コミュニティの維持・活性化	・希望あふれる次世代の担い手を育成 ・ふくいの農林水産物のトップブランド化 ・魅力と活力あふれる農山漁村コミュニティの維持 ・ふくいの農林水産物への理解促進
	6 創業・新事業展開の推進 北陸新幹線開業により企業や人材の交流が拡大している機を捉え、地域企業と県内外の人材との共創により、社会課題の解決や新たな価値の創出に取り組む「福井型エコシステム」を充実・強化します。		○地域のスタートアップ創出 ○全国のスタートアップとの共創 ○セーフティネットの充実	・スタートアップの創出・共創 ・県外からの投資や人材の呼び込み促進 ・アンテナショップを活用した県産品販路拡大
	7 未来志向型の産業革新 本県の地域産業が蓄積してきた独自技術を発展させ、未来社会を支える新たな価値を生み出す技術開発を推進するとともに、社会経済情勢の変化に対応する持続可能な地域産業を確立します。		○脱炭素技術の開発と資源循環モデルの構築および産業化 ○国内を代表する宇宙産業拠点の形成 ○ヘルスケア産業からウェルビーイング産業への拡大	・持続可能な「未来創造産業」の創出 ・地域産業の持続的な企業経営の実現 ・伝統工芸や地場産業の振興 ・地域産業を支える人材の確保・育成
	8 世界のふくいファンを拡大 世界市場につながるネットワークの充実・強化を図り、海外との人・モノ・情報の往来を活発化させるとともに、世界市場の取込みに向けて、グローバル人材の育成・就労機会の拡大に取り組みます。		○福井の「食」の魅力発信 ○福井が誇る「伝統工芸」の奥深さの発信 ○モノづくりふくいの「技術」と世界の協働 ○外国人が暮らし続けたいと思える多文化共生先進地の実現	・ふくいの農林水産物を世界へ ・魅力あるふくいの伝統工芸や技術を世界に伝える ・港を活かした貿易・交流の拡大 ・外国人が安心して暮らし、働ける環境づくり

	政策		重点施策	施策
楽しみを広げる (創造力)	9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 北陸新幹線開業によるにぎわいを一過性のものとせず、今後の中部縦貫自動車道県内全線開通によるさらなるアクセス向上なども見据え、観光地としての価値を今以上に引き上げるとともに、人材育成や投資の促進により将来にわたり持続可能な観光地域づくりを進めます。		<ul style="list-style-type: none"> ○観光地・宿泊施設のさらなる魅力向上 ○未来につながる持続可能な観光地づくり ○インバウンド誘客プロモーションの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地としての価値の向上 ・未来につながる持続可能な観光地域づくり ・世界に選ばれる魅力づくり ・みんなが幸せになる観光の推進
	10 交流を広げる基盤整備 北陸新幹線や中部縦貫自動車道などの高速交通・物流ネットワークの整備により、県内外との交流を拡大する県境フロンティア政策を推進します。また、交流の拡大にあわせ、官民共創によるまちづくりや持続可能な二次交通の整備を進めます。		<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通ネットワークの維持・活性化 ○にぎわいを生み出すまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線など高速交通網の整備促進 ・持続可能な公共交通ネットワークの構築 ・地域鉄道の維持・活性化 ・交流拠点を中心としたまちづくり ・飛躍するふくいを支える基盤の整備・活用 ・WAKASARIフレッシュエリアの形成
	11 ふくい移住・定住の促進 Uターン、県内定着支援を強化し、関係人口の拡大や多様な福祉との「関わり」から、地域とのつながりや県外に出た人とつながり続ける仕組みを構築します。また、北陸三県や新幹線沿線自治体とも連携してUターンを促進します。		<ul style="list-style-type: none"> ○高校から子育て期までつながり続けるUターン支援 ○「選ばれるふくい」の移住定住政策 ○関係人口の創出・拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携による学生の県内就職の応援 ・「選ばれるふくい」の移住定住政策 ・関係人口の創出・拡大
	12 文化芸術・スポーツ力の強化 悠久の歴史に育まれた暮らしや豊かな自然と風土を活かした文化芸術に触れ、楽しみ、自ら創造・発信する主体的な活動や、県民誰もが夢や感動を共有し、健やかな人生を送れる多様なスポーツ活動・交流の推進により、県民の幸せ実感を向上します。		<ul style="list-style-type: none"> ○県民主体の文化芸術活動を応援 ○文化観光の推進 ○スポーツによる交流拡大・地域活性化 ○トップアスリートの競技活動支援・Uターン推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民主体の文化活動や表現・参加機会の拡大 ・文化芸術の次世代育成と保存・継承・活用 ・文化芸術による交流機会の拡大 ・ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の推進 ・国民スポーツ大会や国際大会等活躍する選手の発掘・育成・強化 ・福井ならではの地域特性を活かしたスポーツ交流の推進 ・誰もがスポーツに参加できる「場づくり」の充実
住みやすさを高める (地域力)	13 人生100年時代の充実生活応援 すべての県民が活躍し続けられるよう、生活習慣の改善による健康づくりを推進するとともに、若者・現役世代に加えて、シニア世代のチャレンジ応援や生きがい活動の選択肢を拡充し、健康長寿ふくいを推進します。		<ul style="list-style-type: none"> ○「歩いて健康維持」と「適切な食塩摂取」による生活習慣改善 ○シニア世代の活躍の場の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の改善 ・地域における全世代のチャレンジ・活躍を応援 ・県全体で進める健康づくり
	14 誰も取り残されない安心の医療・介護・福祉の充実 地域医療を取り巻く環境変化を踏まえ、医療・介護・福祉の連携を強化して地域包括ケアシステム体制を構築します。また、地域福祉の担い手のつながりや居場所づくりにより共助の力を活性化し、住民の福祉ニーズに対する支援を行き届けます。		<ul style="list-style-type: none"> ○支援が届きにくい地域住民への支援体制の強化 ○強度行動障がい児者、医療的ケア児者への支援充実 ○DXによる医療の質の向上・格差の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域完結型の医療体制の確立 ・医療・福祉現場でのDX推進 ・「次世代型包括ケアシステム」の推進 ・福祉の担い手不足への対応 ・複合化・複雑化した福祉ニーズへの対応
	15 豊かで美しいふくいの環境の継承 2050年のカーボンニュートラルに向けて、エネルギー源の転換や再生可能エネルギーの導入を進めるほか、自然と共生する社会づくりや自然環境の保全、循環型社会の推進により、本県の環境の豊かさや美しさを守り育て、次世代に継承します。		<ul style="list-style-type: none"> ○温室効果ガス排出量49%削減に向けた実践 ○脱炭素化に資する「価値づくり」への挑戦 ○スマートエリアの形成 ○気候変動「適応策」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素社会の実現と気候変動への対応 ・エネルギーを活用した地域の活性化 ・自然と共生する社会づくり ・環境に配慮した暮らし
	16 防災・治安先進県ふくいの実現 頻発・激甚化する自然災害に対し、つながり助け合うコミュニティを形成しながら自助・共助の力を高めるとともに、県土強靱化を推進し、万全の備えを期します。また、犯罪や事故等に巻き込まれない安心して暮らせる社会の実現を目指します。		<ul style="list-style-type: none"> ○地域一体で進める防災力の強化 ○デジタル技術を活かした防災DXの推進 ○事前防災対策による県土強靱化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と技術による地域防災力の向上 ・災害に強く、安心して暮らせるふくいの基盤の構築 ・県民を守る犯罪・事故等の対策 ・県民の安全最優先の原子力政策 ・拉致問題への対応
ともに進める (総合力)	17 「チームふくい」の行政運営 徹底現場主義の考え方にに基づき、県民・企業・団体・市町との協働を進めるとともに、官民共創による政策形成システムの強化や安定した行財政運営など、将来像の実現に向けた県民主役の県政を推進します。		<ul style="list-style-type: none"> ○官民がつながり、チームふくいを実現 ○未来をデザインする「政策オープンイノベーション」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・フレッドを推進し、官民共創で地域課題を解決 ・市町協働を深化し、地域の未来づくりをバックアップ ・便利でやさしいDXにより、県民とのつながりを創出 ・健全財政の堅持 ・政策オープンイノベーションの推進
	18 広域連携の強化 北陸新幹線や中部縦貫自動車道など高速交通網等の整備に伴い、増加が見込まれる人・モノ・情報の交流促進をはじめ、広域的な医療体制の整備や激甚化・頻発化する災害への対応力を強化するため、県境を越えた緊密な連携体制を構築します。		<ul style="list-style-type: none"> ○沿線自治体等と連携した高速交通網等の整備促進 ○広域連携の強化による大規模災害への対応力強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携による高速交通網等の整備促進 ・広域連携による防災・医療体制の強化 ・広域連携による交流の拡大 ・自治体ネットワークによる政策立案と提言

政策Ⅰ 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進



目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策Ⅰ-Ⅰ】</p> <p>○自らと福井の将来につながる学びの推進</p> <p>一人ひとりの興味関心や能力に合わせた学びを推進し、課題の発見・解決や他者との協働など、未来を切り拓いていくための資質・能力を育むとともに、地域の未来と自らの将来を考える機会を増やし、一人ひとりの将来の夢や希望を育みます。</p>	<p>確かな学力と探究力の育成</p> <p>○ 学びのDX推進チームや学校教育DX推進協議会等の活動を通して、デジタル教材の導入および活用における地域間・学校間格差を解消し、学びの変革を推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・市町との連携を強化し、教育DXの地域格差解消を目的とした「福井県学校教育DX推進協議会」を開催(3回) デジタル教材等の市町担当者向け操作体験会を実施 各学校がネットワーク環境整備を滞りなく行えるよう国庫補助制度等を説明 各学校の教育DXの進捗状況等を調査するDX進捗状況調査を実施。市町教育委員会に対し、教育DXの推進を働きかけ 等 ・小中学校における1人1台端末の更新に関する共同調達の検討会を開催(5回) ・小中学校の校務支援システム(C4th)とデジタル教材等のデータの連携に向けた市町向け説明会を開催(5回) ・「学びのDX推進チーム」会議を開催し、デジタル教材の活用促進や教育DXの進め方の情報を共有等(2回) ・ICTを活用した好事例等を共有する情報誌(学びのDX通信)を発行し、市町・学校に配布(8回) </div> <p>○ 子どもたちの学びの基礎となる公平な学習機会の確保のため、県立学校のタブレット端末を公費で更新するとともに、AI等の先端技術を用いたデジタル教材を県立学校に導入し、生徒が自ら学び、未来を切り拓いていくための資質・能力を育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・県立学校のタブレット端末公費更新(5,310台) ・AI等の先端技術を用いたデジタル教材を県立学校に導入(15校、合計3,607人) </div> <p>○ 学校・学科を越えた課題研究等の合同発表会「高校生探究フォーラム」等を開催し、大学教授や地元企業等から高校生が自らの取り組みに対して助言指導を受ける場を提供するとともに、地域課題や社会問題に対して独自の解決策を提案してチャレンジする姿勢を表彰する「高校生チャレンジアワード」を開催</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・11月にふくい産業教育フェアを嶺南会場(敦賀駅西広場講演)と嶺北会場(ハピテラス)で2回実施(参加生徒数230人) ・12月に高校生探究フォーラムを嶺南会場(プラザ萬象)と嶺北会場(県民ホール)で3回実施(参加生徒数450人) ・高校生チャレンジアワード応募数(107チーム、322人) </div> <p>○ 「『深い学び』を目指した授業づくり支援」を実施し、子どもが主役となる授業づくり、授業改善を通して、各教科の資質・能力を育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事が学校訪問を行い単元づくりや授業づくりを支援 実施校数19校(小学校14校、中学校5校) のべ実践数22校(小学校:国・算・音・図・家・外・道、中学校:国・社・数・理・英) </div>	<p>・ PCやタブレットの使用が勉強の役に立つと思う児童生徒の割合 小学校80%(R6:76.6%) 中学校70%(R6:68.4%)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>小学校75.5% 中学校70.7%</p> </div> <p>・ 先進的なデジタル教材を活用する高校の生徒数 3,000人(R6:ー)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3,607人(3月末)</p> </div> <p>・ 探究学習の成果発表会への参加生徒数 2,000人(R6:1,847人)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2,189人(3月末)</p> </div> <p>・ 課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合 小学校 90%(R6:86.0%) 中学校 90%(R6:84.2%)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>小学校:83.2% 中学校:82.1%</p> </div>	<p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>教育庁</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>豊かな心と健やかな体の育成</p> <p>○ 学校図書館の機能を活用した授業や読書バリアフリーの推進、子どもの視点に立った読書活動の推進、学校図書館サポーター等の人材育成等、子どもが読書を楽しむ環境づくりを推進</p> <div data-bbox="801 252 1601 470" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館サポーター養成講座(全7回、25名修了)と読み聞かせ担い手養成講座(全5回、21名修了)を実施し、読書に関わる地域人材を育成 ・バリアフリー図書を知りやすくするために、バリアフリー図書と読書補助具の体験セットを特別支援学校に貸出(11校) ・ジュニア司書養成講座を県内複数の図書館で開催し、57名の小中学生を認定 ・小学校に学校図書館スーパーバイザー等を派遣し、職員を対象とした学校図書館の活用や読書活動推進に関する研修、児童を対象としたワークショップを実施(7校) </div> <p>○ たくましさや社会性を育てるため、自然環境に恵まれた本県の特長を活かした「アウトドア教育」を推進</p> <div data-bbox="801 593 1601 726" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・県立青少年教育施設における宿泊体験交流事業に、県内外の子ども135名が参加し、沢登りやスノーケリングなど多彩な自然体験プログラムに挑戦 ・県内8つの民間団体に県立青少年教育施設を活用した自然体験プログラムの実施を委託し、県内131名の子どもが、シーカヤックや市中河川でのボート体験などの自然体験活動に参加 </div> <p>○ 児童生徒の達成感や満足感を重視する観点から、AIによる動作解析アプリにより身体の動かし方やチームの動きの改善点等を明らかにするなどタブレット端末を効果的に活用し、運動を楽しみながら積極的に取り組む姿勢を養う体育授業を推進</p> <div data-bbox="801 896 1601 986" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・県内におけるタブレット端末を効果的に活用した実践事例を調査し、県内小中学校に情報共有 ・来年度の県内における先進事例校への視察を計画 </div> <p>○ 地場産食材を使用した副食を一品追加する「地場産プラスワン給食」を支援し、地場産食材を教材とした、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業等を学ぶ食育を実施</p> <div data-bbox="801 1098 1601 1161" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「地場産プラスワン給食」の実施回数(79回) ・72%の児童生徒が「地場産食材について知っている」と回答 </div> <p>多様な人々と協働する力の育成</p> <p>○ プレゼンテーション教育の一環として「全国高校生プレゼン甲子園」を開催し、高校生の論理的思考力、創造力の育成や総合的なプレゼンテーション能力を育成</p> <div data-bbox="801 1305 1601 1433" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・36都道府県から777チームの応募があり、予選審査で選抜された10チームによる決勝戦を8月に福井で開催 ・すべての応募生徒により効果の高いフィードバックを提供するため、AIによる予選動画へのフィードバック機能を新たに追加 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書が好きな児童・生徒の割合 小学6年生 70%(R6:-) 中学3年生 70%(R6:-) <div data-bbox="1646 252 2011 322" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>小学6年生 67.1% 中学3年生 62.4%</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによる自主性・協調性・自己肯定感向上の肯定的評価の割合 80%(R6:-) <div data-bbox="1646 593 2011 683" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自主性 99% 協調性 99% 自己肯定感 98%</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合 小学校 90%維持(R6:91.3%) 中学校 87% (R6:86.2%) 高校 85% (R6:83.5%) <div data-bbox="1646 896 2011 986" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>小学校 91.3% 中学校 87.2% 高校 83.9%</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・給食が好きな児童生徒の割合 90%(R6:89.2%) <div data-bbox="1646 1098 2011 1161" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>91.8%</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン甲子園参加チーム数 800チーム(R6:755チーム) <div data-bbox="1646 1305 2011 1369" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>777チーム(3月末)</p> </div>	<p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>教育庁</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>○ 国際交流に興味関心をもつ高校生の英語力のさらなる向上をはかり、留学生との交流やグローバル企業との交流を通じ、海外大学への進学や将来国内外でグローバルに活躍できる人材を育成</p> <p>・学校横断型国際サークル「ふくいグローバルサークル」を創設し、国際交流や英語に興味のある高校生が、学校の垣根を越えて集う機会を提供</p> <p>ふるさととの未来と自らの将来を思い描く力の育成</p> <p>○ 「ふるさと福井CMコンテスト」等を通してふるさと教育を推進し、ふるさとを愛する心と社会に貢献する志を育成</p> <p>・ふるさと福井CMコンテストに小中75校から120作品の応募 ・ふるさとの学びフェアで18校が学習の成果を発表 ・発表動画や取組みを県HPにて公開</p> <p>幼小中高大のトータル教育の推進</p> <p>○ トータル教育のスタート期の充実のため、「学びをつなぐ希望のバトンカリキュラム『ふくい18年教育』」を活用した接続講座や、全ての園、小学校、市町と連携した小学校教諭による保育参観、市町ごとの架け橋カリキュラム研修会を実施 福井県版キャリア・パスポート「夢へのパスポート」を小中高で継続して活用</p> <p>・幼児教育から小学校教育への接続講座 4回実施(うち1回は1ヶ月の動画配信) ・小学校が保育参観実施 176校 ・架け橋カリキュラム研修会実施 17市町 ・「夢へのパスポート」を県HPより電子媒体で配信</p>	<p>・ 海外生徒との国際交流事業参加生徒数(延べ) 3,400人(R6:3,300人)</p> <p>3,331人(3月末)</p> <p>・ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合 児童 90%(R6:85.9%) 生徒 85%(R6:79.0%)</p> <p>小学校81.8% 中学校78.6%</p> <p>・ 将来の夢や希望(目標)を持っている児童生徒の割合 小学校 90%(R6:85.3%) 中学校 70%(R6:68.9%) 高 校 80%(R6:74.9%)</p> <p>小学校 86.0% 中学校 70.8% 高 校 75.6%</p>	<p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>教育庁</p>
<p>【施策1-2】</p> <p>○ 誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの推進</p> <p>すべての子どもが個性を発揮していきいきと学ぶことのできるよう、安心して学ぶことができる居場所をつくとともに、特別支援教育の充実など、子どもの多様性に応じた学びと環境づくりを推進します。</p>	<p>安心して学べる場の充実</p> <p>○ 「校内サポートルーム」を拡充するとともに、サポートルーム支援員連絡協議会での研修・情報交換や、家庭・学校連携サポートブック等を活用し、校内の居場所としての機能充実を促進</p> <p>・不登校の児童生徒の社会的自立や集団への適応を支援するため、不登校児童生徒の多い小学校および中学校に支援員を配置(小学校39校、中学校34校) ・支援員の配置校だけでなく、支援員の配置されていない学校においても支援の参考となるよう、サポートルームの取組みにおける様々な好事例を「校内サポートルーム事例集」として配布</p> <p>○ 児童生徒に「幸福を自ら創り出していく力」を育てることを目的とした「福井県版ポジティブ教育プログラム」を推進し、良好な人間関係を築く力、友だち同士で支え合う力、逆境に負けない心を育成</p> <p>・子どもたち一人ひとりの強みや良さに着目しながら、自己肯定感を高め、社会性の向上を目指すため、希望する地区や小中高校でプログラムを実施</p>	<p>・ 学校は楽しいと思う児童生徒の割合 児童 90%(R6:87.5%) 生徒 90%(R6:87.4%)</p> <p>小学校87.9% 中学校89.6%</p> <p>・ 自分には良い所があると思う児童生徒の割合 児童 90%(R6:85.4%) 生徒 90%(R6:86.0%)</p> <p>小学校87.7% 中学校87.7%</p>	<p>教育庁</p> <p>教育庁</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>○ 新たな学びの場となる県内初の夜間中学(県立若杉中学校)の令和8年4月開校に向け、カリキュラム作成、校章募集、学校説明会、体験授業、入学説明会、生徒募集等を実施し、夜間中学のニーズの掘り起こしと開校準備を推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・県立若杉中学校「校章デザイン募集」を実施(4月～6月実施)し、応募総数108点より決定 ・学校説明会を実施(7月に県内市町5か所で実施)し、延べ59名参加 ・県立若杉中学校を道守高校内に設置(令和7年10月1日) ・体験授業(入学説明会)を実施(10月～12月、県内6か所で計12回実施)し、延べ71名参加 ・生徒募集を実施(10月～12月)し、延べ16名(見込み)の方が最終面接 </div> <p>特別支援教育の推進</p> <p>○ 小・中・高等学校等での特別支援教育におけるスキルアップを図るため、県特別支援教育センター等が主催する研修を受講</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の特別支援教育担当教員を対象とした特別支援教育センター研修講座(全8講座)を開催したほか、新任特別支援学級担当者や小中学校の通級による指導担当者のスキルアップを図る研修会(計5回)などを開催 </div> <p>医療・福祉分野との連携強化</p> <p>○ SCやSSW、教育相談担当教員が児童虐待防止や不登校対策等の対応力向上のため、児童相談所や警察、医療・福祉機関等と連携した研修の実施</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・福井大学医学部付属病院の臨床心理士や精神保健福祉士より、「子どもの情緒と行動を見立てる基礎知識」、「発達・愛着課題がある児童の対応について」等のテーマで研修会を実施(4月、8月、11月に3回開催 参加者延べ308名) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、体験授業の参加人数合計120人(R6:-) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">130名(3月末)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修 給受講者数(延べ)2,500人(R6:2,161人) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">2,596人(3月末)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会参加者の満足度85%以上(R6:-) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">93.1%</div>	<p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>教育庁</p>
<p>【施策1-3】</p> <p>○ 人生を楽しく豊かにする学びの推進</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>子どもからシニアまですべての世代に、生涯学び続けることの楽しさを伝え、様々な学びの機会を確保するとともに、子どもたちが文化芸術・スポーツ活動に親しむ機会を充実するなど、地域における学びの力を高めます。</p> </div>	<p>生涯学習の振興</p> <p>○ 福井ライフ・アカデミー主催事業において、受講者同士の話し合いやワークショップ、ワークシート等を積極的に取り入れるなど、実践につながる学びにより地域への愛着を育み行動を促す機会を充実</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ等の効果的な手法の導入を図るとともに、福井会場の6講座で受講者の変容について事後アンケートによる追跡調査を行い、取組みの成果をまとめたものをホームページやSNSに掲載 </div> <p>○ 県立図書館において、電子書籍の導入や図書資料の充実、デジタルアーカイブ福井による資料の集約・発信、福井ゆかりの作家作品を活用した企画展の実施等により、学びの拠点の機能強化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍サービスを7月にスタートし、約1万点のコンテンツを整備 ・デジタルアーカイブ福井に2機関を新たに集約し、全体として6,548件を追加公開 ・開館10周年を迎え、高見順や三好達治等、ふるさと文学の名品を企画展において展示 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・福井ライフ・アカデミー主催事業受講者の満足度98%(R6:97.5%) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">97.3%</div> <ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館利用者の満足度95%(R6:94.9%) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">96.7%</div>	<p>教育庁</p> <p>教育庁</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>文化芸術・スポーツ活動の充実</p> <p>○ 中学生の文化芸術・スポーツ活動の場の拡大や働き方改革の観点から、県総括コーディネーターの配置や指導者研修会の開催、移行にかかる市町の経費負担に対し支援を行うことにより、休日の部活動の地域移行を推進</p> <div data-bbox="801 245 1599 341" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・指導者研修会を年4回実施し、約210名が参加 ・国のガイドライン策定に先立ち各市町と協議を行い、休日における大会参加のあり方等について県の方向性を決定</p> </div> <p>○ 文化庁主催・日本の技フェアとの共催事業や近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会の開催、文化財の技術者育成や魅力発信につなげる「福井の文化財を未来へプロジェクト」の推進により、文化財に対する興味・関心の向上</p> <div data-bbox="801 456 1599 638" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・現場見学会(7月 西福寺) ・デジタルアートイベントの実施(10月 西福寺、3月 大安寺) ・文化財技術者向け見学会・研修会の実施(8月 若狭彦神社、9・11・3月 中村家住宅、11月 小浜西組) ・民俗芸能福井大会の開催(11月) ・「福井お宝博」の開催(11月)</p> </div> <p>家庭や地域と一体となった教育力の向上</p> <p>○ PTAと連携した地区別研修会において、「生活習慣」や「食」等のテーマで講演や研修を実施し、家庭の教育力向上を促進</p> <div data-bbox="801 762 1599 865" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・坂井、奥越、丹南、嶺南の各ブロックで、「AI時代に求められる新しい学び」、「子どもに本を読む楽しさを伝えよう」等のテーマで講演会を実施(6~7月に4ブロックにおいてそれぞれ開催 参加者延べ606名)</p> </div> <p>ジュニア世代の発掘・育成・強化(再掲:政策12-5)</p> <p>○ 「ふくいジュニアアスリートアカデミー(FJAA)」による有望選手の発掘・育成や、合同競技体験会の開催、県選抜チームやジュニアクラブへの活動支援など、ジュニア世代への支援強化</p> <div data-bbox="801 1008 1599 1110" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・自分の才能や可能性を発見する場として「合同競技体験会」を開催し、316名が参加 ・運動能力が高くトップアスリートを目指す5・6年生72名を対象に、年間を通じて専門的なトレーニング方法などを学ぶ「ふくいジュニアアスリートアカデミー」を開催</p> </div>	<p>・ 休日の活動を地域に移行した部活動の割合 90% (R6:47%)</p> <div data-bbox="1646 245 2013 316" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>90%</p> </div> <p>・ 文化財関連事業への参加人数 2,700人 (R6:-)</p> <div data-bbox="1646 456 2013 526" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5,234人(3月末)</p> </div> <p>・ 地区別研修会参加者の満足度 85% (R6:-)</p> <div data-bbox="1646 762 2013 833" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>89.8%</p> </div> <p>・ ジュニアアスリートアカデミー受講者の全国大会出場者数(年間) 6人 (R6:4人)</p> <div data-bbox="1646 1008 2013 1078" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>10人(3月末)</p> </div>	<p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>交流文化部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策1-4】</p> <p>○基本となる学校環境づくり</p> <p>教職員にとって働きがいと働きやすさを両立する職場環境をつくるとともに、教職の魅力や教員の創意工夫を広く発信します。また、子どもたちの適性に応じた多様なキャリア形成を促すため、特色のある魅力的な学校づくりを推進します。</p>	<p>「ふくいの教育」の魅力発信</p> <p>○教職員・児童生徒が生き生きと活動する様子、教育行政の取組み、教職の魅力についての記事を積極的に発信するとともに、「ふくい教育チャレンジアワード」等で新たな挑戦に取り組む教職員を応援</p> <p>・教職魅力発信ディレクターによる大学生への説明会や、中高生が教員の仕事を体験する「ジュニア先生ワークショップ」を開催 ・「ふくい教育チャレンジアワード2025」に「学びを引き出す部門」70件、「働きやすさ向上部門」14件の合計84件が応募</p> <p>教職員一人ひとりを大切に「働き方改革」の推進</p> <p>○学校経営アドバイザーによる相談事業、教育人材コーディネーターによる人材発掘、働きがいや働きやすさを高める好事例の周知を通して、「働き方改革」を推進 教育人材の確保や学校行事の精選などの業務改善を通して、男性の育児休業取得などを促進し、働きやすい職場環境を整備</p> <p>・学校経営アドバイザー（4名）が県内全小中学校、県立学校を訪問し、学校経営に対して助言 ・教育人材コーディネーターがペーパーチャー説明会を8回開催（参加者56名）</p> <p>特色のある魅力的な学校づくり</p> <p>○体育館空調設置や大規模改修工事による安心して快適な学校づくりを推進するとともに、最新の電子黒板導入やWi-Fi環境の拡大によるデジタル環境の高度化を推進</p> <p>・全ての県立学校のメイン体育館への空調整備に向け、設計および工事に着手（設計13校、工事6校） ・県立学校のリノベーション工事（設計1校、工事5校）を実施 ・県立高校における普通教室の1/3にスライド式の電子黒板を導入 ・県立高校における全ての普通教室のWi-Fiを更新、教室でタブレット端末を利用する約8割の特別教室にWi-Fiを設置</p> <p>○高校の魅力向上を図るため、地域外からの入学者が期待できる高校の寮を整備</p> <p>・勝山高校において、新たな寮が完成（R8.3月） ・丹生高校において、新たな寮の整備に向け、設計に着手</p>	<p>教育関係記事等の発信・掲載件数 1,000件 (R6:-)</p> <p>1,564件 (3月末)</p> <p>・教職員Webアンケートによる仕事に喜びや楽しさを感じている割合 80% (R6:74%)</p> <p>75.6%</p>	<p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>教育庁</p>
<p>【施策1-5】</p> <p>○私立学校の振興</p> <p>私立学校の特色ある教育を応援し、福井の将来を担う人材を育成します。</p>	<p>私立高校や専門学校などの特色ある教育の充実</p> <p>○私立高校の魅力ある学校づくりや学業・スポーツ文化活動、地元定着を促進する取組みを支援</p> <p>・各学校が取組みに係る事業計画書を提出（5月～7月） ・各学校の担当者等にヒアリングを行い計画の進捗状況や内容を確認、成果を評価</p>	<p>・私立高校卒業生県内定着率 4.7% (R6:44.5%)</p> <p>8月公表予定</p>	<p>総務部</p>

政策1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む 児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 86.0% 中学校 84.2% (2024年度)	同左	小学校 83.2% 中学校 82.1% (2025年度)	小学校 90% 中学校 90% (2029年度)	○
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査) (高校生学習状況調査)	小学校 85.3% 中学校 68.9% 高校 74.9% (2024年度)	同左	小学校 86.0% 中学校 70.8% 高校 75.6% (2025年度)	小学校 90% 中学校 80% 高校 80% (2029年度)	○
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う 児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 85.9% 中学校 79.0% (2024年度)	同左	小学校 81.8% 中学校 78.6% (2025年度)	小学校 90% 中学校 85% (2029年度)	○
学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 87.5% 中学校 87.4% (2024年度)	同左	小学校 87.9% 中学校 89.6% (2025年度)	小学校 90% 中学校 90% (2029年度)	○
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 85.4% 中学校 86.0% (2024年度)	同左	小学校 87.7% 中学校 87.7% (2025年度)	小学校 90% 中学校 90% (2029年度)	○

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、―…判断時期未到来

政策2 ふくいの産業・社会を支える人づくり

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策2-1】</p> <p>○地域に愛着を持ち、積極的に貢献する人材の育成</p> <p>新学部・学科の創設、県内大学の魅力・学びの向上、県内大学進学への経済的支援など、学生が県内進学したいと感じる大学づくりを行います。また、将来のUターンを含めた「地元就職・地元進学」の意識を高めます。</p>	<p>魅力的な大学づくり</p> <p>○ 県立大学に「地域政策学部(仮称)」(R8.4)を開設するため、施設整備等を実施</p> <p>・令和7年6月 文部科学省が学部設置届出を受理</p> <p>○ オンラインセミナーや模擬授業の開催、オープンキャンパス、入試情報などバナー広告による配信、デジタルサイネージによる広告掲載等を行い、地域政策学部(仮称)の魅力を発信</p> <p>・フォーラムで模擬授業を実施(7/21):参加者106名 ・オープンキャンパスで進学説明会を実施(8/3):参加者225名 ・福井駅構内でデジタルサイネージによる広告掲載(5月~3月)</p> <p>○ 県立大学に国際センターを整備するため、施設整備等を実施</p> <p>・令和7年4月 国際センター(組織)設置</p> <p>○ 大学の魅力アップにつながる取組みや地域の課題解決・地元企業との共同研究などの事業を実施</p> <p>・県内大学の魅力アップの取組みや学生・教員が企業や自治体と協働して地域の課題解決・共同研究を行う取組みを139件実施</p> <p>○ 大学連携を強化し、県内大学における教養科目の共同化を促進するため、大学連携講義を拡大して実施</p> <p>・Fスクエアにおける大学連携講義を59科目開講(前期30科目、後期29科目)</p> <p>将来のUターンを含めた「地元就職・地元進学」の意識の醸成</p> <p>○ 福井の未来と地域政策を考える「地域デザイン講座」の開催や、県内で活躍する地元OB等との交流機会の充実などにより、地元将来展望と愛着を持って進路を考える意識を向上</p> <p>・県立高校19校において地域デザイン講座を開催 ・地域の普通科系高校・プロ人材高校20校を対象として、地元OBとの交流等の学校独自のライフデザイン教育を支援</p>	<p>・ 地域政策学部(仮称)の開設(R8.4)に向け、4月から詳細設計に着手</p> <p>福井まちなかキャンパスの設計完了</p> <p>・ 地域政策学部(仮称)の県内入学者割合 60%(R6:-)</p> <p>71.6%</p> <p>・ 国際センターの整備に向け、詳細設計に着手</p> <p>「Global Gateway」の設計完了</p> <p>・ 大学の魅力アップにつながる取組みや地域の課題解決・地元企業との共同研究などの件数 100件(R6:-)</p> <p>139件(3月末)</p> <p>・ 県内大学の共同科目の開講数 50件(R6:53件)</p> <p>59件(3月末)</p> <p>・ 将来の県内就職を視野に入れている生徒の割合 中学校 70%(R6:67.0%) 高校 75%(R6:70.9%)</p> <p>中学校 66.2% 高校 70.2%</p>	<p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>教育庁</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>○ 定時制・通信制の生徒対象の、県内企業見学ツアーや合同企業説明会等を実施し、将来県内で活躍する人材として望ましい職業観・勤労観を育成</p> <p>・定時制・通信制7校において企業見学ツアーや就業体験を実施 ・道守高校を会場として合同企業説明会を実施 (県内企業15社・1団体、定時制通信制の生徒および保護者約60名参加)</p> <p>県内大学進学への応援</p> <p>○ 県内高校から県内大学に進学する者の1人暮らしにかかる家賃支援等の経済的支援、地域枠の創設促進などを行うことにより、県内進学を促進</p> <p>・県内進学者への家賃・交通費支援を568件実施 ・県立大学経済学部および地域経済学部の令和8年度入試において地域枠を新設</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県立高校卒業生の県内進学・就職率 48% (R6:8月公表予定) <p>8月公表予定</p> <ul style="list-style-type: none"> 定時制・通信制の就職希望者のうち県内就職希望の割合 96% (R6:95.5%) <p>95%</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内大学の県内出身者入学率 50% (R6:57.5%) <p>5月公表予定</p>	<p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>総務部</p>
<p>【施策2-2】</p> <p>○産学官等の連携強化による地域人材の育成</p> <p>県内の大学・高校や企業、自治体などとの連携により、地域に根ざした教育・研究を推進し、ふくいの未来を創る人材の育成を強化します。</p>	<p>県内大学と産官医金の連携強化</p> <p>○ 大学の魅力アップにつながる取組みや地域の課題解決・地元企業との共同研究などの事業を実施(再掲)</p> <p>・県内大学の魅力アップの取組みや学生・教員が企業や自治体と協働して地域の課題解決・共同研究を行う取組みを139件実施</p> <p>県内企業への就職応援</p> <p>○ 県内就職につながる教育プログラム作成へ着手、県内大学での学びと県内企業のつながりを知る機会の創出などにより、県内大学卒業生の県内就職を促進</p> <p>・県内就職につながる教育プログラムを県内3大学で実施。また、県内大学での学びと県内企業のつながりを知るワークショップ(Feel Fukui's Fun)を3回実施</p> <p>地域拠点校や職業系高校の魅力向上</p> <p>○ 中学生の家庭への職業系学科紹介冊子の配布や、ふくい産業教育フェアの嶺北・嶺南の2会場での開催などにより、職業系高校の魅力を発信</p> <p>・県内すべての中学生(5月に3年生、2月に1・2年生)を対象に、職業系学科紹介冊子を配付 ・ふくい産業教育フェアを嶺北・嶺南会場で開催し、教員、生徒300名が参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大学の魅力アップにつながる取組みや地域の課題解決・地元企業との共同研究などの件数 100件 (R6:-) <p>139件(3月末)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内大学卒業生の県内就職率 53% (R6:54.3%) <p>6月公表予定</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業系高校(8校)のオープンスクール等の参加者数 6,500名 (R6:6,305名) <p>7,084名(3月末)</p>	<p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>教育庁</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策2-3】 ○生涯活躍・成長を続ける人材の育成</p> <p>生涯学習社会の実現に向けて、子どもからシニアまですべての世代に、様々な学びの機会が確保されるよう、学習機会や情報を幅広く提供します。</p>	<p>リカレント教育・リスキリングの充実</p> <p>○ 地元企業の人材ニーズに応じた社会人も受講可能なプログラムを県内大学が実施</p> <div data-bbox="806 274 1599 341" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・社会人を対象としたリスキリングプログラムを20講座開催 ・新たにオーダーメイドのリスキリング講座を2講座開催</p> </div> <p>○ 育休取得者等を含め中小企業の従業員が、スキルアップに役立つ研修を時間や場所にとらわれずオンラインで受講できる環境を整備するため、民間教育機関と連携し個人や企業に学習動画視聴アカウントを低額で提供</p> <div data-bbox="806 466 1599 533" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・視聴アカウントを個人22名、企業従業員160名に提供し、各企業や受講者の要望に沿った講座の学習を支援</p> </div>	<p>・ 地元企業に合わせたオーダーメイドのリカレント・リスキリング講座作成数 1件 (R6:ー)</p> <div data-bbox="1648 274 2013 341" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>2件 (3月末)</p> </div> <p>・ 年間延べ受講者数 240人 (R6:80人)</p> <div data-bbox="1648 466 2013 533" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>182人 (3月末)</p> </div>	<p>総務部</p> <p>産業労働部</p>

政策2 ふくいの産業・社会を支える人づくり

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
県立高校卒業生の県内進学・就職率 (福井県調べ)	47.1% (2023年度)	46.6% (2024年度)	— (8月公表予定)	50.0% (2029年度)	—
将来の県内就職を視野に入れている 生徒の割合 (福井県調べ)	中学校67.0% 高校 70.9% (2024年度)	同左	中学校 66.2% 高校 70.2% (2025年度)	中学校 80% 高校 80% (2029年度)	○
県内大学等卒業者の県内就職率 (福井県調べ)	52.7% (2023年度)	54.3% (2024年度)	— (6月公表予定)	55.0% (2029年度)	—
県内大学の共同科目の開講数 (福井県調べ)	48科目 (2023年度)	53科目 (2024年度)	59科目 (2025年度)	60科目 (2029年度)	◎

(達成度の区分) ◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策3 多様な個性や能力を育み、活かす共生社会の実現

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策3-1】</p> <p>○多様な価値観が認められ自分らしく生きられる社会の実現</p> <p>固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)に気づき、考え、理解し合うための取組みや、障がいの有無や年齢、性別などによって異なる多様な価値観への理解を促進し、誰もが生きやすい社会機運を醸成します。</p>	<p>アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)への気づきと相互理解の促進</p> <p>○ 固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)に気づき、相互理解し合える機運を醸成するため、アンコンシャス・バイアスに関するセミナー開催や県民向け意識啓発のための広報を実施</p> <p>・鯖江市と連携して地域向けセミナーを開催(11/15、1/18) ・企業向けのオンラインセミナーを開催(12/12) ・公共交通機関の中吊り広告でアンコンシャス・バイアスへの気づきを促進(8月)</p> <p>共家事・ラク家事促進によるゆとり時間の創出</p> <p>○ 共家事の促進や家事の外部化による「ラク家事」を促進し、「ゆとり時間」を創出するため、家事診断ツールの開発や家事代行モニター利用キャンペーンを実施</p> <p>・共家事を促進する動画の制作・放映(11月) ・時短家事などのアドバイスが受けられる診断サイトの開発(9月) ・時短家事アイデアコンテストや家事代行モニターキャンペーンの開催(10月~12月)</p> <p>多様なロールモデル(手本となる人物)の発信</p> <p>○ 性別に捉われない自分らしい生き方の実践を後押しするため、様々な分野で自分らしく活躍する女性や女性の活躍を応援する男性リーダーなどをロールモデルとして発信</p> <p>・自分らしく活躍する女性や女性の活躍を応援する男性リーダー10人をInstagram等で発信 ・様々な分野でチャレンジする女性12人に「ふくい女性のチャレンジ賞」を授与</p> <p>障がいのある人もない人も幸せに暮らせる共生社会の実現</p> <p>○ 障がい当事者を講師とした出前講座や、合理的配慮の具体的事例をまとめたパネル等を活用した普及啓発を実施。また、特に民間事業者における合理的配慮を醸成する環境を整備するため、民間施設のバリアフリー化への支援を実施</p> <p>・共生社会に関する出前講座を38回実施、2,622名参加(うち障がい当事者講座17回、582名) ・民間施設のバリアフリー化に対する支援12件、5,520千円交付</p> <p>人権意識の啓発</p> <p>○ 県民の人権意識を高めるため、人権啓発フェスティバルなどの各種イベントや研修会を開催</p> <p>・県民を対象とした人権啓発フェスティバル2025をAOSSA県民ホールで開催(11/30) ・人権教育・啓発講師および事業所人権啓発責任者研修会をオンラインで開催(2/16~3/16)</p>	<p>・性別による役割分担意識 「男は仕事、女は家庭」という考えに賛成の割合 16%未満(R6:17.4%)</p> <p>19.5%</p> <p>・性別による役割分担意識 「男は仕事、女は家庭」という考えに賛成の割合 16%未満(R6:17.4%)</p> <p>19.5%</p> <p>・メディア等で発信される活躍する女性や女性の活躍を応援する男性リーダーの人数 50人(R6:10人)</p> <p>87人(3月末)</p> <p>・民間施設のバリアフリー表示証の交付施設数 40施設(R6:12施設)</p> <p>7施設(3月末)</p> <p>・人権フェスティバル等の参加者数 1,100人(R6:1,020人)</p> <p>998人(3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策3-2】 ○女性の「なりたい自分」や「かなえたいキャリア」の実現に向けた環境づくり</p> <p>女性の採用・育成・登用、働きやすい環境づくりを進める企業を「ふくい女性活躍推進企業」として登録し、登録企業としてのメリットや伴走支援を強化するとともに、女性の“なりたい自分”や“かなえたいキャリア”実現のための支援を充実し、企業の取組みの質を高めます。</p>	<p>経営者等の意識改革とモデル企業の発信</p> <p>○ 県内企業の女性活躍推進に向けた機運を醸成するため、企業経営者等を対象とした講演会・勉強会の開催や、優れた取組みを行う県内企業を発信</p> <p>・県内企業の女性活躍に対する理解促進のため、経営者等を対象に講演会を開催(11/18) ・ふくい女性活躍推進企業優良活動表彰を実施(企業部門3社、個人・グループ部門16件)</p> <p>女性活躍に取り組む企業への伴走支援強化</p> <p>○ 女性活躍推進に取り組む企業の質を高めるため、社会保険労務士等を派遣し、課題分析や解決提案等の助言、女性活躍推進に向けた計画作成支援などの伴走支援体制を強化</p> <p>・コンシェルジュの派遣やメンター制度活用による積極的な企業向け伴走支援を実施</p>	<p>・ 女性活躍をテーマとして県や企業・団体等で実施する講演会やイベントの実施件数 50件(R6:39件)</p> <p>52件(3月末)</p> <p>・ ふくい女性活躍推進企業登録 850社(R6:741社)</p> <p>1,026社(3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p>
	<p>女性の育成・登用を進める企業が受けられるメリットの充実</p> <p>○ 企業における女性が活躍できる環境づくりを加速するため、女性を積極的に登用する企業の顕彰や、女性活躍を進める企業のインセンティブとして、紹介動画作成等の学生向けプロモーションを実施</p> <p>・「女性登用アワード」受賞51社のうち、特に優れた実績の企業4社に奨励金を支給(3/9) ・女性活躍を進める企業5社のPR動画を作成し、県内大学等において放映(9/24~11/30)</p> <p>働く女性のキャリアアップ支援</p> <p>○ 働く女性のきめ細かなキャリア形成を後押しするため、お茶の水女子大学と協働による女性リーダー育成研修を実施</p> <p>・女性リーダー育成研修「ハッピーキャリア“緑”カレッジ」を開講(7/11) ・黒川伊保子氏を招き「部下と上司のコミュニケーション講座」を開催(11/17) ・北陸三県の女性リーダー研修生交流会を初開催(12/19) ・ハッピーキャリア緑カレッジ受講生による成果発表会の実施(1/20~22)</p> <p>L字カーブの改善および男女間賃金格差の是正</p> <p>○ 公正な賃金体系に基づく多様な働き方導入を促進するため、意識改革セミナーやワークショップ開催のほか、企業内の合意形成や体制整備等に向けた専門家チームによる伴走支援を実施</p> <p>・多様な正社員制度の導入に関するセミナーを開催し、71名が参加(8/5) ・県内企業8社に対し、社会保険労務士による伴走支援を実施</p>	<p>・ 企業における女性の管理職割合 20%(R6:-)</p> <p>5月公表予定</p> <p>・ 女性のキャリアアップに関する研修受講者総数 400人(R6:381人)</p> <p>401人(3月末)</p> <p>・ 専門家チームによる伴走支援企業数 8社(R6:-)</p> <p>8社(3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>産業労働部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策3-3】 ○若者のチャレンジ応援</p> <p>新しい感覚と発想をもって地域で活動する若者を育成するとともに、チャレンジを発表する場をつくり、仲間を広げる取組みを応援します。</p>	<p>若者のチャレンジ拡大</p> <p>○「ワクワクチャレンジプランコンテスト」や「チャレンジ応援フェス」の開催など、若者の活動を広く県民に伝える機会を作るなどし、新たに活動する若者を応援</p> <p>・ワクワクチャレンジプランコンテストにおいて19件の団体・個人を支援(うち学生8件)</p> <p>学生・若者の起業意識の醸成</p> <p>○学生・若者の起業意識の醸成を図るため、県内大学等と連携したアントレプレナーシップ(起業家精神)教育を実施</p> <p>・起業家精神を持った若者を増やすため、大学生を対象とした先輩起業家による起業家教育(講義)を県内の大学・高専と連携して実施</p> <p>ふるさと納税を活用したチャレンジ応援</p> <p>○ふるさと納税を活用したクラウドファンディングにより、県内事業者等の課題解決を支援</p> <p>・福井県内の事業者の起業、新商品開発、販路開拓など、地方創生に資する事業プロジェクトとして11件を認定、うち9件が実施</p>	<p>・地域活動に取り組む若者グループ数 170グループ(R6:160グループ)</p> <p>172グループ(3月末)</p> <p>・県内大学でのアントレプレナーシップ教育参加者 200人(R6:195人)</p> <p>980人(3月末)</p> <p>・クラウドファンディング実施件数 15事業(R6:10事業)</p> <p>9事業(3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>産業労働部</p> <p>未来創造部</p>
<p>【施策3-4】 ○社会貢献活動の参加拡大</p> <p>幅広い年代の方が、自分がやりたいことを見つけ実現できるように情報提供を充実するとともに、若者が参加しやすい環境をつくり、人口減少社会においても互いに支え合える持続可能な社会貢献活動を推進します。</p>	<p>「やってみたい」を実践につなげる情報発信</p> <p>○自分の興味関心にあったボランティア活動を見つけやすくするなど、活動分野や参加頻度など多方面から気軽に検索できるよう「福井県社会貢献活動支援ネット」の利便性を向上させることにより、社会貢献活動への参加を促進</p> <p>・社会貢献活動支援ネットについて、10月より詳細な検索機能や必要な情報を拡大する機能を追加するなど、利便性を向上し「ふくボラナビ」としてリニューアル</p> <p>若者が参加しやすい環境づくり</p> <p>○若者が参加しやすい地域活動の企画支援や、初心者向けのボランティアプログラムの充実、デジタル地域通貨「ふくいはぴコイン」を活用した参加のきっかけづくりなど、若者の社会貢献活動への参加を促進</p> <p>・地域活動スタート促進事業補助金により8件の若者ボランティア活動を支援(221人参加) ・ふくいはぴコインの活用により262人の若者がボランティアに参加</p>	<p>・福井県社会貢献支援ネットの閲覧者数 16,000回(R6:14,609回)</p> <p>17,103回(3月末)</p> <p>・県の施策によりボランティアに参加した若者の数 450人(R6:239人)</p> <p>483人(3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>災害ボランティア活動の推進</p> <p>○ 災害ボランティア活動訓練や、災害ボランティアセンターの機能強化研修を実施し、災害時のリーダーやコーディネーターを育成</p> <div data-bbox="801 225 1601 403" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・市町・市町社会福祉協議会ボランティア担当課連絡会※情報提供・意見交換を実施(5/27) ・災害ボランティア団体情報交換会(9/2) ・災害ボランティア講師派遣事業(9/27-28) ・県災害ボランティアセンター設置・運営訓練(11/8) ・災害ボランティア現場コーディネーター養成研修(2/7、2/14) ・災害ボランティアシンポジウム(3/9) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害ボランティア研修の実施 8件 (R6:7件) <div data-bbox="1646 225 2016 293" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>7件(3月末)</p> </div>	<p>未来創造部</p>
<p>【施策3-5】</p> <p>○ 多様な人材が活躍する共生社会の実現</p> <div data-bbox="141 491 759 643" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>障がいの有無や医療等のケアの必要性、国籍・慣習の違いといった一人ひとりを取り巻く状況に関わらず、誰もが安心して暮らし、個性や能力を活かして活躍できる環境づくりを進めます。</p> </div>	<p>障がいのある方の幸せ就労促進</p> <p>○ 付加価値の高い新商品の開発や、WEBサイトでの事業所の情報の魅力発信、農福連携の推進等により、新たな就労機会や社会参加の場を創出し、工賃向上と自己実現を両立する幸せ就労を推進</p> <div data-bbox="801 571 1601 691" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・県内デザイナーの伴走支援により、事業所独自の高付加価値商品を3商品開発 ・3回目となるふくい農福ビジコンを開催し、3事業者を採択 ・新たに農福連携等に取り組む3事業者の就労環境整備を支援(うち1事業所は林福連携の取組み) </div> <p>○ 県内企業に対し障がい者雇用にかかる伴走支援を実施するとともに、障がい者雇用推進員の配置や、企業見学バスツアー、短期の就業体験の実施により、障がい者の就労を支援</p> <div data-bbox="801 799 1601 868" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・県内企業40社に対し、障がい者雇用にかかる伴走支援を実施 ・短期就業を130人が体験し、うち50人が一般企業へ就労 </div> <p>多文化共生社会の形成</p> <p>○ 県内外国人の相談から解決まで寄り添う相談体制の強化に向けて、ふくい外国人相談センターへの総合支援コーディネーター配置と外国人コミュニティリーダーを通じた情報発信</p> <div data-bbox="801 1010 1601 1078" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ふくい外国人相談センターに総合支援コーディネーターを配置(10/1) ・センターにて、外国人住民から1,550件の相談に対応 </div> <p>外国人が安心して働ける環境の整備</p> <p>○ FUKUI外国人材受入サポートセンターにおいて、県内事業者と外国人材双方への相談・支援を行うとともに、外国人労働者の労働・生活環境の改善に係る費用を助成することで外国人材の受入・定着を促進</p> <div data-bbox="801 1220 1601 1289" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・FUKUI外国人材受入サポートセンターにて、1,305件の相談を受付 ・外国人労働者の労働・生活環境の改善に係る費用を助成(補助実績:63件) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ B型事業所平均工賃 全国2位 (R6:全国2位) <div data-bbox="1646 571 2016 639" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>R9.1月公表予定</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者の法定雇用率達成企業の割合 58% (R6:56.7%) <div data-bbox="1646 799 2016 868" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>58.4%</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人相談解決割合 55% (R6:50%) <div data-bbox="1646 1010 2016 1078" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>57.8%</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人労働者数 14,000人 (R6:13,594人) <div data-bbox="1646 1220 2016 1289" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>15,169人(10月末)</p> </div>	<p>健康福祉部</p> <p>産業労働部</p> <p>交流文化部</p> <p>産業労働部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>子どもの多様性に応じた学びや教育環境整備の推進</p> <p>○ 足羽高校、武生商工高校、武生高校定時制に日常会話を補助するコミュニケーションサポーターを配置、日本語能力検定の検定料を補助</p> <div data-bbox="801 229 1601 300" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・足羽高校、武生商工高校、武生高校定時制にコミュニケーションサポーターを配置(8名) ・日本語能力検定の検定料を補助(11名) </div> <p>がん患者が活躍できる環境整備</p> <p>○ がん患者の不安や悩みを軽減するために、同じような療養体験を持つピアサポーターによる相談支援や情報提供、安心して話すことができる環境づくりを推進</p> <div data-bbox="801 440 1601 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポーター養成講座を実施(10/25、10/26) </div> <p>認知症の方の社会参加の場の創出・拡大</p> <p>○ 認知症になってもやりがいを持ち社会で活躍している好事例の取組みを、市町や介護事業所、企業等へ共有することにより理解を深め、認知症の方や家族の声を取り入れた多様な社会参加の場を創出</p> <div data-bbox="801 651 1601 721" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・企業、介護事業所、行政を対象に認知症の方の社会参加セミナーを開催(3/6) ・認知症の方の社会参加ワーキングを開催(3回) </div> <p>人と動物が幸せで楽しく暮らせる共生社会の実現</p> <p>○ 人と動物が幸せに暮らせるための環境づくりを推進</p> <div data-bbox="801 861 1601 983" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットのもしも手帳(R6年度仁愛大学との協働制作物)を各市町、動物病院などを通じて2,000部配布 ・防災訓練や研修会にて、手帳やパンフレットを活用した啓発を実施(8市町16箇所) ・仁愛大学と協働し、シニア世代のペットライフ(R7年度協働制作物)を作成 </div> <p>○ 災害時におけるペットとの同行避難の重要性について県民に周知するとともに、同行避難者の受入態勢の整備を推進</p> <div data-bbox="801 1104 1601 1257" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災イベント等にあわせたペット防災に関する研修会の開催(8/30、10/26、3/8) ・小浜市防災訓練、県総合原子力総合防災訓練および総合防災訓練においてペット同行避難訓練を実施(5/25、10/5、11/8) ・自治体職員、動物愛護推進員、自治会役員等を対象とした研修の実施(受講者計141名) ・県市町開催の避難訓練(7市町)、動物愛護フェスティバル等における啓発の実施 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人生徒の教育環境に対する満足度85%以上(R6:-) <div data-bbox="1646 229 2016 300" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">77%</div> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者のピアサポーター養成者数5人(R6:5人) <div data-bbox="1646 440 2016 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">7人(3月末)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方の新たな社会参加の場の創出(累計)12箇所(R6:7箇所) <div data-bbox="1646 651 2016 721" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">7箇所(3月末)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・動物に関する苦情件数390件(R6:397件) <div data-bbox="1646 861 2016 932" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">432件(3月末)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ペット防災に関する研修会参加者数(累計)240人(R6:168人) <div data-bbox="1646 1104 2016 1174" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">251人(3月末)</div>	<p>教育庁</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>

政策3 多様な個性や能力を育み、活かす共生社会の実現

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
企業における女性の管理職割合 (福井県勤労者就業環境基礎調査)	17.2% (2023年度)	17.5% (2024年度)	— (5月公表予定)	23.0% (2029年度)	—
性別役割分担意識の改善 ※「男は仕事」「女は家庭」に肯定的な考え方 (県民アンケート調査)	17.4% (2024年度)	同左	19.5% (2025年度)	10.0%未満 (2029年度)	△
女性のゆとり時間(有業者平均) (社会生活基本調査)	4時間19分 (2021年)	—	—	4時間45分 (2026年)	—
地域活性化に取り組む若者グループ数 (福井県調べ)	154グループ (2023年度)	160グループ (2024年度)	172グループ (2025年度)	210グループ (2029年度)	○
ボランティア行動者率 (社会生活基本調査)	21.7% (2021年度)	—	— (2027年8月公表予定)	34.0% (2026年)	—
B型事業所平均工賃 (福井県調べ)	全国2位 (2022年度)	全国2位 (2024年度)	— (2027年1月公表予定)	全国1位 (2029年度)	—
障がい者の法定雇用率達成企業の割合 (障がい者雇用状況)	56.7% (2024年度)	同左	58.4% (2025年度)	60.0% (2029年度)	○
外国人相談解決割合 (福井県調べ)	50% (2023年度)	50% (2024年度)	57.8% (2025年度)	80% (2029年度)	○

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策4 子ども・子育ての“よろこび”を次世代につなぐ「ふく育県」の推進

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策4-1】</p> <p>○ 子どもの安全・安心を確保</p> <p>あらゆる環境におかれた子ども・若者一人ひとりに寄り添い、誰も取り残されないきめ細かな支援を実施することにより、子ども・若者主体の社会づくりを進めます。</p>	<p>子どもの権利等に関する理解促進と意見聴取の推進</p> <p>○ WEB上の意見発信フォームや調査・意見交換、専門家による訪問など、子ども・若者が安心して自由に意見や提案を発信できる環境を整備し、施策の充実に向けて様々な環境にある子ども・若者から意見を聴取</p> <p>・Webによるアンケート調査や専門家による訪問、出前講座の機会を捉えた対面での意見交換など、様々な手法により子ども・若者への意見聴取を実施</p> <p>子どもや若者に寄り添う活動に取り組む団体の応援</p> <p>○ 子ども・子育てに関する自主活動に取り組む団体等への応援金を創設し、困難な状況におかれた子どもや若者、子育て世代に寄り添った様々な主体の活動を拡大</p> <p>・ドナーミルクの啓発活動や、多胎育児当事者の支援など、困難な状況に置かれた子ども・若者や子育て世代に寄り添う活動を展開する県内11団体に応援金等を交付</p> <p>養育に困難を抱える家庭に対する支援</p> <p>○ 市町や県が実施する要支援家庭等を対象とした訪問・通所・入所型の家庭支援事業の実施拡大を図るなど、養育に困難を抱える家庭への早い段階からの支援を強化し、児童虐待の未然防止を図る。</p> <p>・子ども家庭センターと家庭支援事業の受け皿となる児童入所施設等との合同会議を開催 ・市町において、令和7年度から延べ8事業を新たに開始</p> <p>子どもの安全・安心のための活動の推進</p> <p>○ 夕方見守り運動協力店の拡大などにより地域の見守りを強化し、安全で安心な地域社会づくりを推進</p> <p>・「夕方見守り運動」の活動に賛同いただける事業所や団体を新たに126店拡大</p> <p>多様な居場所づくりへの支援</p> <p>○ 信頼できる大人や友達と安心して過ごすことができる校内居場所カフェ事業を県内高校で実施するとともに、子ども・若者、支援者等の目線での自主的な居場所づくりを応援</p> <p>・新たに2校において、子どもが安心して過ごすことができる定期的な校内カフェを実施 ・県内の高校生や高校関係者や地域の子ども支援団体が参加した事業報告会を実施</p>	<p>・ 施策の推進にあたり様々な子ども・若者から意見を聴取した人数 1,500人 (R6:-)</p> <p>1,670人 (3月末)</p> <p>・ 子ども・子育てに寄り添う活動を拡充する団体数 10団体 (R6:-)</p> <p>11団体 (3月末)</p> <p>・ 家庭支援事業 (新規3事業) 実施市町数 10市町 (R6:8市町)</p> <p>9市町 (3月末)</p> <p>・ 夕方見守り運動協力店 1,780店 (R6:1,716店)</p> <p>1,842店 (3月末)</p> <p>・ 校内居場所カフェ実施校数 8校 (R6:5校)</p> <p>7校 (3月末)</p>	<p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>防災安全部</p> <p>健康福祉部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>様々な家庭環境(ひとり親家庭や多胎児・医療的ケア児などを育てる家庭)に応じた支援</p> <p>○ ふく育サービス(ふく育さん、ふく育タクシー)の一層の利便性向上と利用促進を図るとともに、産後間もない新生児世帯や、育児負担が大きいひとり親家庭、多胎児・医療的ケア児を育てる家庭等への利用支援を実施</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年4月～3月にこどもを出生した世帯に1,000円分の「ふく育サービス」共通利用券を配付 ・ひとり親家庭、多胎児・医療的ケア児等を育てる家庭に48,000円分の「ふく育サービス」共通利用券を配付 ・「ふく育タクシー」に福祉タクシー事業者5社を加え、医療的ケア児等の送迎に対応 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふく育サービス利用件数 3,000件(R6:1,769件) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">4,861件(3月末)</div>	健康福祉部
<p>【施策4-2】</p> <p>○ 安心の子育て環境を確保</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>移住者も含めた核家族世帯や、ひとり親・多胎児家庭も含めた様々な家庭環境に応じたニーズに対応するため、保育人材などの担い手確保や子育てのきめ細かなサポート体制の充実など、当事者に必要な支援を確実に届ける仕組みづくりを進めます。</p> </div>	<p>様々な子育てニーズに対応する「ふく育サービス」の利用支援</p> <p>○ ふく育サービス(ふく育さん、ふく育タクシー)の一層の利便性向上と利用促進を図るとともに、産後間もない新生児世帯や、育児負担が大きいひとり親家庭、多胎児・医療的ケア児を育てる家庭等への利用支援を実施</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年4月～3月にこどもを出生した世帯に1,000円分の「ふく育サービス」共通利用券を配付 ・ひとり親家庭、多胎児・医療的ケア児等を育てる家庭に48,000円分の「ふく育サービス」共通利用券を配付 ・「ふく育タクシー」に福祉タクシー事業者5社を加え、医療的ケア児等の送迎に対応 </div> <p>すみずみ子育てサポート事業の充実</p> <p>○ 子育てサービス事業者への運営費助成を拡大するとともに、ふく育さんなど訪問型シッターサービスへの助成を拡充し、子育て世帯の負担を軽減</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年4月から補助基準額を1,000円に拡充 ・新たに「一時預かり(訪問型)」の補助メニュー(補助額1,500円)を追加 </div> <p>保育人材の確保</p> <p>○ 保育士試験受験者に対し、保育士試験に合格するために必要な知識とスキルを効果的に習得できるよう対策講座を実施することで保育士試験の合格者を増やし、県内の保育人材を確保</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験対策講座、筆記模試試験、実技試験対策講座、実技模擬試験を実施 </div> <p>アウトリーチ型(訪問型)支援の展開</p> <p>○ 様々な環境におかれた子育て世帯に対して、こども食堂や市町、児童家庭支援センター等が連携し、効果的な情報提供や支援の実施により児童等の見守り環境強化するための研修会や交流会の開催</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・こども食堂、市町、地域のこども支援団体等を対象とした研修会を開催し、市町と地域支援団体の連携を強化 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふく育サービス利用件数 3,000件(R6:1,769件) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">4,861件(3月末)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・すみずみ子育てサポート利用者(延べ) 40,000人(R6:39,007人) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">48,584人(3月末)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士試験合格率 27%(R6:32.5%) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">7月公表予定</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所等の待機児童 ゼロ(R6:ゼロ) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ゼロ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り環境を強化するための研修会参加団体数 50団体(R6:-) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">32団体(3月末)</div>	<p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>子育て支援DXの推進</p> <p>○「ふくアプリ」から「ふく育パスポート」への表示を可能にするなど利便性の向上を図るとともに、妊婦・子育て世帯にとってのお得な情報をプッシュ型で発信</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・「ふくアプリ」から直接「ふく育パスポート」の表示を可能にするなど利便性を向上</p> <p>・「ふくアプリ」を通じて、妊婦・子育て世帯にとってのお得な情報をプッシュ型で発信</p> </div>	<p>・ふく育パスポート会員数 67,000人 (R6:66,000人)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>69,725人 (3月末)</p> </div>	健康福祉部
<p>【施策4-3】</p> <p>○結婚や子育ての希望を応援</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>若い世代が将来に夢を見だし、多様な一人ひとりの夢を応援する風土を醸成します。また、結婚・出産・子育ての希望の実現に向け、恋愛から結婚までの様々な段階での応援や「ゆりかごから巣立ちまで」の切れ目のない支援により、人生の希望をかなえる社会づくりを進めます。</p> </div>	<p>若者の恋愛気運の醸成・出会いの機会の拡大</p> <p>○若者と親に向けた恋愛・結婚に関する情報発信や、マッチングアプリ運営会社と連携した恋愛気運の醸成と出会いの機会の提供、若者のリアルな交流イベント開催の促進により交際を希望する若者の活動を後押し</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・若者向け恋愛応援サイト「ノックノックふくい恋愛診断の扉」の開設およびマッチングアプリ運営会社と連携し、地域鉄道3社において広告を展開</p> <p>・地域おこし協力隊や県支援団体による若者交流イベントの実施 (12件、参加者数348人)</p> </div> <p>人の手によるあたたかな出会いのサポート</p> <p>○「地域の縁結びさん」や県内各地区の「結婚相談員」による結婚相談やお見合い、成婚までのきめ細かなサポートなど、地域のつながりを活かした縁結びを推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・情報交換会や研修会の開催、活動費の支給等を通じて、地域の縁結び活動を推進</p> <p>・地域の縁結びさんおよび結婚相談員による成婚までのサポートの実施 (成婚件数54件)</p> </div> <p>「ふく恋」AIマッチングシステムによる婚活支援</p> <p>○県と市町からなる「ふくい結婚応援協議会」において、「ふく恋」AIマッチングシステムを運用し、出会いの機会を提供するとともに、「ふくい結婚応援企業」と連携してふく恋会員を拡大、「地域の縁結びさん」と連携して会員向けサポートを充実</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・法人割引や20代半額キャンペーンを実施し、会員拡大とマッチングを促進 (成婚件数36件)</p> <p>・スキルアップ講座の実施や婚活イベント周知 (婚活イベントでの成婚件数6件)</p> </div> <p>市町と連携した新婚世帯を対象にした手厚い経済支援</p> <p>○国の交付金を活用した家賃や住宅購入等への補助に加え、使途制限のない支援金を給付することで、市町とともに若い世代の結婚にかかる経済的負担を軽減し結婚を後押し</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・SNS広告や県や各市町の広報誌などの媒体で県内の若者に広く制度を周知 (申請のうち69件が支援制度をきっかけに結婚を決意)</p> </div> <p>プレコンセプションケア (将来の妊娠のための健康管理) や不妊治療支援、産後ケアの充実</p> <p>○若い世代が自分たちの生活や健康に向き合い、ライフプランについて考えてもらう機会をつくり、希望に応じた妊娠・出産のための情報提供や経済的支援を実施、誰もが安心して子育てができる環境をつくるため、母子の心身のケアや育児のサポート等を行う産後ケア事業を推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・ふくいプレ妊活健診事業を開始 (R7.1月～)</p> <p>・不妊治療に係る治療費を助成し、こどもをもつことを希望する夫婦の経済的負担を軽減</p> <p>・居住市町をこえて産後ケアを受けられる体制づくりのため、集合契約を推進</p> </div>	<p>・若者交流イベント参加者数 300人 (R6:-)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>348人 (3月末)</p> </div> <p>・県・市町の結婚応援事業をきっかけとする婚姻件数 200件 (R6:168件)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>165件 (3月末)</p> </div> <p>・県・市町の結婚応援事業をきっかけとする婚姻件数 200件 (R6:168件)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>165件 (3月末)</p> </div> <p>・県・市町の結婚応援事業をきっかけとする婚姻件数 200件 (R6:168件)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>165件 (3月末)</p> </div> <p>・プレ妊活健診受診者 100人 (R6:-)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>102人 (3月末)</p> </div>	<p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>健康福祉部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>「ふく育」応援</p> <p>○ 第2子以降の保育料無償化や在宅育児応援手当の支給、第2子以降の一時預かり利用料等の無償化など、子育て世帯への経済的支援を充実</p> <p>・県内17市町において、第2子以降に対する保育料無償化等の経済的支援を実施</p>	<p>・ ふく育県の評価 72.8%以上 (R6:-)</p> <p>70.4%</p>	健康福祉部
<p>【施策4-4】</p> <p>○ 社会全体で子ども・子育てを応援</p> <p>子ども・子育てイベントの応援や子どもたちがいつでも楽しめる遊び場の整備など、子育てのワクワク感を増大し、子ども・子育てのよろこびへの共感を社会全体に広げていきます。</p>	<p>仕事と家庭の両立に向けた多様な働き方の拡大</p> <p>○ 男性の育児休業や長期の育児短時間勤務、不妊治療休暇など、仕事と家庭の両立に向けた職場環境整備に取り組む県内企業等に奨励金を支給し、多様な働き方を拡大</p> <p>・新たにVR動画を作成するなど男性育休の一層の周知・広報に努め、男性育休奨励金事業の申請件数が343件に増加 (R6:246件)</p> <p>子ども・若者目線での政策形成機運の醸成</p> <p>○ 子ども・若者目線の政策立案の進め方や、意見聴取の心がまえ・事例などを紹介する「子ども・若者政策マインド」のPR版を製作し、県内市町等に共有</p> <p>・「子ども・若者政策マインド」のPR版を製作し、県内市町等に共有するとともに、子ども・若者意見聴取の現場で活用</p> <p>前向きな子育て観の醸成</p> <p>○ 市民主体の子ども・子育て応援イベントのつなぎや情報発信の応援、子ども・若者と乳幼児が触れあう機会を創出</p> <p>・親子で楽しみながら子育て支援策の情報を得られる子ども・子育て応援イベントを開催 ・マスメディアやSNSを活用し、子育てへの前向きなイメージの醸成につながる広報キャンペーンを展開</p> <p>全天候型のこどもの遊び場整備</p> <p>○ 子どもたちや親子が天候にかかわらず地域で安心して過ごせるよう、市町と連携して全天候型の遊び場整備を推進</p> <p>・3市町が新たに事業着手するとともに、坂井市・永平寺町・若狭町で新たに遊び場が開所</p>	<p>・ 男性の育児休業取得率 50% (R6:44.9%)</p> <p>5月公表予定</p> <p>・ 「子ども・若者政策マインド」を全市町に配布</p> <p>全市町に配布</p> <p>・ 子育てに「楽しみや喜び」のイメージを持っている 県民の割合 48% (R6:44.2%)</p> <p>44.5%</p> <p>・ 着手した市町数 17市町 (R6:12市町)</p> <p>15市町 (3月末)</p> <p>・ 合計特殊出生率 全国上位を維持 (R6:1.46)</p> <p>6月公表予定</p>	<p>産業労働部 健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>

政策4 こども・子育ての“よろこび”を次世代につなぐ「ふく育県」の推進

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
合計特殊出生率 (人口動態統計調査)	全国8位 (2023年)	1.46 (2024年度)	— (6月公表予定)	全国上位を維持 (2029年)	—
ふく育県の評価 (県民アンケート)	72.8% (2023年度)	—	70.4% (2025年度)	現状値以上 (2029年度)	○
保育所等の待機児童 (保育所等関連状況とりまとめ)	待機児童ゼロ (2023年度)	待機児童ゼロ (2024年度)	待機児童ゼロ (2025年度)	待機児童ゼロ (2029年度)	○
県・市町の結婚応援事業をきっかけとする婚姻数 (福井県調査)	109件 (2023年度)	168件 (2024年度)	165件 (2025年度)	200件 (2029年度)	△
男性の育児休業取得率 (福井県勤労者就業環境基礎調査)	31.4% (2023年度)	44.9% (2024年度)	5月公表予定	85.0% (2029年度)	—

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策5 稼げる農林水産業で農山漁村の活性化

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策5-1】</p> <p>○希望あふれる次世代の担手を育成</p> <p>大規模経営モデルの育成やスマート技術導入の加速化を進めるとともに、新規就業者や、女性や外国人など様々な担手を確保し、個々の経営体の収益力向上を図ることにより、農林水産業の産出額増加を目指します。</p>	<p>リーディングファームの育成</p> <p>○ 専門家による経営コンサルタントを行い、売上1億円を超えるモデル経営体を育成</p> <p>・経営塾を開催(5回)し、売上1億円を超えるビジネスモデルのプランを作成(7経営体)</p> <p>スマート技術導入の加速化</p> <p>○ 実演会等を開催し、自動操舵システムやドローン等によるスマート農業を推進</p> <p>・ふくいスマート農業セミナーを開催(嶺北、嶺南)し、スマート農機の実演・研修を実施</p> <p>○ 農地の大区画化や自動給水栓の設置などにより、スマート農業を推進</p> <p>・農地の大区画化(2ha程度)や自動給水栓の設置等を推進</p> <p>○ 資源管理の高度化や先端技術を活用した養殖生産モデルの構築などによりスマート水産業を推進</p> <p>・デジタル操業日誌やスマートCTD、定置網モニタリングシステムなどスマート技術導入を支援した結果、スマート技術を活用する水産経営体が36経営体から62経営体増加</p> <p>園芸生産の拡大</p> <p>○ 園芸タウンの整備、大規模施設園芸の推進や植物工場の誘致に加え、小規模農家の園芸支援を図り、園芸算出額を増大</p> <p>・福井地区のネギタウン、坂井地区のブドウタウンの整備が完了 ・国内有数の規模となる植物工場(美浜町)の整備が完了し、8月から稼働を開始 ・愛知県(7月)、千葉県(10月)、東京都(12月)への展示会の出展や個別企業訪問により、283社に対して植物工場の誘致活動を実施 ・規模拡大等を目指す農家19経営体に対して機械や施設導入等を支援 ・小規模農家27経営体に対して機械や施設導入を支援</p>	<p>・ 売上1億円以上の経営プラン作成経営体数(累計) 15経営体(R6:10経営体)</p> <p>17経営体(3月末)</p> <p>・ スマート農業導入面積 8,000ha(R6:7,613ha)</p> <p>8,325ha(3月末)</p> <p>・ スマート農業に対応した基盤整備着手地区数(累計) 6地区(R6:5地区)</p> <p>6地区(3月末)</p> <p>・ スマート技術導入経営体(水産) 47経営体(R6:36経営体)</p> <p>62経営体(3月末)</p> <p>・ 園芸タウン数(累計) 7箇所(R6:5箇所)</p> <p>7箇所(3月末)</p> <p>・ 米・園芸産出額 610億円(R6:598億円) うち園芸236億円(R6:228億円)</p> <p>855億円(3月末) うち園芸235億円</p>	<p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>ふくい型林業経営モデルの展開</p> <p>○ ふくい型林業経営モデルの面的展開を図り、主伐地の集約化による生産性の向上と収益の増加により林業産出額を増大</p> <div data-bbox="801 225 1601 293" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・ふくい型林業経営モデル集約エリアをさらに19地区設定し、生産性の向上に必要な主伐地の集約化を支援</p> </div> <p>収益性の高い漁業経営体の育成</p> <p>○ スマート技術の活用や操業形態の見直し、共同操業、経営統合、法人化、経営の多角化などに取り組むことで、定置網漁業経営体の収益力を強化</p> <div data-bbox="801 612 1601 681" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・定置網の漁網の変更や定置網モニタリングシステムを導入したことにより省力化を実現</p> </div> <p>新規就業者や女性や外国人など農林水産業の人材確保</p> <p>○ 「ふくい園芸カレッジ」や「越前若狭田んぼ道場」等の取り組みに加え、女性の農業への参画・定着促進に向けた環境整備を支援し、新たな担い手を確保</p> <div data-bbox="801 991 1601 1086" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・園芸カレッジでは38名(新規就農コース21名、地産地消コース14名、スマート園芸コース3名)、田んぼ道場では29名が研修を実施 ・農業法人等の女性用の更衣室やトイレを整備</p> </div> <p>○ 福井の林業をPRする動画を作成し、県内外の若者に対して発信することで新規就業者の確保を図るとともに、誰もが働き易く、離職の少ない就労環境を整備して林業従事者を確保</p> <div data-bbox="801 1193 1601 1262" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・福井県の林業の魅力PR動画を制作、県内外に向け発信 ・離職の少ない就労環境の整備のため、林業事業者において能力評価制度をモデル的に構築</p> </div> <p>○ 水産カレッジに加え、新規就業サポートの充実や県内外の若者に対して発信することで様々な人材の活用を推進し、新規就業者を確保</p> <div data-bbox="801 1369 1601 1437" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・水産カレッジでは9名(漁船漁業コース8名、養殖コース1名)の研修を実施 ・就業希望者を対象とした漁業体験研修や、就業後の定着支援資金により、新規就業者を確保</p> </div>	<p>・「ふくい型林業経営モデル」の面的展開地区数(累計) 24地区(R6:14地区)</p> <div data-bbox="1646 225 2018 293" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>33地区(3月末)</p> </div> <p>・林業産出額 28億円(R6:8月公表予定)</p> <div data-bbox="1646 389 2018 458" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>8月公表予定</p> </div> <p>・収益力強化に取り組む定置網漁業経営体 2経営体(R6:1経営体)</p> <div data-bbox="1646 612 2018 681" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>2経営体(3月末)</p> </div> <p>・漁業産出額 101億円(R6:100億円)</p> <div data-bbox="1646 777 2018 845" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>R9.4月公表予定</p> </div> <p>・新規就業者数(農業) 130人(R6:130人)</p> <div data-bbox="1646 991 2018 1059" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>131人(3月末)</p> </div> <p>・新規就業者数(林業) 31人(R6:21人)</p> <div data-bbox="1646 1193 2018 1262" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>24人(3月末)</p> </div> <p>・新規就業者数(水産) 20人(R6:26人)</p> <div data-bbox="1646 1369 2018 1437" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>20人(3月末)</p> </div>	<p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>○ 農業者に対して、外国人材雇用に関する知識習得研修や環境整備の費用を支援するなどし、外国人材の活用を促進</p> <div data-bbox="806 191 1594 311" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア共和国農業省と県との覚書締結(4月) ・農業者への知識習得研修会や現地研修会の開催(7~8月、3回)、外国人材雇用にかかる就労生活環境整備の費用を支援(16件) ・受入農家と関係機関による「ふくい農業外国人材定着推進協議会」設立(12月) </div> <p>環境変化に強い品種の開発・育成</p> <p>○ 高温でも収量や品質が安定する品種を開発</p> <div data-bbox="806 446 1594 518" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・高温でも品質・食味が高く、ハナエチゼンより収量が高い早生品種を開発 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業分野での外国人雇用数(累計) 110人(R6:98人) <div data-bbox="1646 191 2011 263" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>137人(3月末)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナル品種の登録出願 水稲1品種(R6:ブドウ1品種) <div data-bbox="1646 446 2011 518" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>水稲1品種登録出願</p> </div>	<p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p>
<p>【施策5-2】</p> <p>○ふくいの農林水産物のトップブランド化</p> <div data-bbox="138 598 757 750" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>米、そば、地酒、トマト、かに、杉、原木しいたけなど、優れた品質を誇るふくいの農林水産物の認知度を高めることにより、販売額を拡大します。</p> </div>	<p>いちほまれやそばで高品質・良食味産地イメージの定着</p> <p>○ 新米販売開始時期に合わせたCM放映や販売店舗数の拡大により、いちほまれの販売量を拡大するとともに、JAの荷受施設を増加し生産体制を強化</p> <div data-bbox="806 678 1594 774" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・主要都市圏でのCM放映により認知度向上を図るとともに、全国でいちほまれの販売店舗数を3,200に拡大 ・新たに3つの施設が荷受開始 </div> <p>○ そばの全国規模イベント「福井そば博2025」とモバイルスタンプラリーの実施により、「香福の極み 越前蕎麦」の魅力をPR</p> <div data-bbox="806 1037 1594 1109" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・11月の「福井そば博2025・第30回素人そば打ち名人大会」の開催や、7~9月に「香福の極み 越前蕎麦」認証店を巡るモバイルスタンプラリーを実施し、県内外へPR </div> <p>「ふくいの魚」まるごとブランド化とファンづくり</p> <p>○ 事業者と連動したグルメイベントやフェア、キャンペーンなどにより「ふくいの魚」の魅力を発信</p> <div data-bbox="806 1252 1594 1324" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の新幹線停車駅(東京駅、軽井沢駅等)周辺のイベント・フェアにおけるポップアップストア出展や県内量販店との「ふくいのさかなの日」の取組みなど、「ふくいの魚」のPRを実施 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いちほまれ生産面積 2,200ha(R6:1,932ha) <div data-bbox="1646 678 2011 750" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2,211ha(3月末)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米・園芸産出額 610億円(R6:598億円) うち米374億円(R6:370億円) <div data-bbox="1646 853 2011 925" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>855億円(3月末) うち米620億円</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「香福の極み 越前蕎麦認証店」店舗数 165店舗(R6:155店舗) <div data-bbox="1646 1037 2011 1109" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>165店舗(3月末)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ふくいの魚」魅力発信数 10回(R6:8回) <div data-bbox="1646 1252 2011 1324" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>18回(3月末)</p> </div>	<p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>「美食福井」食材の認知度向上と販路拡大</p> <p>○ 首都圏等で情報発信力のある飲食店や高級ホテルや、スーパー等のバイヤーを招聘した産地視察を行うとともに、福井フェアを開催し、県産食材の魅力を発信、活用を促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏および軽井沢の飲食店85店舗において、レストランフェアを実施 ・首都圏スーパー5系列において、福井フェアを実施 </div> <p>ふくいの食品の輸出拡大</p> <p>○ アジア・欧州への営業代行の設置、北陸三県（石川県、富山県、福井県）で連携した販売促進、海外バイヤーとの商談会の実施等により、世界全域へ販路を拡大</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・米国（ニューヨーク、ハワイ）、フランス、ブラジル、シンガポールの5都市において、北陸三県が連携して飲食店、小売店等で北陸フェアを実施 ・フランスの日本酒ディストリビューターを招へいし県内酒造事業者と商談会を実施 ・カンボジアの日系スーパーで開催されたジャパンフェアに出展 </div> <p>県産材の需要拡大</p> <p>○ 産業用資材での用途開発、不燃や防腐など福井独自の技術を活かした高付加価値製品の生産・販売拡大により県産材の需要を拡大</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・産業用資材（トラック床板）での用途開発 ・福井の防腐処理技術と県内外企業とのコラボ商品（ガーデンライトなど3件）の開発 </div> <p>ブランド畜産物の需要拡大</p> <p>○ 若狭牛の生産拡大や福地鶏雄鶏のブランド化などを支援するとともに、畜産PRイベントを活用し、県産畜産物の需要を拡大</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「意欲あるふくいの畜産支援事業」を活用し、県産ブランド畜産物の生産拡大を支援 ・「県産ブランド畜産物消費拡大PR事業」を活用し、PRイベントを開催 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美食福井食材の販売額 110億円 (R6:145億円) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">9月公表予定</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農林水産物・食品輸出額 38億円 (R6:33.8億円) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">6月公表予定</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県産材製品の県外・海外への販売額 2.1億円 (R6:2.0億円) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">2.1億円 (3月末)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 畜産産出額 67億円 (R6:60億円) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">12月末公表予定</div>	<p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p>
<p>【施策5-3】</p> <p>○ 魅力と活力あふれる農山漁村コミュニティの維持</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>半（農・林・漁）半Xなど様々な働き方を提案し、農村RMO（農村型地域運営組織）の形成や海業などを推進することにより、農山漁村コミュニティの活性化と維持を目指します。</p> </div>	<p>集落営農組織の立て直しによる農村の維持</p> <p>○ JA、県の指導員等による「集落営農救援隊」を設置し、経営改善を支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者研修会や中間、実績検討会等の実施 ・指導者向けの手引書、農業者向けの啓発パンフの作成・配布 </div> <p>半（農・林・漁）半Xの拡大による農山漁村の魅力向上</p> <p>○ 簡易な機械で木材生産を行う自伐型林業と森林を活用したトレイルイベントやマウンテンバイクレースの開催など森林ビジネスの展開により『山村地域の活性化』を推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自伐型林業大学の運営や、半林半Xの活動等への支援の結果、自伐型林業実践者が61人から71人に増加 ・自伐型林業を契機として、4名が県外から県内に移住 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落営農救援隊による経営指導 14組織 (R6:8組織) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">14組織 (3月末)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自伐型林業取組者数 (累計) 71人 (R6:61人) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">71人 (3月末)</div>	<p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>農山村の地域活動の継続</p> <p>○ 農村地域における農地や地域資源の保管理を支える共同活動を継続 地域住民等による継続的な里山林の手入れや侵入竹の伐採・除去などの協働活動により、里山林の環境保全を推進</p> <p>・農業者や地域住民が協力して法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の補修、景観形成などの共同活動を実施</p> <p>地域資源を活用した新ビジネス展開</p> <p>○ 農村集落の機能を補完する農村型地域運営組織（農村RMO）の形成により、地域で支え合うむらづくりを推進するため、伴走支援体制の構築や農村RMOのきっかけとなるよう、研修会やワークショップ等を実施</p> <p>・今年度選定した4地区については、6月に全体研修会、7月に現地調査やワークショップ等を開催し、農村RMOの形成に向けた話し合いを実施 ・昨年度選定した5地区（取組2年目）については、外部アドバイザーの派遣を行い、将来ビジョンの策定を支援</p> <p>にぎわいを創出する海業の推進</p> <p>○ 漁港を有効活用した販回り・交流の場づくりや漁家民宿を拠点としたブルー・ツーリズムの開発・磨き上げなどにより海業を推進</p> <p>・各市町に海業担当者を設置し推進体制を整備 ・11月に高浜町で「海業推進全国サミット」が全国で初めて地方で開催され、海業の機運を醸成</p> <p>地域を守る鳥獣害対策</p> <p>○ 県・市町が主体となり農作物被害を与える野生鳥獣（シカ・イノシシ・サル等）を捕獲し、農作物被害の低減を図る。</p> <p>・農作物被害の低減を図るため、県・市町が主体となり農作物被害を与える野生鳥獣（シカ・イノシシ・サル等）の捕獲を実施</p> <p>農山漁村地域の防災・減災機能の向上と基盤整備</p> <p>○ 水田の持つ雨水貯留能力を強化する田んぼダムの取組みを推進</p> <p>・農業者の理解と協力のもと、大雨時に水田に雨水を一時的に貯留し排水路に流れる水量を抑制する取組みを推進</p> <p>○ 施設の適期適切な更新に向けた長寿命化計画の策定を推進</p> <p>・長寿命化計画に基づき優先順位を決定し、長寿命化対策工事を実施</p>	<p>・ 農村集落での共同活動実践集落数 1,280集落 (R6:1,280集落)</p> <p>1,285集落 (3月末)</p> <p>・ 農村RMOモデル育成地区数 5地区 (R6:5地区)</p> <p>4地区 (3月末)</p> <p>・ 新たに漁港・漁村のにぎわいづくりに取り組む地区数 2件 (R6:一)</p> <p>0件 (3月末)</p> <p>・ 野生鳥獣捕獲頭数 20,000頭 (R6:21,707頭)</p> <p>5月公表予定</p> <p>・ 田んぼダムに取組む集落数 100集落 (R6:96集落)</p> <p>111集落 (3月末)</p> <p>・ 長寿命化計画策定箇所数 37箇所 (R6:25箇所)</p> <p>62箇所 (3月末)</p>	<p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>○ 豪雨・耐震補強や水位計設置によるため池対策の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・ため池の改修等による豪雨・耐震補強対策を実施 ・豪雨時の円滑な避難に繋げるため水位計設置によりため池水位情報を発信</p> </div>	<p>・ ため池対策の実施箇所数 11箇所 (R6:2箇所)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>11箇所 (3月末)</p> </div>	農林水産部
<p>【施策5-4】 ○ ふくいの農林水産物への理解促進</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>食育・地産地消や緑と花の県民運動などを通じて、農林水産物の価値や魅力を伝え、消費者の理解醸成と地場産品の利用拡大を図ります。</p> </div>	<p>食育・地産地消の推進</p> <p>○ 県内直売所の地場産農林水産物の品揃えの充実を図り、直売所の魅力を向上させることにより地場産購入を促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・直売所に対し、加工設備導入を支援 ・生産者等と連携し、直売所において試食販売会を実施</p> </div> <p>環境にやさしい農業の展開</p> <p>○ 環境保全型農業支援事業による有機農業等の実施に対する掛かり増し経費や有機農業実施計画の実現への施策に支援するとともに、有機農業に取り組む人材を育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・福井県オーガニック・グリーン農業推進大会を開催 (6/22) ・来年度の「ふくいオーガニック・グリーンアカデミー」開講に向け、プレアカデミー開催 (2回)</p> </div> <p>木を伐って使い、植え育てる機運の醸成</p> <p>○ 木育を進める団体等との連携によるふくいの木づかい運動および木材利用の理解と関心を深める体験型イベント「フクモクフェス」の開催により、県産材の利用を促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・木工体験などふくいの木づかい運動を推進 ・福井県産業会館にて「フクモクフェス」を開催 (9/13、14)</p> </div> <p>県有林でJ-クレジットを創出し、地球温暖化防止を促進</p> <p>○ 県有林において、間伐等の管理活動により達成された温室効果ガス吸収量を国が認証する「J-クレジット」制度に取り組み、クレジット売却益を活かし、より一層の森林管理を推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・共同創出者である三井物産と協定締結 (R7.2月) し、森林管理プロジェクトとして登録を申請 (3月) ・販売開始に向け、関心のある県内企業等を訪問</p> </div>	<p>・ 直売所販売額 60億円 (R6:63億円)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5月公表予定</p> </div> <p>・ 有機農業・特別栽培の取組面積 1,950ha (R6:1,907ha)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1,959ha (3月末)</p> </div> <p>・ ふくいの木づかい運動参加者数 1.8万人 (R6:1.7万人)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>18,364人 (3月末)</p> </div> <p>・ 森林J-クレジットの販売活動 10社 (R6:-)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>10社 (3月末)</p> </div>	<p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p>

政策5 稼げる農林水産業で農山漁村の活性化

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
米・園芸産出額 (福井県調べ)	481億円 (2023年度)	598億円 (2024年度)	855億円 (米) 620億円 (園芸) 235億円 (2025年度)	540億円 (2029年度)	◎
林業産出額 (福井県調べ)	28億円 (2023年度)	28億円 (2024年度)	— (8月公表予定)	32億円 (2029年度)	—
漁業産出額 (福井県調べ)	96億円 (2023年度)	100億円 (2024年度)	— (2027年4月公表予定)	105億円 (2029年度)	—
直売所販売額 (福井県調べ)	54億円 (2023年度)	63億円 (2024年度)	— (5月公表予定)	64億円 (2029年度)	—
新規就農・就業者数 (福井県調べ)	(農業)482人 (林業)115人 (水産)94人 (2020~2023年度)	(農業)130人 (林業)21人 (水産)26人	(農業)131人 (林業)24人 (水産)20人 (2025年度)	(農業)650人 (林業)155人 (水産)100人 (2025~2029年度)	○

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策6 創業・新事業展開の推進

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策6-1】 ○スタートアップの創出・共創</p> <p>スタートアップ創出や共創を推進するとともに、失敗を恐れずにチャレンジできる環境を整え、日本一のスタートアップ活躍社会を目指します。</p>	<p>地域のスタートアップの創出拡大</p> <p>○ 地域課題の解決に取り組む福井型スタートアップの拡大や大学等の有望研究シーズの事業化を支援し、地域のスタートアップ創出を強化</p> <p>・創業や事業拡大に係る補助事業やサービスの利用を通じてスタートアップを支援</p> <p>サービス・製品の積極的活用</p> <p>○ 県政の課題解決に有用なスタートアップのサービス・製品を活用するとともに、県との契約実績を周知することにより市町や民間企業での活用を促進</p> <p>・福井県の産業廃棄物を可視化し流通させるサービスやAIを活用した不登校児支援サービスなどを活用</p> <p>「ふくいイノベーションオフィス」での共創促進</p> <p>○ 「ふくいイノベーションオフィス (FIO)」におけるマッチングイベント開催や、共創可能性のある首都圏有望スタートアップの情報収集の強化などにより、県内の企業との共創を促進</p> <p>・創業を支援するための伴走支援への参加者およびドローン関連事業者によるコミュニティーが形成</p>	<p>・ 県が支援する福井型スタートアップ数 20件 (R6:16件)</p> <p>21件 (3月末)</p> <p>・ 県市町や民間企業での活用 3件 (R6:3件)</p> <p>3件 (3月末)</p> <p>・ FIOにおける共創を促進するWGの設置 2件 (R6:2件)</p> <p>2件 (3月末)</p>	<p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p>
<p>【施策6-2】 ○県外からの投資や人材の呼び込み促進</p> <p>賃金が高く、働きがいがある研究開発型などの企業立地を促進し、県内産業の高付加価値化と投資や人材の呼び込みを促進します。</p>	<p>高付加価値企業の誘致促進</p> <p>○ 本社機能の併設・拡張を有する付加価値の高い企業の投資を促進</p> <p>・U・Iターン者や受け皿となる本社機能や研究開発部門を併設、拡張し、都市圏並みの給与を支給する企業の投資を支援</p> <p>大規模県営産業団地の整備</p> <p>○ 付加価値の高い企業、データセンターや半導体関連企業などの大型投資を呼び込む大規模県営産業団地を福井市、小浜市において整備</p> <p>・関係機関との協議、調整を進め、造成工事に向けた準備を実施</p>	<p>・ 県が支援する研究開発や本社機能機能を有する立地決定件数 10件 (R6:4件)</p> <p>16件 (3月末)</p> <p>・ 3月までに実施設計完了</p> <p>実施設計完了</p>	<p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策6-3】</p> <p>○アンテナショップを活用した県産品販路拡大</p> <p>豊かな自然と生産者のこだわりによって生み出された食品や企業や職人の技術力によって生み出されるものづくり・伝統工芸など、福井県ならではの魅力を首都圏などの大きな市場に拡げていくため、商品開発や販路の拡大を通して企業のチャレンジを推進し、県産品の価値を高めていくとともに、中小企業が首都圏に進出する際の課題を解決し、成長を後押しします。</p>	<p>県産品の商品開発を通じた「伝え手」の増加と県内企業のチャレンジ推進</p> <p>○首都圏のクリエイターやバイヤー等と県内事業者の協働により、国内外で売れる新商品を開発するとともに、商品開発を通して関わった県産品の魅力をクリエイター等から発信してもらうことにより、県内事業者の首都圏進出を支援</p> <p>・新商品開発として、45プロジェクト60商品を支援 ・首都圏デザイナーによるSNSでのプロジェクト紹介等により県産品の魅力を発信</p> <p>県産品の価値を高める販路の開拓</p> <p>○首都圏の富裕層やこだわりを持つ方が多い地域でのコンセプトショップの展開や福井フェアの拡大により、県産品の価値を向上</p> <p>・首都圏の高級スーパーやセレクトショップ、商業施設等を展開する11社が福井フェアを実施</p> <p>アンテナショップを流通・情報発信の拠点とした首都圏での販路拡大</p> <p>○アンテナショップにおいて、新規商品の取扱数の増加に加え、市町と連携したフェアの開催等により飽きさせない店舗づくりを目指すことで、「ふくい食の國291」の好調を維持し、首都圏への県産品の魅力発信を強化</p> <p>・3月末現在の新規商品取扱数403点(前年比108%) ・13市町がフェアを開催し、特産品の試飲試食やワークショップ、限定メニューの提供等を実施 ・3月末現在の売上5.4億円(前年同期比110%)、来館者数62万人(前年同期比110%)</p>	<p>・県産品の新商品売上額 1億円(R6:1億円)</p> <p>1億円(3月末)</p> <p>・フェア等による県産品売上額 1.2億円(R6:1億円)</p> <p>1.3億円(3月末)</p> <p>・「ふくい食の國291」来館者数 56万人(R6:56万人)</p> <p>62万人(3月末)</p>	<p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p>

政策6 創業・新事業展開の推進

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
県が支援する福井型スタートアップ数 (福井県調べ)	13件 (2023年度)	16件 (2024年度)	21件 (2025年度)	40件 (2029年度)	○
本社・研究開発機能移転・拡充決定件数 (福井県調べ)	2件 (2023年度)	4件 (2024年度)	16件 (2025年度)	50件 (2025~2029年度)	◎
県産品の新商品売上額 (福井県調べ)	1億円 (2024年度見込)	1億円 (2024年度)	1億円 (2025年度)	5億円 (2025~2029年度)	○

(達成度の区分) ◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策7 未来志向型の産業革新

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策7-1】 ○持続可能な「未来創造産業」の創出</p> <p>サーキュラーエコノミー（循環型経済）に対応できる脱炭素技術や、将来の需要を先取りできる先進的分野の取組みを推進し、社会課題の解決に貢献できる産業の創出や、時代を先取りした持続可能な新成長産業の創出により企業価値を高めます。</p>	<p>脱炭素技術の開発と資源循環モデルの構築および産業化</p> <p>○脱炭素技術に関する協定を締結した福井大学、産総研等と協力し、ふくいオープンイノベーション推進機構（FOIP）において、脱炭素や資源循環技術に関する情報提供や技術コーディネートを行い、オープンイノベーションによる技術開発を促進</p> <p>・脱炭素に資する技術など、成長分野における県内企業の研究開発・可能性調査を支援</p> <p>宇宙産業の拡大</p> <p>○県・国補助金等を活用し、県内企業による宇宙開発の取組を支援することで、県内企業の宇宙産業への新規参入とビジネスの拡大を促進</p> <p>・県内企業の衛星運用技術習得に係る運用費用等を支援 ・行政分野における衛星データの活用事例を新たに創出</p> <p>ヘルスケア産業からウェルビーイング産業への拡大</p> <p>○医療・介護分野に加え、未病・スポーツ分野における製品開発、販路開拓における課題解決を支援し、成長が見込まれるヘルスケア分野でのビジネス創出を後押し</p> <p>・ヘルスケア分野のコーディネーターが伴走支援を行い、企業の製品開発や販路開拓をサポート ・県内企業の医療機器分野への参入・製品開発を支援するため、福井大学医学部附属病院の協力を得て、医療現場ニーズ発表会および現場見学会を開催</p> <p>プロジェクト研究を通じた自律できる高度理系人材の育成</p> <p>○ふくいオープンイノベーション推進機構（FOIP）において、企業や大学によるプロジェクト研究への参加や、研究機関や大学等の連携によるインキュベーションの仕組みを構築し、企業による新事業の創出と高度理系人材の育成を促進</p> <p>・福井大学、産総研、福井県立大学と脱炭素技術の相互協力に関する協定書を締結し、技術開発や人材育成に関する連携体制を構築</p> <p>脱炭素・資源循環技術の開発およびビジネス化促進</p> <p>○デジタル技術を活用した脱炭素技術や資源循環技術の開発と活用を支援し、県内製造業におけるエシカルな製造工程の確立と事業への応用を促進</p> <p>・「空のカーボンニュートラル」の実現を目指し、(株)IHIおよび産総研と設立した連携研究ラボにおいて、次世代航空機エンジンの軽量化に資する炭素繊維加工技術の共同研究を開始</p>	<p>・脱炭素技術に関する共同研究数 5件（R6：4件）</p> <p>5件（3月末）</p> <p>・宇宙産業に関する共同研究数 4件（R6：4件）</p> <p>2件（3月末）</p> <p>・ウェルビーイングに関する共同研究数 5件（R6：5件）</p> <p>2件（3月末）</p> <p>・FOIPにおける技術開発の若手プロジェクトリーダー（35歳以下）登用件数 2件（R6：-）</p> <p>0件（3月末）</p> <p>・脱炭素や資源循環技術を活用した事業化数 1件（R6：-）</p> <p>5月公表予定</p>	<p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策7-3】 ○伝統工芸や地場産業の振興</p> <p>伝統工芸において、首都圏在住者や外国人富裕層に対する訴求力が高い工房見学や多様な体験メニューの展開により、産業観光の通年化を図り、伝統工芸産地への誘客と産業振興につなげます。また、代表的な地場産業である繊維や眼鏡において、販路開拓や競争力の強化を図るとともに、持続可能なサプライチェーンを構築します。</p>	<p>伝統工芸産地における産業観光受入体制の強化</p> <p>○ 現地ガイドの育成や体験工房の整備等を進めるとともに、都内の富裕層向けセレクトショップと連携したインバウンド向け産地ツアーの実施や首都圏等でのPR活動を展開することにより、伝統工芸産地への誘客を促進</p> <p>・伝統工芸事業者による工房見学や体験メニュー等の整備支援 (5件採択) ・六本木ヒルズにあるセレクトショップでの展示販売 (8月～9月の約1か月間) ・首都圏等の旅行会社を招へいし、現地視察を実施 (2回)</p> <p>越前陶芸村の再整備</p> <p>○ 越前焼の振興と越前陶芸村の活性化について、有識者や地元関係者と議論する場を設け、今後のあり方について検討</p> <p>・8月に検討委員会を立ち上げ、年度内に委員会を4回開催。来年度上半期までに越前陶芸村基本構想を取りまとめる予定</p> <p>地場産業の振興</p> <p>○ 国内外の展示会等への出展支援に加え、産地のブランド力の向上や国際環境認証の取得を後押しすることにより、産地の販路開拓や競争力の向上を促進</p> <p>・産地組合による展示会出展等を支援し、企業の販路拡大を後押し</p> <p>地場産業の構造改善</p> <p>○ 繊維産業のサプライチェーンを守るため、企業の経営課題を掘り起こし、解決に向けた後押しを行うことで、構造改善を促進</p> <p>・専任サポーターが繊維企業を延べ165件訪問し、第三者承継の成約を支援</p> <p>伝統工芸産地における後継者育成の強化</p> <p>○ 産地企業での実技研修に加え、ものづくりにおけるデザインや経営的な視点等を総合的に学ぶ「伝統工芸職人塾」の開催により全国から職人を目指す若者を集めるとともに、若手職人の交流やレベルアップの機会を充実させ産地定着を促進</p> <p>・4月より職人塾技能研修を実施 (長期塾生13名)、座学は6月開講 (計11回実施) ・若手職人を対象としたクラフトコンテストと交流会を実施 (応募数:9点 入賞数:7点) ・伝統工芸品の海外展開をテーマにした専門家によるセミナーを開催</p>	<p>・ 伝統工芸産地入込数 47万人 (R6:42万人)</p> <p>43.5万人 (3月末)</p> <p>・ 3月までに越前陶芸村基本構想の策定</p> <p>8年度中に取りまとめ予定</p> <p>・ 展示会への出展支援数 80件 (R6:79件)</p> <p>78件 (3月末)</p> <p>・ 県内繊維関連企業における事業承継 (第三者承継) の成約件数 3件 (R6:2件)</p> <p>2件 (3月末)</p> <p>・ 職人塾修了生の産地での就業率 90% (R6:100%)</p> <p>100%</p>	<p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策7-4】 ○地域産業を支える人材の確保・育成</p> <p>県内の生産年齢人口が減少する中、県内の多様な人材が最大限に活躍できるよう応援するとともに、県外・国外から人材を呼び込み、地域産業の担い手確保を図ります。</p>	<p>県内労働力を最大限に活用</p> <p>○ シニア人材活躍支援センターにおいて、企業訪問や求人開拓等の機能を強化し、専門的な技術や経験を有するシニア人材と企業とのマッチングを促進</p> <p>・シニア人材と企業のマッチングを支援する企業面接会を5回開催</p> <p>県内企業の採用力強化</p> <p>○ 中小企業における人手不足の抜本的な解決を図るため、採用力の強化に向けて、採用コンサルタントによる伴走型支援を行うとともに、企業独自の採用活動を支援</p> <p>・県内企業における若手人材の採用力向上・定着促進を目的とした、企業と現役大学生のワークショップを開催(62社、大学生12名参加)</p> <p>専門人材の企業での副業</p> <p>○ 専門的な知識、技術を有する副業・兼業人材の活用を促進し、人手不足の解消、企業の課題解決を目指す。</p> <p>・企業向け副業兼業セミナー、企業と人材のオンライン交流会を開催 ・初めて副業・兼業人材を活用する事業所へ、報酬、マッチング手数料等を支援</p> <p>働きやすく、働きがいのある職場環境の整備</p> <p>○ 働きやすい職場環境づくりに取り組む企業を「社員ファースト企業」とし、県内企業の働き方改革に向けた宣言の募集や、宣言企業の取組みへの支援を通じ、県内企業の生産性向上や離職率の低下、正規雇用者増などを促進</p> <p>・県内企業における働きやすい職場環境づくりの促進を目的に、研修実施やテレワーク導入に係る費用を支援(19社)</p> <p>継続的な賃上げの実現</p> <p>○ 継続的な賃上げの実現に向けて、政労使が一丸となって取り組むための意見交換を行い、成長と分配の好循環を目指す。</p> <p>・行政・経済団体・労働団体での継続的な賃上げ実現のための意見交換会(R7.6.13)や地方版政労使会議(R8.1.22)を実施</p> <p>学び直しやリスクリングなど「人への投資」の促進</p> <p>○ リスクリングの機会を拡大し、県内産業人材の底上げを図るため、ふくいNEW経済ビジョン策定委員と連携した完全オンラインの基礎的なリスクリング講座を開講</p> <p>・論理的思考力や発想力の養成を中心とした、全9種類の講座を提供 ・ビジネスパーソンに必須のスキルを学ぶ講座への参加を通じて、県内人材のリスクリングを促進</p>	<p>・シニア人材活躍支援センターを通じた高齢者の就職人数 70人(R6:57人)</p> <p>40人(3月末)</p> <p>・採用力強化を支援する企業数 20社(R6:10社)</p> <p>26社(3月末)</p> <p>・初めて副業・兼業人材を活用する県内企業数 20社(R6:-)</p> <p>22社(3月末)</p> <p>・「社員ファースト企業」宣言企業数 980社(R6:846社)</p> <p>1,279社(3月末)</p> <p>・最低賃金における北陸三県内の格差是正(R6:2~3円の是正)</p> <p>格差縮小(5円の是正)</p> <p>・リスクリング講座の受講者数 620人(R6:615人)</p> <p>423人(3月末)</p>	<p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p><u>職業訓練、技能継承の強化</u></p> <p>○ 福井・敦賀産業技術専門学院において正規化を目指す企業実習付訓練を実施するなど、職業訓練の充実・強化を図るとともに、職人等の技能や技術・知見の継承を強化し、人手不足解消に向けた産業人材の育成を促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・企業実習付き訓練を6コース実施</p> <p>・機械、電気系の技能習得を中心とした訓練を12コース実施</p> </div>	<p>・ 公共職業訓練 受講者数 1,300人(R6:1,327人)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>1,261人(3月末)</p> </div>	<p>産業労働部</p>

政策7 未来志向型の産業革新

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
製造業の1人当たり付加価値額 (経済構造実態調査より県算出)	1,065万円 (2023年度)	1,108万円 (2024年度)	1,182万円 (2025年度)	1,283万円 (2029年度)	○
脱炭素技術に関する共同研究数 (福井県調べ)	5件 (2023年度)	4件 (2024年度)	5件 (2025年度)	25件 (2025~2029年度)	○
宇宙産業に関する共同研究数 (福井県調べ)	4件 (2023年度)	4件 (2024年度)	2件 (2025年度)	20件 (2025~2029年度)	△
ウェルビーイングに関する共同研究数 (福井県調べ)	5件 (2023年度)	5件 (2024年度)	2件 (2025年度)	25件 (2025~2029年度)	△
伝統工芸産地入込数 (福井県調べ)	38万人 (2023年度)	42万人 (2024年度)	43.5万人 (2025年度)	60万人 (2029年度)	○
「社員ファースト企業」宣言企業数 (福井県調べ)	521社 (2023年度)	846社 (2024年度)	1,279社 (2025年度)	1,500社 (2029年度)	◎

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、―…判断時期未到来

政策8 世界のふくいファンを拡大

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策8-1】</p> <p>○ふくいの農林水産物を世界へ</p> <p>人気が高い日本酒のほか、米などの農林水産物や菓子類を含めた加工品を中心に、世界全域への販路を拡大します。</p>	<p>ふくいの食品の輸出拡大(再掲)</p> <p>○ アジア・欧州への営業代行の設置、北陸三県(石川県、富山県、福井県)で連携した販売促進、海外バイヤーとの商談会の実施等により、世界全域へ販路を拡大</p> <p>・米国(ニューヨーク、ハワイ)、フランス、ブラジル、シンガポールの5都市において、北陸三県が連携して飲食店、小売店等で北陸フェアを実施 ・フランスの日本酒ディストリビューターを招へいし県内酒造事業者と商談会を実施 ・カンボジアの日系スーパーで開催されたジャパンフェアに出展</p> <p>県産材の輸出拡大(再掲)</p> <p>○ 台湾での大規模展示会の出展や商談会の開催に加え、インドネシア現地法人との連携によるショールームでの常設展示により、県産材の輸出を拡大</p> <p>・台湾において、内外装材を大規模展示会へ出展(12/11~14)、セミナー・商談会等を開催(3/12・13) ・インドネシアにおいて、現地法人と連携し、家具などを常設展示</p>	<p>・ 農林水産物・食品輸出額 38億円(R6:33.8億円)</p> <p>6月公表予定</p> <p>・ 県産材製品の海外への販売額 5千万円(R6:4.5千万円)</p> <p>3,4千万円(3月末)</p>	<p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p>
<p>【施策8-2】</p> <p>○魅力あるふくいの伝統工芸や技術を世界に伝える</p> <p>波及力の高い国・地域において本県の伝統工芸の魅力や質の良さを伝え、海外向けの販路を拡大するとともに、商品に触れることをきっかけとして本県への認知を作り出し、世界からの交流人口を拡大します。</p>	<p>モノづくりふくいの売込み</p> <p>○ 在日フランス商工会議所等、海外にネットワークを有する機関との連携による商談やマッチングの場の創出、海外展示会等への出展支援により、海外販路開拓を促進</p> <p>・在日フランス商工会議所と連携したネットワーキングイベントを開催し、県内企業13社が参加 ・県内企業8社(3社によるグループ1件、個社5件)に対し、海外展示会出展を支援</p> <p>海外の熱心なファンの獲得</p> <p>○ 海外の展示会出展等により伝統工芸の魅力を発信するとともに、販路開拓と産地への誘客を促進</p> <p>・イタリアのミラノデザインウィークやファエンツァ日本祭りにて福井の伝統工芸品を展示 ・伝統工芸事業者の海外での展示会出展を支援(3件)</p> <p>新たな国・地域への進出</p> <p>○ 経済団体や関係機関と協力しながら、世界や日本の中での福井県の現状調査と分析を行い、効果的な海外展開支援の方策を検討</p> <p>・県内企業を対象に海外展開に関するアンケート調査を実施し、607件の回答を収集・分析 ・外国企業を対象に日本製品および県内製品に関するアンケート調査を実施し、回答収集中</p>	<p>・ 新規輸出件数 85件(R6:84件)</p> <p>104件(3月末)</p> <p>・ 伝統工芸品の海外販路開拓件数 10件(R6:-)</p> <p>12件(3月末)</p> <p>・ 3月までに海外展開支援の方策の決定</p> <p>海外展開支援の方針を決定</p>	<p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>駐日大使館や在外公館と協力した県産品の売込み</p> <p>○ 県海外事務所(上海・バンコク)等を通じ、アジア・環日本海諸国をはじめ海外の在外公館に県産品をPRするほか、駐日大使館に対しても県産品をPRすることで、海外販路開拓を促進</p> <p>・県内企業からの海外販路開拓や拠点運営等に関する相談対応を890件実施 ・THAIFEX、FOOD TAIPEI、Food Japanへの参加により、県内企業延べ6社の販路開拓を支援</p>	<p>・ 新規輸出件数 85件 (R6:84件)</p> <p>104件 (3月末)</p>	産業労働部
<p>【施策8-3】</p> <p>○ 港を活かした貿易・交流の拡大</p> <p>南海トラフ巨大地震等の大規模災害時に太平洋側の主要港代替機能を果たすことも視野に入れた定期航路の誘致や、海外クルーズ客船の誘致を推進し、物流・人流を拡大します。</p>	<p>敦賀港・福井港の営業強化</p> <p>○ 定期航路の増便や新規航路の開設に向けて、航路運航会社への営業活動の強化や、荷主・物流事業者への助成</p> <p>・既設定期航路の増便や新規航路の誘致に向けて、取扱貨物量の増大を図るため、新たに敦賀港を利用する荷主や物流企業に対する支援メニューの充実、年間約500件の企業訪問を実施</p> <p>海外クルーズ客船のおもてなし強化</p> <p>○ 富裕層向けの豪華客船の誘致に向け、乗船客への訴求力の高い伝統工芸などの体験ツアーを充実させ、船会社への誘致を強化</p> <p>・クルーズ船社や船社代理店への訪問面談やWEB面談のほか、船社のキーマンを県内に招聘し、敦賀港・福井港の港湾施設、県内観光地を紹介</p> <p>新たな海外クルーズ客船の誘致に向けた受入環境整備</p> <p>○ 川崎松栄地区でのクルーズ受入れ体制確保に向け、係留施設改良整備等の検討や関係者との調整に着手</p> <p>・係留施設の改良に係る設計を実施 ・既存施設の有効利用も含めたクルーズ船受入レイアウト素案を作成し、関係者と協議を着手</p>	<p>・ 新たな荷主への助成件数 15件 (R6:15件)</p> <p>12件 (3月末)</p> <p>・ クルーズ船寄港回数 10回 (R6:2回)</p> <p>10回 (3月末)</p> <p>・ 係留施設(係船柱、防舷材)の改良設計やクルーズ船受入レイアウト作成</p> <p>係留施設の改良設計、受入レイアウト素案を作成し、関係者と協議を着手</p>	<p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>土木部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策8-4】 ○外国人が安心して暮らし、働ける環境づくり</p> <p>少子高齢化による労働市場の縮小が予想される中、県内企業等の優秀な外国人材の確保を支援するとともに、増加する外国人住民一人ひとりが、国籍や在留資格にかかわらず同じ「地域の担い手」として地域社会に受け入れられ、必要なサービスを楽しみ、地域貢献活動に参画できる多文化共生社会の形成を推進します。</p>	<p>高度外国人材の育成</p> <p>○ 海外の人材育成機関と連携した「福井クラス」において、福井県の地域性などを学んだ高度外国人材等の受入れを推進するとともに、FUKUI外国人材受入サポートセンターでの相談・支援により高度外国人材の受入・定着を促進</p> <p>・県内企業と外国人留学生等とのマッチング機会の創出を目的とした合同企業説明会を3月15日に開催</p> <p>外国人が安心して働ける環境の整備(再掲)</p> <p>○ FUKUI外国人材受入サポートセンターにおいて、県内事業者と外国人材双方への相談・支援を行うとともに、外国人労働者の労働・生活環境の改善に係る費用を助成することで外国人材の受入・定着を促進</p> <p>・FUKUI外国人材受入サポートセンターにて、1,305件の相談を受付 ・外国人労働者の労働・生活環境の改善に係る費用を助成(補助実績:63件)</p> <p>ふくいと世界をつなぐグローバル人材育成のための学びの推進</p> <p>○ 国際交流に興味関心をもつ高校生の英語力のさらなる向上をはかり、留学生との交流やグローバル企業との交流を通し、海外大学への進学や将来国内外でグローバルに活躍できる人材を育成</p> <p>・学校横断型国際サークル「ふくいグローバルサークル」を創設し、国際交流や英語に興味のある高校生が、学校の垣根を越えて集う機会を提供</p> <p>多文化共生社会の形成</p> <p>○ 県内外国人の相談から解決まで寄り添う相談体制の強化に向けて、ふくい外国人相談センターへの総合支援コーディネーター配置と外国人コミュニティリーダーを通じた情報発信</p> <p>・ふくい外国人相談センターに総合支援コーディネーターを配置(10/1) ・センターにて、外国人住民から1,550件の相談に対応</p>	<p>・ 専門的・技術的分野の在留資格を持つ高度外国人材数 2,760人(R6:2,392人)</p> <p>3,235人(10月末)</p> <p>・ 外国人労働者数 14,000人(R6:13,594人)</p> <p>15,169人(10月末)</p> <p>・ 海外生徒との国際交流事業参加生徒数(延べ) 3,400人(R6:3,300人)</p> <p>3,331人(3月末)</p> <p>・ 外国人相談解決割合 55%(R6:50%)</p> <p>57.8%</p>	<p>産業労働部</p> <p>産業労働部</p> <p>教育庁</p> <p>交流文化部</p>

政策8 世界のふくいファンを拡大

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
新規輸出件数 (福井県調べ)	79件 (2023年度)	84件 (2024年度)	104件 (2025年度)	105件 (2029年度)	◎
クルーズ客船寄港回数 (福井県調べ)	1回 (2023年度)	2回 (2024年度)	10回 (2025年度)	10回 (2029年度)	○
福井で働く外国人労働者 (福井労働局調べ)	1.1万人 (2023年度)	1.3万人 (2024年度)	15,169人 (2025年度)	2.1万人 (2029年度)	○
世界全域への農林水産物・食品輸出額 (福井県調べ)	30億円 (2023年度)	33.8億円 (2024年度)	— (6月公表予定)	54億円 (2029年度)	—

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策9 北陸新幹線効果を最大化・持続化

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策9-1】 ○観光地としての価値の向上</p> <p>本県が有する観光資源のストーリー化や観光地のさらなる磨き上げ、旅の目的となる上質な宿泊施設の整備など、国内外の旅行者に選ばれる質の高い観光地域づくりを推進します。</p>	<p>「面」で楽しむ観光地域づくり</p> <p>○ 坂井市が実施する誘客拠点施設の整備や駐車場の一元化など、東尋坊再整備基本計画に基づく各種事業を支援</p> <p>・駐車場一元化工事、交通広場・アクセス広場の整備、既存商店街の改修を実施 ・マルシェ(10月)の開催支援を行い、約4,500人が参加するなどエリアの賑わいを創出</p> <p>宿泊地として選ばれる観光地化</p> <p>○ 観光資源を活かしたコンセプトルームへの改修や、旅の目的となる上質な民宿への改修など、多様かつ魅力的な宿泊施設の整備を支援</p> <p>・市町とともに各宿泊事業者を現地面談し、専門家の助言内容を反映した施設の改修を支援</p> <p>文化芸術観光・スポーツツーリズムの振興</p> <p>○ 国内外のアーティストが参画する「熊川宿若狭芸術祭」を拡充し、本県の文化芸術の魅力を発信するとともに、文化芸術を通じた国際交流の機会を創出</p> <p>・「熊川宿若狭芸術祭2025」を開催し(8~11月)、約7,000人が来場</p> <p>○ 嶺南6市町を結ぶ若狭湾サイクリングルートの整備を進め、サイクルツーリズムを推進</p> <p>・インバウンドサイクリングツアー誘致に向けてモニターツアー3回実施(うち2事業者がR8でツアー催行予定) ・サイクリスト受入体制強化に向けた若狭湾サイクリングルート整備事業補助金による支援10件 ・安全・安心な走行環境整備のため法面対策や案内看板の情報強化</p>	<p>・ 観光客入込数 2,020万人 (R6:2,069万人)</p> <p>6月公表予定</p> <p>・ 宿泊施設改修の支援件数 38件 (R6:27件)</p> <p>28件(3月末)</p> <p>・ 熊川宿若狭芸術祭の来場者数(延べ) 4,000人 (R6:3,050人)</p> <p>7,041人(3月末)</p> <p>・ レンタサイクル・シェアサイクルの稼働台数 21,800台 (R6:20,800台)</p> <p>19,162台(3月末)</p>	<p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>嶺南振興局</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>恐竜博物館を核とした「恐竜の聖地化」の推進</p> <p>○ 開館25周年に合わせた恐竜博物館のコンテンツ充実、国際会議の開催に加え、大阪・関西万博における恐竜王国福井のPRや団体旅行誘致強化等により、国内外からの来館を促進</p> <div data-bbox="801 252 1601 566" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【恐竜博物館関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポケモン化石博物館 (3/8~5/25) ・開館25周年記念特別展「獣脚類2025」(7/11~11/3) ・アジア恐竜国際シンポジウムの開催 (9/26~28) ・ナイトミュージアム (12/11~14) ・トップショコラティエとの連携によるチョコレート恐竜の展覧会 (12/19~2/23) ・3面ダイノシアター3作目「夜の展示室編」公開 (2/1~) ・恐竜博物館営業マネージャーと連携した団体旅行誘致活動 (10月~) <p>【万博関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪・関西万博関西パビリオンに福井県ゾーン「恐竜王国福井」を出展した他、市町と連携したPR催事や1日限りの特別ステージ「恐竜王国福井DAY」の開催により目標を超える40万人に福井の魅力を発信 (4/13~10/13) </div> <p>悠久の歴史を誇る「千年文化」の発信強化</p> <p>○ お城など福井の歴史の強みを活かした全国規模のイベントを開催し、歴史ツーリズムの活性化を促進</p> <div data-bbox="801 710 1601 778" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・10/25・26小浜市にて越前若狭お城フェス2025を開催 (講演会やブース出展のほか、6市町の山城を巡るツアーやJR小浜線御城印キャンペーンなど嶺南全域のお城を盛り上げ) </div> <p>映像作品を通じた観光消費拡大</p> <p>○ 映画やテレビドラマ、CM等の誘致を進め作品を通じた誘客促進と認知度向上を推進</p> <div data-bbox="801 917 1601 1098" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ロケ誘致や支援を行い35案件撮影</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画「ライフセーバー!」(8~9月撮影) ・映画「KEFI」公開 (12月撮影) ・ドラマ「ふたりエスケープ」(6月撮影) ・アニメ「千歳くんはラムネ瓶のなか」 ・「池の水抜いてみた大作戦」(8月撮影) 等 </div> <p>MICEの誘致強化</p> <p>○ 福井県観光連盟が国際商談会等に参加し、国際会議や学会などを誘致</p> <div data-bbox="801 1236 1601 1343" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・コンベンションの誘致や開催支援を行い108件開催 ※うち、1,000人以上の大規模コンベンションは13件 ※うち、国際コンベンションは12件 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恐竜博物館の年間の来館者数 130万人 (R6:126万人) <div data-bbox="1646 252 2011 320" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>129万8,975人 (3月末)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ お城フェスの来場者数 1万人 (R6:1万人) <div data-bbox="1646 710 2011 778" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1万人 (3月末)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 映画やドラマ、CM等の誘致件数 35件 (R6:29件) <div data-bbox="1646 917 2011 986" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>35件 (3月末)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内宿泊者数 372万人 (R6:403万人) <div data-bbox="1646 1236 2011 1305" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>387万人 (速報値)</p> </div>	<p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策9-3】 ○世界に選ばれる魅力づくり</p> <p>外国人観光客の誘客と交流人口の拡大のため、国別などターゲットに応じた情報発信、広域による周遊観光のほか、富裕層の誘客により、世界に福井を売り込みます。</p>	<p>外国人観光客に対する訴求力が高い体験や情報の充実</p> <p>○外国人旅行者がやってみたいと思う体験を増やし、宿泊につながる旅行商品や体験コンテンツの造成、販売を拡大</p> <p>・外国人旅行者がよく利用するOTA(オンライン旅行会社)に54件のコンテンツを登録</p>	<p>・外国人宿泊者数 140,000人(R6:89,040人)</p> <p>110,240人(速報値)</p>	交流文化部
	<p>広域周遊観光の促進</p> <p>○近隣の自治体やDMO、交通機関などと連携し、外国人旅行者に刺さる観光コースの造成や宣伝を行い、外国人旅行者を本県に誘客</p> <p>・JRきっぷと県内宿泊等を組み合わせた旅行商品を造成・販売(4コース) ・石川県や滋賀県等と連携し、海外の旅行博に共同出展(香港、タイ、インドネシア、アメリカ)</p>	<p>・外国人宿泊者数 140,000人(R6:89,040人)</p> <p>110,240人(速報値)</p>	交流文化部
	<p>中部縦貫自動車道を活かした誘客強化</p> <p>○中部縦貫自動車道により周遊性の向上が見込まれる福井県・岐阜県間のルートを外国人旅行者に周知し、定番ルートとして定着を図ることで誘客促進</p> <p>・JRが販売する訪日外国人向けの周遊バスと県内観光施設等で利用できるクーポンをセットにした旅行商品を造成・販売</p>	<p>・外国人宿泊者数 140,000人(R6:89,040人)</p> <p>110,240人(速報値)</p>	交流文化部
	<p>富裕層をターゲットにした誘客戦略</p> <p>○インバウンドの富裕層獲得のため、商品開発や販路拡大、受入環境づくりを行う県内のDMC等に対し、外部専門家による伴走支援を実施</p> <p>・県内6団体(DMO/DMC)に対して、外部専門家が課題分析や今後の事業展開に向けた助言等を実施</p>	<p>・外国人宿泊者数 140,000人(R6:89,040人)</p> <p>110,240人(速報値)</p>	交流文化部
<p>外国人観光客の目線に立った受入環境の整備</p> <p>○多言語観光案内標識等の整備を行う市町を支援</p> <p>・県内4市町に対して、観光案内版の多言語化等を支援</p>	<p>・外国人宿泊者数 140,000人(R6:89,040人)</p> <p>110,240人(速報値)</p>	交流文化部	

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策9-4】 ○みんなが幸せになる観光の推進</p> <p>県民が観光と接点を持つことにより、地域に対する自信と愛着を高め、旅行者や観光事業者だけでなく、県民にとっても幸せな福井の観光を目指します。</p>	<p>県民の幸せ向上</p> <p>○ 県内の観光ボランティアガイドの交流会や研修会の実施を支援し、地域の魅力の再発見や地域に対する自信と愛着の向上に寄与</p> <p>・福井の語り部ガイド発表・交流会の実施(66名14団体が参加) ・先進地視察研修の実施(70名26団体が参加)</p> <p>事業者の幸せ向上</p> <p>○ 福井県版DMOが主体となり、地域の観光を担うプレイヤー支援やマーケティング調査・分析を行うことにより、地域が一体となって観光に取り組む基盤づくりを推進(再掲)</p> <p>・インバウンド向けツアーの造成や地域の伝統・文化を体験できるコンテンツの造成など、新たな観光コンテンツの開発や既存コンテンツの磨き上げを12件支援</p> <p>旅行者の幸せ向上</p> <p>○ 旅行者の求めるテーマに沿った質の高い旅行商品を造成するとともに、知識が豊富で広域的な案内が可能なガイドを育成</p> <p>・旅行商品を造成した事業者に講師を派遣 ・事業者と観光ガイドの研修会および交流会を実施し、質の高い旅行商品の造成を支援(5社)</p>	<p>・ 観光客入込数 2,020万人(R6:2,069万人)</p> <p>6月公表予定</p> <p>・ 観光消費額 1,400億円(R6:1,513億円)</p> <p>6月公表予定</p> <p>・ 観光客入込数 2,020万人(R6:2,069万人)</p> <p>6月公表予定</p>	<p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p>

政策9 北陸新幹線効果を最大化・持続化

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
観光消費額 (福井県観光客入込数統計)	1,225億円 (2023年)	1,513億円 (2024年)	— (6月公表予定)	1,700億円 (2029年)	—
観光客入込数 (福井県観光客入込数統計)	1,760万人 (2023年)	2,069万人 (2024年)	— (6月公表予定)	2,100万人 (2029年)	—
宿泊者消費単価 (福井県観光客入込数統計)	21,587円 (2023年)	24,913円 (2024年)	— (6月公表予定)	27,000円 (2029年)	—
県内宿泊者数 (観光庁宿泊旅行統計調査)	324万人 (2023年)	403万人 (2024年)	387万人 (2025年速報値)	450万人 (2029年)	○
外国人宿泊者数 (観光庁宿泊旅行統計調査)	6.5万人 (2023年)	92,190人 (2024年確報値)	110,240人 (2025年速報値)	40万人 (2029年)	△

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策10 交流を広げる基盤整備

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策10-1】</p> <p>○北陸新幹線など高速交通網の整備促進</p> <p>北陸新幹線や中部縦貫自動車道など、高速交通網の整備を促進します。</p>	<p>北陸新幹線の整備促進</p> <p>○ 1日も早い認可・着工および全線開業に向け、沿線自治体・経済界と連携して、地元の理解促進や財源議論等を加速するよう、政府・与党に要請。関西など沿線の機運醸成に向けて、イベントやYoutube、新聞広告等を通じて小浜京都ルートの必要性を発信</p> <p>・早期に詳細な駅位置・ルートを決定し、令和8年度政府予算に着工予算を計上するよう、沿線の関係者と連携して政府・与党に要請 (5/12、6/4、10/30、11/19、11/21、12/15、3/9)</p> <p>・フォーラム(12/20)や京都駅・大阪駅でのPRイベント(4月、9月)、Youtubeにおけるニュース番組風理解促進動画の配信(11月～)、新聞広告(11月)、ファミマビジョンへの広告放映(2月～3月)など、関西など沿線の機運醸成に向けて整備効果等を発信</p> <p>福井を拓く高規格道路の整備促進</p> <p>○ 中部縦貫自動車道大野油坂道路の早期開通に向け、工事課題が発生した新子馬巣谷橋の対策工事やその他の橋梁、トンネル等の工事促進</p> <p>・九頭竜・油坂間においてトンネル掘削、橋梁工事、改良工事を実施中 トンネル6箇所:6箇所着手済、うち5箇所掘削完了(貫通) 橋梁20橋 :20橋着手済、うち8橋完成(上部工架設) ※新子馬巣谷橋で発生した工事課題の対策工事を実施中</p> <p>○ 舞鶴若狭自動車道の全線4車線化に向け、舞鶴東～小浜間の工事促進および未事業化区間の早期事業化促進</p> <p>・舞鶴東～大飯高浜間:工事中、大飯高浜～小浜西間:工事中、小浜西～小浜間:設計中 ・三方五湖～若狭三方間(未事業化区間):準備調査箇所を選定されており、土質調査業務実施済、道路構造物概略設計を実施中</p>	<p>・敦賀以西の延伸のための政府予算の確保</p> <p>着工予算は計上されず 北陸新幹線事業推進調査14.5億円 (前年度比同額)</p> <p>・残る九頭竜～油坂間について、年度内に20橋すべての橋梁の上部工事に着手</p> <p>すべての橋梁の上部工事に着手済み(6月)</p> <p>・工事中の舞鶴東～小浜西間のトンネル7箇所のうち、年度内に新たに2箇所に着手し、計4箇所着手</p> <p>新たに3箇所のトンネル工事に着手し、計5箇所着手済み(10月)</p>	<p>未来創造部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p>

目指す姿	主な施策	目標(KPI)	部局
<p>【施策10-2】</p> <p>○持続可能な公共交通ネットワークの構築</p> <p>県民の日常生活における移動手段として、将来にわたり持続可能な公共交通ネットワークを確保します。また、新幹線効果の持続化や県内全域への波及のため、新幹線や地域鉄道の駅からの二次交通を充実します。</p>	<p>持続可能な公共交通ネットワークの構築</p> <p>○ 事業者等とともに外国人材も含め公共交通の人材確保を図るとともに、デマンド交通やライドシェアなど、地域の実情に応じた公共交通機関の導入を支援</p> <p>・県職員の兼業運転士2名による路線バス運行(4月～、全国初) ・鯖江市においてイベント時における日本版ライドシェアの運行開始(4月～) ・運転士確保のため、福井市、敦賀市、大野市において運転体験会を開催(5月ほか、計5回) ・外国人運転士確保に向けて検討会開催(5月ほか、計3回)、事業者と先進地視察(9月) ・バス運転士の待遇改善を図るため、全国で初めて運転士等の給与支援を実施(7月ほか)</p> <p>主要交通拠点からの二次交通の充実</p> <p>○ 定額タクシーやシャトルバスの運行など二次交通を確保するとともに、自動運転の運行やコミバスへのバスロケシステム導入等により、利用者の利便性を向上</p> <p>・越前市、坂井市、永平寺町における自動運転実証事業等を支援(4月～) ・定額タクシーや駅間デマンド交通など市町による二次交通整備を支援(4月～) ・小浜駅を起点とする市街地循環バス実証運行を支援(10月) ・路線バスと地域鉄道におけるICOCAのWEB定期システムを導入(10月) ・福井市による路線効率化に向けたオンデマンド交通実証事業を支援(11月)</p>	<p>・路線バス利用者数 4,942千人(R6:5,213千人)</p> <p>5月公表予定</p> <p>・県内におけるAIやICT等を活用した利便性向上の取組み件数 3件(R6:3件)</p> <p>3件(3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p>
<p>【施策10-3】</p> <p>○地域鉄道の維持・活性化</p> <p>地方の重要な社会インフラである地域鉄道を維持・活性化するため、鉄道事業者の設備更新等を支援するとともに、利便性を向上し利用促進を図ります。</p>	<p>地域鉄道の安全・安定運行の確保と利便性の向上</p> <p>○ レール・架線、電気施設や車両など、安全・安定運行に必要な施設・設備の更新・強化を図るとともに、新駅設置や既存駅の改修、交通DX化など鉄道の利便性を向上</p> <p>・レール交換、電気設備の更新など、安全・安定運行に必要な設備更新に対して支援 ・敦賀駅の連絡通路にハピラインふくい線とJR線の乗換用IC改札機を設置(3/11) ・ハピライン新駅「しきぶ駅」が開業(3/14)</p> <p>連携による地域鉄道の効率化と利用促進</p> <p>○ 地域鉄道3社や他県並行在来線会社との連携を推進し、資材等の共同調達や災害時の相互協力、利用促進イベントや人材確保策を共同実施するとともに、沿線市町や地域団体等との連携を強化し、利用促進を図る。</p> <p>・資機材の共同調達 ・ICOCA WEB定期券サービスの導入(10月～) ・鉄道ふくいフェスタ2025の開催(10/25、26) ・鉄道3社見学バスツアーの開催(8/23、11/22) ・3社合同就職説明会の実施(8/2、3/7)</p>	<p>・地域鉄道3社の利用者数 1,336万人(R6:5月公表予定)</p> <p>5月公表予定</p> <p>・連携事業の実施数 11件(R6:11件)</p> <p>14件(3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p>

目指す姿	主な施策	目標(KPI)	部局
	<p>JR小浜線・越美北線の利便性向上</p> <p>○ 沿線市町やJR西日本とともに、増便やキャッシュレス化など利便性向上策を検討・実施し、日常利用や新幹線の二次交通としての利用を促進することにより、持続可能性を高める。</p> <p>・増便、ICOCA導入に向けての課題等を整理 ・市町が実施する団体利用時の料金助成に対する費用を支援</p>	<p>・利用者数 小浜線 120万人 (R6:116万人) 越美北線 28万人 (R6:30万人)</p> <p>6月公表予定</p>	未来創造部
<p>【施策10-4】 ○ 交流拠点を中心としたまちづくり</p> <p>福井駅や敦賀駅などの交流拠点周辺のまちづくりを官民連携により推進します。</p>	<p>県都のまちづくり</p> <p>○ 「県都グランドデザイン」に基づき、福井城址の活用や足羽川周辺のにぎわい創出など、官民連携による県都のまちづくりを推進</p> <p>・山里口御門来館や城址春まつり、井戸汲み体験、城址見学等による来訪者数:約5.2万人 ・城址親子見学会(8月)、テレビ番組とタイアップしたお堀の水抜き・魚の引越しイベント(8月)、城址見学・現場見学会の開催(通年) ・SUPコンテストや小学生川遊び体験、焚き火イベント、雪中キャンプなど、足羽川の賑わい創出イベント開催を市とともに支援(通年)</p> <p>○ 福井駅前電車通り北地区(B街区)、福井駅前南通り地区において、再開発組合に対して補助を行う福井市を支援</p> <p>・北地区(B街区)では、建築工事に対する支援を実施 ・南通り地区では、事業計画の変更を認可し、解体および建築工事に対する支援を実施</p> <p>福井城坤櫓(ひつじさるやぐら)等の復元</p> <p>○ 福井城址の歴史拠点としての魅力をさらに高めるため、県都の新しい歴史・文化のシンボルとなる福井城坤櫓や本丸西側土堀の復元を推進</p> <p>・復元に向けた実施設計完了(9月)、建築工事に使用する木材の先行調達着手(10月) ・建築工事に向け、お堀の一部を埋め立てる仮設ヤード整備工事完了(12月) ・埋蔵文化財調査着手(10月)、石垣補強工事着手(1月) ・復元を応援していただく募金活動実施。募金額累計:約790万円(1,269名)(通年) ・公式【福井城】のSNS開設(1月)、復元を楽しく紹介するユーチューブ動画の公開(2月)</p> <p>足羽川周辺のライトアップ</p> <p>○ 足羽川周辺の夜間景観を彩り、まちなかのにぎわいや回遊性を高めるため、福井市とともに、足羽川の河川敷や遊歩道、橋のライトアップ整備を推進</p> <p>・足羽川河川敷(幸橋～泉橋間:右岸)のライトアップ開始(3月) ・幸橋の橋脚、手すりライトアップ照明の高輝度LED化(12月) ・足羽川堤防上の遊歩道(幸橋～桜橋:右岸)のライトアップ開始(福井市実施)(3月) ・足羽川河川敷(幸橋～桜橋間:右岸)、九十九橋のライトアップ工事発注(3月)</p>	<p>・福井城址の来訪者数 5.5万人(R6:5.2万人)</p> <p>5.5万人(3月末)</p> <p>・年度末までにB街区の工事完了</p> <p>工事完了(2月)</p> <p>・12月までに仮設ヤード整備工事完了、3月まで埋蔵文化財調査および石垣補強工事に着手</p> <p>仮設ヤード整備工事完了(12月)、埋蔵文化財調査(10月)・石垣補強工事(1月)着手済み</p> <p>・3月までに足羽川(幸橋～泉橋間:右岸)の河川敷および九十九橋のライトアップ整備完了</p> <p>足羽川の河川敷(幸橋～泉橋間:右岸)、堤防上の遊歩道(幸橋～桜橋:右岸)および幸橋のライトアップ整備完了、ライトアップ開始(3月)</p>	<p>未来創造部</p> <p>土木部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p>

目指す姿	主な施策	目標(KPI)	部局
	<p>敦賀駅周辺のまちづくり</p> <p>○「敦賀まちづくりアクションプログラム」に基づき、市等が実施する金ヶ崎エリアや神楽通りの再整備をはじめ、港や鉄道、歴史、食などのコンテンツを活かした官民連携による敦賀のまちづくりを推進</p> <p>・市による神楽通り再整備を支援し、賑わいを創出する道路として供用開始(3月) ・市による金ヶ崎エリア「敦賀みなと公園(仮称)」整備を支援し、工事に着手(3月) ・市や会議所、港都つが(株)、商店街等とともに、「本町エリアビジョン」を策定(3月) ・金ヶ崎エリアの賑わい施設整備に向けた協議を民間事業者や市とともに実施(通年)</p>	<p>・3月までに金ヶ崎エリアの鉄道公園等整備工事に着手</p> <p>神楽通りの再整備完了(3月)、鉄道公園等整備工事に着手(3月)</p>	<p>未来創造部</p>
<p>【施策10-5】</p> <p>○飛躍するふくいを支える基盤の整備・活用</p> <p>大交流化時代の産業基盤を確固たるものにし、暮らしの質を高め、活力に満ちた地域をつくるため、主要な道路の整備や港湾機能の強化など社会インフラの整備と活用を促進します。</p>	<p>広域道路ネットワークの構築</p> <p>○国道8号 牛ノ谷道路・金津道路、福井バイパス、敦賀防災、大谷防災等および国道27号青葉改良等の整備を促進</p> <p>・国交省への要望活動を実施(6/4、7/29、8/27、11/4、11/5、11/19)</p> <p>○福井港丸岡インター連絡道路の早期開通に向け、用地取得、橋梁工事等の推進</p> <p>・I期区間:4号橋・5号橋の上部工、アンダーボックス等の工事を実施 ・II期区間:西長田地区の用地買収および盛土工事、東長田・福島地区の丈量測量を実施 ・国交省等への要望活動を実施(6/4、7/30、11/11、11/26)</p> <p>地域を築く道づくりの推進</p> <p>○地域間の交流拡大、連携促進のための道路整備を推進</p> <p>・国道416号(白方・布施田バイパス)の全線開通、福井森田丸岡線の部分供用、国道158号(境寺・計石バイパス)などの工事推進</p> <p>・福井森田丸岡線が部分開通(3/24) ・国道416号(白方布施田バイパス)が全線開通予定(R8.4.26) ・国道158号(境寺計石バイパス)において、法面工、河川付替工、道路改良工事を施工中</p> <p>社会インフラの質の向上</p> <p>○観光道路や生活道路において、きめ細やかな舗装や区画線の補修を実施</p> <p>・国道416号など、新幹線開業により交通量が増加している道路や観光道路や生活道路において、区画線の補修を実施</p>	<p>・国道8号の事業促進を国に要請5回(R6:-)</p> <p>6回(3月末)</p> <p>・年度内に、I期区間の高架橋全17径間のうち16径間で架設工事完了、II期区間の高架橋下部工事に着手</p> <p>I期区間:高架橋全17径間において架設工事完了(12月) II期区間:高架橋下部工事に着手(3月)</p> <p>・道路改良済延長(県管理) 1,549km(R6:1,544km)</p> <p>1,546km(3月末)</p> <p>・区画線補修延長 900km(R6:720km)</p> <p>940km(3月末)</p>	<p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p>

目指す姿	主な施策	目標(KPI)	部局
	<p>港湾における物流の活性化</p> <p>○ 敦賀港鞠山南地区において岸壁、ふ頭用地整備を推進 敦賀港鞠山北地区においてふ頭用地再編に向けた整備を推進 福井港本港地区において航路拡幅、北防砂堤整備 敦賀港モーダルシフト助成制度を利用したポートセールスの強化</p> <div data-bbox="801 252 1601 419" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・岸壁整備について国へ事業費確保に向けた要望活動を実施(6/4、10/15、11/17) ・敦賀港鞠山南地区においてふ頭用地を整備(締切護岸基礎工 160m/204m) ・敦賀港鞠山北地区ふ頭再編に向けた詳細設計を着手(令和7年7月~) ・福井港本港地区において北防砂堤を整備(220m/600m) ・敦賀港PRのための県内外企業向けセミナーを開催(10/27敦賀市、11/12滋賀県大津市) </div> <p>港のにぎわい創出</p> <p>○ 海外展示会の出展やクルーズ船社のキーマン招聘によりクルーズ客船の誘致活動を強化し、寄港の拡大およびラグジュアリー客船等の誘致を推進</p> <div data-bbox="801 560 1601 628" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ船社や船社代理店への訪問面談やWEB面談のほか、船社のキーマンを県内に招聘し、敦賀港・福井港の港湾施設、県内観光地を紹介 </div> <p>福井空港の機能強化</p> <p>○ 観光・ビジネス目的での利用促進や地元住民が空港を訪れる機会の創出によりさらなる利活用を図るとともに、福井空港ビル再整備構想に基づき、防災拠点としての機能強化を推進</p> <div data-bbox="801 767 1601 847" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・防災機能の強化のためのエプロン拡張に向けた土質調査等を実施(令和7年6月~令和8年3月) ・新空港ビル基本設計に着手(3月) </div> <p>小松空港の利用促進</p> <p>○ 小松空港における国際定期路線の安定的な運航や新規路線の就航を図るため、石川県と連携して利用促進を図るとともに航空会社に働きかけ</p> <div data-bbox="801 991 1601 1114" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・URALAやファミリー、TVerなど広告媒体を活用したPR(6月ほか) ・TSUTAYA店頭で特設コーナーを設置してPR(7~9月、福井・石川・長野) ・国際線PRチラシ・ポスター作成、旅行会社等に配布(10月、3月) ・京福バス小松空港連絡線の利用促進を図るためバスラッピング広告を実施(12月) </div> <p>持続可能な都市づくりの推進</p> <p>○ 市町の立地適正化計画の見直しを支援・指導し、災害リスクを考慮したコンパクトな都市づくりを更に推進していくとともに、計画的な産業拠点形成を図るため、市街化区域編入等の都市計画変更を推進</p> <div data-bbox="801 1254 1601 1323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・福井市、あわら市、越前町の立地適正化計画策定に対し、助言・指導を実施 ・国交省や農水省との協議、地元説明など行い、市街化区域編入等の都市計画の変更を推進 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀港の取扱貨物量(1~12月) 18,800千トン(R6:18,583千トン) <div data-bbox="1646 252 2022 323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>17,971千トン(1~12月)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ船寄港回数 10回(R6:2回) <div data-bbox="1646 560 2022 628" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>10回(3月末)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に防災機能の強化のためのエプロン拡張に向けた土質調査等に着手 <div data-bbox="1646 767 2022 847" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>防災機能の強化のためのエプロン拡張に向けた土質調査等を完了(3月)、新空港ビル基本設計に着手(3月)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・石川県と連携した県民向け広報活動数 4件(R6:4件) <div data-bbox="1646 991 2022 1059" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>4件(3月末)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・3月までに福井IC周辺における市街化区域編入の原案取りまとめ <div data-bbox="1646 1254 2022 1323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>福井IC周辺における市街化区域編入の原案取りまとめ完了(12月)</p> </div>	<p>土木部</p> <p>産業労働部</p> <p>土木部</p> <p>未来創造部</p> <p>土木部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策10-6】 ○WAKASAリフレッシュエリアの形成</p> <p>北陸新幹線小浜開業を見据え、関西への近接性を活かしたまちづくりや産業の呼び込み、文化的・健康的に暮らせる生活エリアの形成を目指します。</p>	<p>嶺南観光のブランド力向上</p> <p>○ 国内外から観光客を集客できるリゾートエリア形成を目指し、県と若狭湾エリアの6市町が協力して民間事業者から投資計画を募集</p> <p>・高級リゾートホテル等を誘致する候補地として6市町から12カ所選定し、紹介動画制作や温泉湧出可能性調査などを実施して、ホテルなどの整備・運営計画を募集する公募を2回実施</p> <p>嶺南地域への外国人観光客の誘客促進</p> <p>○ インフルエンサーを活用して、京都から嶺南地域を巡る周遊モデルをPRし、外国人観光客の誘客や宿泊を促進</p> <p>・台湾・香港からインフルエンサーを各1名招聘し2泊3日のファミトリップを実施(9/17~19) ・ファミトリップ前後にインフルエンサーがSNSで情報発信</p> <p>産業と人材の育成・誘致</p> <p>○ 本社機能の併設・拡張を有する付加価値の高い企業の投資を促進</p> <p>・U・Iターン者や受け皿となる本社機能や研究開発部門を併設、拡張し、都市圏並みの給与を支給する企業の投資を支援</p> <p>都市との近接性を活かした暮らしの先進地の形成</p> <p>○ 嶺南市町におけるスマートタウンの整備に向けた市町の特色ある施策への支援や民間企業のVPP参画に向けた実証を行うとともに、農林水産業のスマート化に向け、自動栽培システムなど最先端技術を導入した植物工場を誘致</p> <p>・嶺南スマートエリア推進協議会等を通じて、各市町の取組みの共有、先進事例の紹介等を実施することにより、スマートタウン整備を進める市町を支援(10月) ・若狭町が進めるスマートタウンの整備に要する費用を支援(9/20分譲開始) ・関西電力・嶺南市町と連携し、「嶺南版ゼロカーボン・スマートタウン」の実現に向け検討 ・VPPリソースの一つである小浜市および高浜町の上下水道施設を活用し、新たな電力市場である「容量市場」へ参画中。また、VPPリソース拡大のため、県や嶺南市町の公共施設等12箇所が新たに市場テストに参加。また、民間施設等58箇所において電力需要抑制効果の実証を実施し、候補施設23箇所を選定 ・嶺南地域住民向けに、ふくいびコインを活用した節電チャレンジイベントを実施(8~9月、11~12月) ・「水素ステーションおおうみんびあ」で製造した原子力由来の水素を大阪・関西万博で運航された水素燃料電池船に供給(4~10月)</p>	<p>・ 若狭湾プレミアムリゾート構想投資計画応募件数 3件(R6:-)</p> <p>4件(3月末)</p> <p>・ インフルエンサーの投稿に対するエンゲージメント数 6,000件(R6:-)</p> <p>7,274件(3月末)</p> <p>・ 県が支援する研究開発や本社機能機能を有する立地決定件数 10件(R6:4件)</p> <p>16件(3月末)</p> <p>・ 嶺南地域においてVPPに参加可能な電力 800kW(R6:735kW)</p> <p>2,443kW(3月末)</p>	<p>嶺南振興局</p> <p>嶺南振興局</p> <p>産業労働部</p> <p>エネルギー環境部 農林水産部</p>

政策10 交流を広げる基盤整備

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
路線バス等利用者数 (福井県調べ)	4,723千人 (2023年度)	5,213千人 (2024年度)	— (5月公表予定)	5,316千人 (2029年度)	—
地域鉄道利用者数 (福井県調べ)	13,310千人 (2023年度)	14,884千人 (2024年度)	— (6月公表予定)	15,248千人 (2029年度)	—
道路改良済延長(県管理) (福井県調べ)	1,539km (2023年度)	1,544km (2024年度)	1,546km (2025年度)	1,557km (2029年度)	△
敦賀港の取扱貨物量 (港湾統計)	16,767千トン (2019~2023年平均)	18,583千トン (2024年)	17,971千トン (2025年)	18,500千トン (2029年)	○

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策11 ふくい型移住・定住の促進

目指す姿	主な施策	目標(KPI)	部局
<p>【施策11-1】</p> <p>○産学官連携による学生の県内就職の応援</p> <p>産業界と教育機関、県や市町が一体となって、地域に根差した教育や県内外の学生と県内企業との接点を拡大するなど、学生の県内進学・就職を応援します。</p>	<p>魅力的な大学づくり(再掲)</p> <p>○ 県立大学に「地域政策学部(仮称)」(R8.4)を開設するため、施設整備等を実施</p> <p>・令和7年6月 文部科学省が学部設置届出を受理</p> <p>○ オンラインセミナーや模擬授業の開催、オープンキャンパス、入試情報などバナー広告による配信、デジタルサイネージによる広告掲載等を行い、地域政策学部(仮称)の魅力を発信</p> <p>・フォーラムで模擬授業を実施(7/21):参加者106名 ・オープンキャンパスで進学説明会を実施(8/3):参加者225名 ・福井駅構内でデジタルサイネージによる広告掲載(5月~3月)</p> <p>○ 県立大学に国際センターを整備するため、施設整備等を実施</p> <p>・令和7年4月 国際センター(組織)設置</p> <p>○ 大学の魅力アップにつながる取組みや地域の課題解決・地元企業との共同研究などの事業を実施</p> <p>・県内大学の魅力アップの取組みや学生・教員が企業や自治体と協働して地域の課題解決・共同研究を行う取組みを139件実施</p> <p>○ 大学連携を強化し、県内大学における教養科目の共同化を促進するため、大学連携講義を拡大して実施</p> <p>・Fスクエアにおける大学連携講義を59科目開講(前期30科目、後期29科目)</p>	<p>・ 地域政策学部(仮称)の開設(R8.4)に向け、4月から詳細設計に着手</p> <p>福井まちなかキャンパスの設計完了</p> <p>・ 地域政策学部(仮称)の県内入学者割合 60%(R6:-)</p> <p>71.6%</p> <p>・ 国際センターの整備に向け、詳細設計に着手</p> <p>「Global Gateway(仮称)」の設計完了</p> <p>・ 大学の魅力アップにつながる取組みや地域の課題解決・地元企業との共同研究などの件数 100件(R6:-)</p> <p>139件(3月末)</p> <p>・ 県内大学の共同科目の開講数 50件(R6:53件)</p> <p>59件(3月末)</p>	<p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>総務部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>「地元就職・地元進学」の応援(再掲)</p> <p>○ 福井の未来と地域政策を考える「地域デザイン講座」の開催や、県内で活躍する地元OB等との交流機会の充実などにより、地元で将来展望と愛着を持って進路を考える意識を高める。</p> <div data-bbox="801 260 1601 352" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・県立高校19校において地域デザイン講座を開催 ・地域の普通科系高校・プロ人材高校20校を対象として、地元OBとの交流等の学校独自のライフデザイン教育を支援</p> </div> <p>DXを活用した学生コミュニケーションの創出</p> <p>○ アプリの活用により県外での進学・就職後も福井県の情報に触れることができる仕組みを構築するなど、高校在学中から進学、就職、子育て期まで、地域と学生がつながり続け、「福井で働き、福井で暮らす」ことをイメージできる仕組みを構築し、UIターンを促進</p> <div data-bbox="801 683 1601 746" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・ふくアプリ内に若者向けコンテンツサイト「ハビBASE」を開設(令和7年10月)し、県外に進学した大学生等に対し、福井県内の最新情報や県内就職情報などを提供</p> </div> <p>県内外大学と県内企業等との接点拡大による県内就職促進</p> <p>○ 大学の講義における県内企業等の紹介や訪問の実施、就職支援協定校における北陸三県UIターン就職イベントの開催等により、大学と企業の接点を拡大し、学生に県内企業の魅力を伝え、県内就職を促進</p> <div data-bbox="801 911 1601 975" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・福井大学および福井工業大学の授業において、県内企業を紹介する講義を開催したほか、企業技術者と学生が交流する業界研修会の開催等により、県内企業の魅力に触れる機会を提供</p> </div> <p>理系・医療人材のUIターン促進</p> <p>○ 医師として一定期間県内で勤務する県外大学医学部生等に対する奨学金返還支援により、UIターンを促進</p> <div data-bbox="801 1118 1601 1222" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・県内外に在学中の福井県出身医学生(3~5年生)およびその保護者(123世帯)や、福井県臨床研修病院説明会に参加した医学生に対し、チラシを郵送 ・レジナビ東京、大阪への出展の際に制度をPR</p> </div>	<p>・ 将来の県内就職を視野に入れている生徒の割合 中学校 70%(R6:67.0%) 高 校 75%(R6:70.9%)</p> <div data-bbox="1646 260 2011 352" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中学校 66.2% 高 校 70.2%</p> </div> <p>・ 県立高校卒業生の県内進学・就職率 48%</p> <div data-bbox="1646 443 2011 507" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>8月公表予定</p> </div> <p>・ 学生Uターン率 30.0%(R6:28.4%)</p> <div data-bbox="1646 683 2011 746" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>9月公表予定</p> </div> <p>・ 県外学生(理工系)の県内就職者数 180人(R6:110人)</p> <div data-bbox="1646 911 2011 975" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>9月公表予定</p> </div> <p>・ 県外大学医学部生等に対する奨学金返還支援の新規活用数 3人(R6:4人)</p> <div data-bbox="1646 1118 2011 1182" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>0人(3月末)</p> </div>	<p>教育庁</p> <p>教育庁</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>健康福祉部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策11-2】</p> <p>○「選ばれるふくい」の移住政策</p> <p>デジタルを活用した情報発信の強化や、相談機会の拡充などにより、本県への移住関心層を掘り起こし、移住意欲の高い関東を中心とする都市部からの移住者を拡大します。</p>	<p>「ふるさと福井移住定住促進機構」による移住・就職マッチング</p> <p>○ 県内外5拠点を中心に、市町と連携した相談体制を維持するとともに、就職マッチングサイト「29 IJOBS」を改修し、移住相談者の利便性を向上</p> <p>・移住者の希望に応じて、市町の担当者につなぐとともに、「29 IJOBS」の改修により、スマートフォンでも見やすく、会員登録のユーザビリティの向上させるなど、様々な機能を向上</p>	<p>・ 新ふくい人の数 1,400人 (R6:1,367人)</p> <p>1,322人 (3月末)</p>	<p>未来創造部</p>
	<p>ふくいへの移住イメージがつかめる機会の拡大</p> <p>○ 都市部の若者・子育て世代を主なターゲットとして、インターネット広告や福井の生活環境をPRする動画を制作・配信するとともに、SNSキャンペーンを展開し福井への移住イメージがつかめる機会を拡大</p> <p>・都市部の若者や子育て世代を主なターゲットとした縦型ショート動画6本を制作 ・Yahoo!JAPANトップページでの全面広告を配信。SNSキャンペーンを2回実施</p>	<p>・ インスタグラムハッシュタグ#福井移住投稿件数 7,000件 (R6:5,800件)</p> <p>8,190件 (12月末)</p>	<p>未来創造部</p>
	<p>北陸新幹線沿線県や北陸三県など関係機関の連携強化</p> <p>○ 北陸新幹線沿線5県合同の移住イベントの開催や北陸三県が連携した移住イベントの開催により、エリアの魅力を活かした新たな移住関心層を掘り起こすとともに、市町が独自に実施する移住セミナーの開催を支援</p> <p>・他県合同での移住イベント開催により集客を強化 ・市町独自でふるさと回帰支援センター・東京や移住・交流情報ガーデンにおいて、移住セミナーを開催</p>	<p>・ 独自に移住セミナーを開催する市町数 4市町 (R6:-)</p> <p>4市町 (3月末)</p>	<p>未来創造部</p>
	<p>全国トップクラスの移住支援の充実</p> <p>○ 移住支援金制度を県・市町独自で東京圏以外にも拡充し、県内企業への就職や、就農、事業承継など多様な就業とのマッチングを促進。さらに、子どもを帯同して移住する世帯への加算を行い、子育て世帯の移住を促進</p> <p>・国の制度に基づく東京圏以外の移住者に対し、県独自に移住支援金を240件支援</p>	<p>・ 移住支援金マッチング件数 300件 (R6:289件)</p> <p>283件 (3月末)</p>	<p>未来創造部</p>
	<p>次世代経営者への確実な事業承継(再掲)</p> <p>○ 事業承継に向けた企業価値向上の取組みを支援するとともに、従業員や産地内企業に加え、M&A奨励金による第三者承継を推進</p> <p>・円滑な事業承継に向けた、企業価値向上につながる取組みを30件補助 ・後継者不在企業における第三者承継を推進する奨励金を24件支給</p>	<p>・ 県による事業承継支援件数 85件 (R6:81件)</p> <p>87件 (3月末)</p>	<p>産業労働部</p>
	<p>UIターン者の受け皿となる企業の誘致</p> <p>○ 本社機能の併設・拡張を有する付加価値の高い企業の投資を促進</p> <p>・U・Iターン者や受け皿となる本社機能や研究開発部門を併設、拡張し、都市圏並みの給与を支給する企業の投資を支援</p>	<p>・ 県が支援する研究開発や本社機能機能を有する立地決定件数 10件 (R6:4件)</p> <p>16件 (3月末)</p>	<p>産業労働部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>○ 産地企業での実技研修に加え、ものづくりにおけるデザインや経営的な視点等を総合的に学ぶ「伝統工芸職人塾」の開催により全国から職人を目指す若者を集めるとともに、若手職人の交流やレベルアップの機会を充実させ産地定着を促進</p> <p>・4月より職人塾技能研修を実施(長期塾生13名)、座学は6月開講(計11回実施) ・若手職人を対象としたクラフトコンテストと交流会を実施(応募数:9点 入賞数:7点) ・伝統工芸品の海外展開をテーマにした専門家によるセミナーを開催</p> <p>○ ものづくりを支える仕事やイベント等の企画・運営に携わりたい若者とのマッチングを促進するため、地域において短期・長期で仕事・暮らし体験が可能な受入プログラムを作成、都市部に発信し受入を実施</p> <p>・2~3月に長期(3週間)および短期(4日間)の仕事・暮らし体験受入れプログラムを実施し、20~30代の若者25人が参加(長期プログラム7人、短期プログラム18人)</p> <p>移住サポーターによる移住・定着支援</p> <p>○ 「人が人を呼ぶ」移住施策をさらに進めるため、新たに県外に移住サポーターを設置</p> <p>・今年度から県外在住の移住サポーター2名を委嘱し、交流会を開催(4回) ・引き続き、県内においても移住者交流会を開催(6回)</p>	<p>・ 職人塾修了生の産地での就業率 90% (R6:100%見込)</p> <p>100%</p> <p>・ 受入人数 20人 (R6:19人)</p> <p>25人(3月末)</p> <p>・ 移住サポーター数 41人と6団体 (R6:39人と6団体)</p> <p>51人と7団体(3月末)</p>	<p>産業労働部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p>
<p>【施策11-3】</p> <p>○ 関係人口の創出・拡大</p> <p>都市部の学生や社会人に向けて、地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど、本県に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化とUIターンの拡大につなげます。</p>	<p>学生の地域滞在型キャンプの活動支援</p> <p>○ 県外学生等が新たな視点や発想を地域課題解決に活かす長期滞在キャンプ活動の拡充を支援</p> <p>・県内2か所(鯖江市、坂井市)における夏季キャンプ、春季キャンプを支援</p> <p>ふくいの幸福度や育職(食)住を体験する機会の提供</p> <p>○ 都市部の共働き子育て世帯をターゲットに、「ふく育県」の優れた子育て環境を体験しながら、家族で県内に長期滞在できるモデルを推進し、子育て家族の来県を拡大</p> <p>・福井市、坂井市、越前町で県外からの親子を受け入れ、移住体験ツアーを実施し、大人28名・子ども26名が参加</p> <p>「都市圏人材の兼業・副業」の推進</p> <p>○ 都市部で活躍する専門人材を「DX推進アドバイザー」として、委嘱。データサイエンスの知見を活用した政策立案やDXによる業務改善やDX人材育成に係る助言等を通じ、県や市町のDX施策の底上げを図る。</p> <p>・統計データの分析やノーコードツールを活用した業務改善について提案・助言をいただいたほか、生成AIやBIツールの利用に関する研修を開催</p>	<p>・ キャンプ参加人数 120人 (R6:169人)</p> <p>153人(3月末)</p> <p>・ 子どもを保育園等に預けてワーケーションを実施した親子数 15組 (R6:10組)</p> <p>16組(3月末)</p> <p>・ DX推進アドバイザーによる政策へのアドバイス件数 50件 (R6:27件)</p> <p>36件(3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>専門人材の企業での副業(再掲)</p> <p>○ 専門的な知識、技術を有する副業・兼業人材の活用を促進し、人手不足の解消、企業の課題解決をめざす。</p> <div data-bbox="801 225 1599 293" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・企業向け副業兼業セミナー、企業と人材のオンライン交流会を開催 ・初めて副業・兼業人材を活用する事業所へ、報酬、マッチング手数料等を支援</p> </div> <p>ふるさと納税を活用した交流人口の拡大</p> <p>○ 着地型ツアーや県内の宿泊に使えるポイントなど来県促進につながるプログラムをふるさと納税の返礼品として提供</p> <div data-bbox="801 453 1599 521" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・ポータルサイトや県内事業者と連携し、ふるさと納税返礼品による来県を促進 (ふるさと納税を活用した交流人口拡大プロジェクト寄付実績 199件 26,299千円)</p> </div> <p>地域おこし協力隊の採用拡大と定着促進</p> <p>○ 地域おこしマネージャーを3人体制に拡大するとともに、新たに起業支援金制度を設け、隊員の伴走支援を充実</p> <div data-bbox="801 660 1599 729" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・地域おこしマネージャーを3人体制に拡大し、県内の地域おこし協力隊員をサポート ・新たに起業支援補助金を設け、4人の地域おこし協力隊の起業を支援</p> </div>	<p>・ 初めて副業・兼業人材を活用する県内企業数 20社 (R6: -)</p> <div data-bbox="1646 225 2013 293" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>22社 (3月末)</p> </div> <p>・ ふるさと納税を活用した交流人口プロジェクト数 4件 (R6: 2件)</p> <div data-bbox="1646 453 2013 521" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>2件 (3月末)</p> </div> <p>・ 県内地域おこし協力隊隊員数 80人 (R6: 69人)</p> <div data-bbox="1646 660 2013 729" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>79人 (3月末)</p> </div>	<p>産業労働部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p>
		<p>・ 社会増減(日本人のみ) △2,000人以内 (R6: △2,018人)</p> <div data-bbox="1646 863 2013 932" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>△2,721人</p> </div>	<p>未来創造部</p>

政策11 ふくい型移住・定住の促進

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
社会増減(日本人のみ) (住民基本台帳人口移動報告)	△2,018人 (2024年)	同左	△2,721人 (2025年)	△2,000人以内 (2029年)	△
学生Uターン率 (福井県調べ)	27.9% (2023年度)	28.4% (2024年度)	— (9月公表予定)	30.0% (2029年度)	—
新ふくい人(社会人UIターン者) (福井県調べ)	1,361人 (2023年度)	1,367人 (2024年度)	1,322人 (2025年度)	1,600人 (2029年度)	○
学生キャンプ参加人数 (福井県調べ)	387人 (2019~2023年度)	169人 (2024年度)	153人 (2025年度)	600人 (2025~2029年度)	◎
地域おこし協力隊 隊員数 (総務省特別交付税交付ベース)	58人 (2023年度)	69人 (2024年度)	79人 (2025年度)	100人 (2029年度)	○

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策12 文化芸術・スポーツ力の強化

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策12-1】</p> <p>○ 県民主体の文化活動や表現・参加機会の拡大</p> <p>身近な暮らしの中で県民誰もが、鑑賞や参加、創造など自らが望むかたちで文化芸術活動を楽しむ機会をもち、創造性を育み、自己実現を果たすことによって、心豊かで潤いのある生活を送ることができる社会を目指します。</p>	<p>文化芸術活動実践者への支援の充実</p> <p>○ 分野を超えた文化芸術団体の交流機会を創出するとともに、文化芸術団体の担い手確保につなげるため、分野横断型の総合的な文化祭を開催</p> <p>・福井県文化協議会との共催により、分野横断型の「ハーモニー文化フェス」を開催(10～11月)</p> <p>文化芸術活動への参加促進</p> <p>○ アートを介してコミュニケーションを生み出す人材(アートコミュニケータ)の育成・活動支援により、県民の文化芸術活動への参加を促進</p> <p>・県内文化団体と連携し、アートコミュニケータ講座を開催(11月)</p> <p>多様な担い手による創造的な活動の促進</p> <p>○ 障がいの有無や年代等に関わらず、多様な主体が制作する作品を一堂に展示する展覧会を開催</p> <p>・「第3回まるまるつながるアートてん まる」を開催(本展:1～2月、選抜展:3月)</p> <p>誰もが文化芸術に親しめる環境の整備</p> <p>○ 永平寺や県内外の関係大学、外部専門家と連携した調査・研究の成果を広く公開するとともに、県立文化施設の館蔵資料等のデジタルアーカイブ化を推進</p> <p>・永平寺関連事業委員会・史料調査会を開催(年2回) ・永平寺関連事業委員会「研究会」を実施(3/13) ・博物館・美術館のデジタルアーカイブ化を実施(5,953点)</p>	<p>・ 文化芸術の分野を超えた横断型総合文化祭の来場者数 3,000人(R6:3,000人)</p> <p>3,051人(3月末)</p> <p>・ 文化芸術活動に参加した県民の数 62,000人(R6:59,971人)</p> <p>63,100人(3月末)</p> <p>・ 展覧会の来場者数 2,200人(R6:2,042人)</p> <p>2,448人(3月末)</p> <p>・ 永平寺所蔵の文献等の調査点数 1,000点(R6:-)</p> <p>2,483点(3月末)</p>	<p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>健康福祉部 交流文化部</p> <p>交流文化部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策12-2】 ○文化芸術の次世代育成と保存・継承・活用</p> <p>多様な「地域の文化」について、その価値を再認識し、地域内外の人材や文化施設等の関係機関が連携・協力して守り、さらに「地域の宝」として価値を高めながら確実に未来に継承していく地域社会を目指します。</p>	<p>こどもが地域で文化芸術活動に参加できる環境づくり</p> <p>○ 地域のアーティスト等を指導者として中学校・高校の文化部活動に派遣し、地域における文化芸術活動のネットワーク構築を促進</p> <p>・県内中学校・高校33校にプロのアーティスト派遣し、実技指導などを実施</p> <p>次世代の育成</p> <p>○ 本県の文化芸術を担う次世代の人材育成につなげるため、文化芸術分野の進路を希望する中学生・高校生を対象としたキャリア教育講座を開催</p> <p>・アート系の進路を希望する中学生・高校生を対象としたキャリア教育プログラムを実施し(6~9月に4回シリーズで講座開催)、33名が受講</p> <p>若手アーティストの育成</p> <p>○ 県内のアーティストを登録するデータベースの充実を図り、企業や各種団体のイベント等におけるアーティスト活用を促進</p> <p>・データベース登録アーティストの活用促進のため、奨励金制度を創設し、県内12の各種団体が奨励金を活用してアーティストを招聘</p> <p>地域の文化を支える人材の確保</p> <p>○ 担い手不足により保存・継承が危惧される地域の伝統行事の活性化や観光への活用等を支援</p> <p>・勝山左義長祭りの県外PRやおはやし講習会開催の支援 ・小浜放生祭の体験型コンテンツの支援</p> <p>有形・無形の文化財や文化的・歴史的景観の保存・継承・活用</p> <p>○ 県内の日本遺産の普及啓発、活性化のため、日本遺産フェスや体験イベント等を開催</p> <p>・平泉寺御開帳に合わせたPRブース、石垣レリーフや苔玉等の体験型イベント、日本遺産セミナー等を開催</p> <p>アートを活かしたまちなかの活性化</p> <p>○ 文化芸術を活用した新たな地域の魅力創造を推進するため、誰もが文化芸術活動を発表できる「まちなかステージ」の設置・運営を支援</p> <p>・新たに2市町(高浜町、美浜町)に「まちなかステージ」を設置(累計10市町)</p>	<p>・文化芸術活動に参加した県民の数 62,000人(R6:59,971人)</p> <p>63,100人(3月末)</p> <p>・文化芸術活動に参加した県民の数 62,000人(R6:59,971人)</p> <p>63,100人(3月末)</p> <p>・福井ゆかりのアーティストを登録するデータベース登録件数(累計) 105件(R6:94件)</p> <p>115件(3月末)</p> <p>・文化芸術活動実践団体数 136団体(R6:129団体)</p> <p>147団体(3月末)</p> <p>・日本遺産フェス等の参加者数 500人(R6:374人)</p> <p>642人(3月末)</p> <p>・「まちなかステージ」出演者数(延べ) 2,200人(R6:1,972人)</p> <p>2,563人(3月末)</p>	<p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>文化施設の機能拡充</p> <p>○ 美術館の基本計画策定委員会、歴史博物館の基本的方向性検討会を開催し、リニューアルに向けての基本計画、基本的方向性を策定</p> <p>・美術館の基本計画策定委員会(3回)、歴史博物館の基本的方向性検討会(4回)を開催</p>	<p>・ 3月までに基本計画、基本的方向性を策定</p> <p>美術館の基本計画骨子案を作成 歴史博物館・幾久公園の基本的方向性を作成</p>	<p>交流文化部</p>
<p>【施策12-3】</p> <p>○文化芸術による交流機会の拡大</p> <p>文化芸術の力を様々な分野で活かすことにより新しい価値を創造し、その魅力を世界に発信して国内外から人を呼び込み、住む人も訪れる人もともに文化芸術活動を楽しめる地域社会を目指します。</p>	<p>地域プロジェクト型アート活動への支援</p> <p>○ 福井県文化振興事業団内に「ふくい文化創造センター」を開設するとともに、文化芸術活動に関する専門人材を配置し、県民主体のアートプロジェクトに対する助成に加え、相談・助言等の支援を強化</p> <p>・福井県文化振興事業団内に「ふくい文化創造センター」を開設し(4月)、専門スタッフを配置 ・アートプロジェクトを実践する44団体に助成し、相談対応や助言などの伴走支援を実施</p> <p>文化芸術を最大限活用した文化観光の推進</p> <p>○ 他の文化施設との魅力あるテーマの連携展示などにより、博物館を核とする県内周遊を促進</p> <p>・県陶芸館を含む5館周遊スタンプラリーの実施 ・岐阜関ヶ原古戦場記念館における一乗谷朝倉氏遺跡博物館のPR(パネル展示や講演会など)の実施(9/20~11/24)(滋賀県立安土城考古博物館を含めた3館連携事業) ・美術館の特別展「大どろぼうの家」展は軽井沢安東美術館(長野県)と、「水庭に美をあつめて」展は佐川美術館(滋賀県)と連携して展示</p> <p>国際的な文化交流の充実</p> <p>○ 国内外のアーティストが参画する「熊川宿若狭芸術祭」を拡充し、本県の文化芸術の魅力を発信するとともに、文化芸術を通じた国際交流の機会を創出(再掲)</p> <p>・「熊川宿若狭芸術祭2025」を開催し(8~11月)、約7,000人が来場</p> <p>文化芸術活動を応援する企業の拡大</p> <p>○ 企業の文化芸術への理解を広げ、企業間のネットワークを構築するためのセミナーを開催</p> <p>・ビジネスパーソン向けの文化芸術セミナーを開催し(4回)、延べ204人が参加 ・企業の文化芸術活動促進に向けた研究会を設置し、勉強会を開催(8回)</p> <p>文化芸術と地域経済の有機的な連携創出</p> <p>○ 一乗谷朝倉氏遺跡全体を「日本最大の戦国フィールドミュージアム」として捉え、デザイナーと協働して、統一的なサイン整備や遺跡内などでのイベントを実施</p> <p>・一乗谷文化祭の開催(2日間) ・遺跡内の案内サインを統一的なデザインでの整備(3基)</p>	<p>・ 文化芸術活動実践団体数 136団体(R6:129団体)</p> <p>147団体(3月末)</p> <p>・ 県立の美術館・博物館(計4館)の来館者数 405,000人(R6:404,509人)</p> <p>383,567人(3月末)</p> <p>・ 熊川宿若狭芸術祭の来場者数(延べ) 4,000人(R6:3,050人)</p> <p>7,041人(3月末)</p> <p>・ 企業向け文化芸術セミナーの参加者数(延べ) 120人(R6:99人)</p> <p>204人(3月末)</p> <p>・ 一乗谷朝倉氏遺跡への来訪者数 120万人(R6:117万人)</p> <p>6月公表予定</p>	<p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策12-4】 ○ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の推進</p> <p>幼児からシニア世代まで、県民の誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ「1県民1スポーツ」が根付いた福井を目指します。</p>	<p>県民総スポーツの機会づくり</p> <p>○ 県民スポーツ祭など年間を通じてスポーツを楽しむ機会の充実や誰でも気軽に参加できるスポーツイベントの開催</p> <p>・県民スポーツ祭や福井しあわせパラスポーツデー、スポカルFUKUI2025など誰でも参加できるスポーツイベントを開催</p> <p>スポーツによる健康づくりの推進</p> <p>○ 職場でエクササイズに取り組む企業を応援するなどスポーツへの参加促進と運動習慣の定着化を図るとともに、運動の中でも特に日常生活で手軽に取り組みやすい「歩行」を健康維持・改善につなげる施策の推進</p> <p>・企業が従業員の健康増進のために行うスポーツ活動を支援するとともに、スポーツエールカンパニーの認定取得を促進し、スポーツによる健康づくりを推進</p> <p>働き盛り子育て世代・女性のスポーツ機会の創出</p> <p>○ 親子で一緒に楽しめるスポーツイベントや簡単に体を動かして運動不足解消と健康づくりにつなげる運動習慣化プログラムを提供するなど、スポーツに参加しやすい環境の整備</p> <p>・県、市町の主催イベント、子育て支援センターに指導者を派遣し、働き盛り子育て世代・女性のスポーツ機会を創出</p> <p>シニア世代のスポーツ活動の充実</p> <p>○ シニア世代が健康を維持し、長くスポーツ活動を楽しめるよう、老人クラブ等への指導者派遣による運動機会の創出や「ふくい健康長寿祭」などの交流イベントへの参加支援などを行い、生涯にわたる生きがいと健康づくりを推進</p> <p>・「スポーツ指導者人材バンク」の指導者を老人クラブや高齢者サークルなどに派遣し、シニア世代のスポーツ活動を充実</p> <p>パラスポーツの普及拡大</p> <p>○ 障がい者が気軽に参加できるスポーツ教室を定期的に開催するなどスポーツを楽しめる環境をつくるとともに、障がい者スポーツ選手の発掘・育成とパラスポーツを支える指導者の養成を進め、障がい者のスポーツ活動を拡大</p> <p>・競技団体等と連携し、パラスポーツ体験教室を定期的に開催するなどパラスポーツを普及拡大 ・パラスポーツ指導員の養成やスキルアップ研修会を開催し、指導員の資質を向上</p>	<p>・ 成人の週1回以上運動・スポーツ実施率 52.5% (R6:-)</p> <p>52.5%</p> <p>・ スポーツエールカンパニー認定事業所数 12事業所 (R6:10事業所)</p> <p>34事業所 (3月末)</p> <p>・ 20~30代女性の週1回以上運動・スポーツ実施率 22.5% (R6:-)</p> <p>36.1%</p> <p>・ 60歳以上の週1回以上運動・スポーツ実施率 59.5% (R6:-)</p> <p>56.8%</p> <p>・ パラスポーツ体験教室参加者数 3,900人 (R6:3,582人)</p> <p>4,147人 (3月末)</p>	<p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策12-5】 ○国民スポーツ大会や国際大会等で活躍する選手の発掘・育成・強化</p> <p>全国や世界で活躍するアスリートが育ち、県民に夢や感動を与え続けるアスリートが輝く福井を目指します。</p>	<p>ジュニア世代の発掘・育成・強化</p> <p>○「ふくいジュニアアスリートアカデミー (FJAA)」による有望選手の発掘・育成や、合同競技体験会の開催、県選抜チームやジュニアクラブへの活動支援など、ジュニア世代への支援強化</p> <p>・自分の才能や可能性を発見する場として「合同競技体験会」を開催し、316名が参加 ・運動能力が高くトップアスリートを目指す5・6年生72名を対象に、年間を通じて専門的なトレーニング方法などを学ぶ「ふくいジュニアアスリートアカデミー」を開催</p> <p>トップアスリートの競技活動支援</p> <p>○各競技のトップアスリートが年間を通じて、県外合宿・大会参加・指導者招へい等の強化活動に取り組むことができるよう支援し、スポーツ医・科学専門家を「チームふくい (国民スポーツ大会福井県代表)」へ派遣</p> <p>・競技力向上を目的とする強化練習会、合宿等を支援 ・県外強豪校からの高校生トップアスリート確保を確保し、寮費を支援</p> <p>持続可能な指導体制の構築</p> <p>○公認スポーツ指導者資格等の取得促進やスーパーアドバイザーの配置による選手・指導者への指導、指導現場における体罰、ハラスメントの防止など、指導資質の向上を目指した環境づくりの推進</p> <p>・スーパーアドバイザーの配置による選手および指導者への指導を実施 ・競技力向上の一翼を担う人材を育成するため、公認スポーツ指導者資格の取得を支援</p> <p>トップパラアスリートの発掘・育成・強化</p> <p>○パラリンピックや世界選手権大会等で活躍できる選手を応援して競技力向上を図るとともに、全国障害者スポーツ大会への参加を目指すアスリートやチームなどトップパラアスリートの活動を応援</p> <p>・パラリンピックや世界選手権大会等への出場を目指すトップパラアスリートへの活動費等を支援</p>	<p>・ジュニアアスリートアカデミー受講者の全国大会出場者数(年間) 6人 (R6:4人)</p> <p>10人 (3月末)</p> <p>・「スポジョブふくい」でのUIターン就職者数(年間) 26人 (R6:25人)</p> <p>26人 (3月末)</p> <p>・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格 新規取得者 100人 (R6:174人 (うち新規88人))</p> <p>87人 (3月末)</p> <p>・中央競技団体強化指定選手数 6人 (R6:6人)</p> <p>6人 (3月末)</p>	<p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策12-6】 ○福井ならではの地域特性を活かしたスポーツ交流の推進</p> <p>北陸新幹線開業を契機に、さらなる全国規模のスポーツ大会やスポーツイベントの開催、ふくい県民応援チーム「FUKUI RAYS」の活躍応援など、スポーツを通じた交流人口拡大を推進します。</p>	<p>「福井県スポーツまちづくり推進機構」を軸としたスポーツツーリズムの推進</p> <p>○「福井県スポーツまちづくり推進機構」を軸とした全国規模のスポーツ大会、イベントの持続的な開催や、スポーツ合宿の誘致活動を強化するほか、本県の豊かな自然を活用したアウトドアスポーツ等、幅広いスポーツを推進し、スポーツによる交流人口を拡大</p> <p>・全国小学生ソフトボール大会などの大規模スポーツイベントの開催を支援するほか、女子レスリングオリンピックらによる合宿を誘致するなど、県内外との交流を促進</p> <p>ランナー満足度全国トップクラスの「ふくい桜マラソン」の開催</p> <p>○ボランティアや沿道応援など、県民一丸となったもてなしでランナー満足度を向上させるとともに、県民参加者の裾野を広げるため、リレーマラソンなど楽しくランニングに取り組める機運醸成イベントを開催するなど、県民から愛され、国内外から多くのランナーが参加する、持続可能なマラソン大会に育てる。</p> <p>・国内外から15,671人がエントリー。大会当日は14,131人が出走し、越前そばや福井の銘菓などのご当地給食、沿道応援、多くの県民ボランティアにより福井のおもてなし・魅力を強かに発信</p> <p>「FUKUI RAYS」の活躍応援</p> <p>○参加チーム同士の交流推進やホーム戦盛り上げによる新規ファン獲得など、「FUKUI RAYS」のさらなる認知度向上やファンの開拓・定着に向け、県民の身近な存在として愛されるチーム作りを応援</p> <p>・ふるさと納税や企業版ふるさと納税を活用し、チームの強化や育成、広報活動を充実するとともに、学校や地域でのスポーツ指導や交通安全等の街頭啓発、「FUKUI RAYS」同士の交流を推進するなど、県民に愛され応援されるチーム作りを支援</p>	<p>・県外からの誘致による全国規模の大会・イベント等の参加者数(開催件数) 10,000人(8件) (R6:9,152人(7件))</p> <p>12,413人(9件)(3月末)</p> <p>・ランニングポータルサイトによるふくい桜マラソン大会満足度(参加者7千人以上のフルマラソン大会) 全国10位以内(R6:12位)</p> <p>全国2位</p> <p>・FUKUI RAYS観客動員数(ホームゲーム平均数の合計) 5,000人(R6:5,015人)</p> <p>6,495人(3月末)</p>	<p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p>
<p>【施策12-7】 ○誰もがスポーツに参加できる「場づくり」の充実</p> <p>県民の誰もがスポーツに参加できる場や環境の充実に向けて、スポーツを支える組織づくりや施設整備を進めます。</p>	<p>スポーツを支える組織や体制の充実</p> <p>○総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の育成支援や組織や団体の運営を支える人材の育成</p> <p>・県スポーツ協会と連携して総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の活動を支援するとともに、人材育成研修会を開催し、スポーツを支える組織や体制を充実</p> <p>スポーツ指導者の育成と質の向上</p> <p>○講習会の開催等によるスポーツ指導者の資質向上や登録バンクの利用促進など、質の高い指導力・コミュニケーション能力の習得を支援</p> <p>・選手の健康管理と競技力向上を目的に、「スポーツ障害予防」「試合期の食事戦略」「メンタル」に関する講習会を実施し、指導者の資質向上と意識改革の促進</p>	<p>・総合型地域スポーツクラブ会員数 7,000人(R6:6,905人)</p> <p>7072人(3月末)</p> <p>・スポーツ指導者バンク登録者数 250人(R6:135人)</p> <p>238人(3月末)</p>	<p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>スポーツボランティア活動の推進</p> <p>○ 「スポーツボランティアバンク」の個人・団体会員の登録を呼びかけ、スポーツイベントや大会におけるスポーツボランティアの確保を円滑に行うとともに、研修会を充実し、スポーツを「ささえる」ボランティアを育成</p> <div data-bbox="806 225 1599 317" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・スポーツボランティアの基礎研修会（嶺北・嶺南）を実施するとともに、リーグ研修会を開催 ・研修会参加者に対して、スポーツボランティアバンクへの個人・団体会員への登録を積極的に促し、スポーツを「ささえる」人材を確保</p> </div> <p>eスポーツの普及拡大</p> <p>○ eスポーツを活用し、シニア世代や障がい者の活躍を創出するとともに、eスポーツの普及拡大により誰でも楽しみ合えるスポーツコミュニティーを形成</p> <div data-bbox="806 459 1599 552" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・ふくいしあわせパラスポーツデーやスポカルFUKUIなどeスポーツを活用したイベントを開催し、年齢差や障がいの有無や程度に関わらず誰もが対等に楽しむことができるeスポーツを活用した交流の活性化や交流人口の拡大</p> </div> <p>スポーツ施設の長寿命化推進と利活用</p> <p>○ スポーツ施設の維持管理や整備・修繕による施設の機能を保持するとともに、障がい者にも利用しやすい施設にするためのバリアフリー化の推進など、県民が安全・快適にスポーツを楽しめる環境を整備</p> <div data-bbox="806 691 1599 758" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・長寿命化計画に基づき、県民が安全・快適にスポーツを楽しめる環境を整備</p> </div>	<p>・ スポーツボランティアバンク登録者数（累計） 400人（R6:278人）</p> <div data-bbox="1648 225 2013 292" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>479人（3月末）</p> </div> <p>・ eスポーツ講習会・体験会の参加者数 3,100人（R6:2,999人）</p> <div data-bbox="1648 459 2013 526" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>3,803人（3月末）</p> </div> <p>・ 県営スポーツ施設利用者数 581,000人（R6:-）</p> <div data-bbox="1648 691 2013 758" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>589,841人（3月末）</p> </div>	<p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p>

政策12 文化芸術・スポーツ力の強化

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
文化芸術活動実践団体数 (福井県調べ)	114団体 (2023年度)	129団体 (2024年度)	147団体 (2025年度)	165団体 (2029年度)	○
文化芸術活動に参加した県民の数 (福井県調べ)	41,507人 (2023年度)	59,971人 (2024年度)	63,100人 (2025年度)	70,000人 (2029年度)	○
福井ゆかりのアーティスト等を登録するデータベースの登録件数(累計) (福井県調べ)	86件 (2023年度末)	94件 (2024年度)	115件 (2025年度)	150件 (2029年度)	○
運動・スポーツ実施率(成人の週1日以上) (福井県調べ)	48.7% (2023年度)	—	52.5% (2025年度)	60.0% (2029年度)	○
「スポジョブふくい」でのUIターン就職者数 (福井県調べ)	24人 (2023年度)	25人 (2024年度)	26人 (2025年度)	30人 (2029年度)	○
「FUKUIRAYS」観客動員数(ホームゲーム平均数の合計) (福井県調べ)	4,408人 (2023年度)	5,015人 (2024年度)	6,495人 (2025年度)	7,500人 (2029年度)	◎

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策13 人生100年時代の充実生活応援

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策13-1】</p> <p>○生活習慣の改善</p> <p>県民の主体的な健康づくりに加え、健康に関心の薄い人も含めて意識せずに健康的な行動が選択できるよう、本人の健康づくりの意欲を引き出す「自然と健康になれる」環境づくりを進めます。</p>	<p>歩いて健康づくりを推進</p> <p>○ 県民の歩く習慣を定着させるため、市町と連携して、歩数目標を達成した県民にはぴコイン等を付与する「はぴウォーク2025」を開催</p> <p>・市町と連携し、県民自らが設定した目標歩数を達成した場合に「はぴコイン」等を進呈する歩行キャンペーン「はぴウォーク2025」を実施</p> <p>適切な食塩摂取</p> <p>○ 塩分控えめで野菜をたっぷり使用した「ふくい100彩ごはん」を通じて健康的な食事を啓発。また、産学官連携で立ち上げる「ふくい省塩プロジェクト」において、減塩商品の開発や販売を促進</p> <p>・令和7年5月に産学官連携で「ふくい省塩プロジェクト」を立ち上げ、県内イベント等で省塩を啓発 ・「ふくい100彩ごはん」を購入した方から抽選で若狭牛やはぴコインが当たる「ふくい100彩ごはんキャンペーン」を実施</p> <p>睡眠の改善</p> <p>○ 睡眠について正しい知識を普及するとともに、十分な睡眠時間の確保や睡眠の質の向上など、生活習慣の改善を促すキャンペーンを開催</p> <p>・睡眠時間の確保や睡眠の質向上のため、生活習慣を継続して改善する「快眠ふくいキャンペーン」を実施</p> <p>女性の健康サポート</p> <p>○ 女性の健康に関する正しい知識の啓発と生活改善を図るため、大学や事業所に対する出前講座や経営者向けのセミナーを実施</p> <p>・大学や事業所向けに女性の健康に関する出前講座を実施 ・3月に健康経営の啓発とあわせ、経営者向けに女性の健康に関する講演等を実施</p> <p>生活習慣病の早期発見・重症化予防</p> <p>○ 生活習慣病の予防・早期発見のため、広報媒体を活用し、健診受診を啓発するとともに、特定健診未受診者に対し電話等による受診勧奨を実施</p> <p>・テレビCMやインターネット広告等を活用して幅広い受診啓発を実施 ・コールセンターを立ち上げ、電話による未受診者への受診勧奨を実施(2市)</p>	<p>・ 歩行キャンペーン参加者数 15,000人(R6:9,026人)</p> <p>12,665人(3月末)</p> <p>・ 100彩ごはんキャンペーン応募者数 2,000人(R6:-)</p> <p>520人(3月末)</p> <p>・ キャンペーン参加者数 2,400人(R6:2176人)</p> <p>2,718人(3月末)</p> <p>・ 女性の健康に関する出前講座等参加者数 500人(R6:-)</p> <p>742人(3月末)</p> <p>・ 特定健康診査実施率 60%(R6:35.4%(※)速報値、確定値は5月末頃公表予定)</p> <p>令和9年3月公表予定</p>	<p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>がん検診受診率の向上</p> <p>○ がん検診受診のための休暇制度周知のため、職員や社労士による事業所訪問を行い、職場でのがん検診受診環境の整備を促進 市町が受診券を送付する5月頃にあわせてテレビCMや新聞広告等を実施</p> <p>・職員や社会保険労務士による事業所訪問(940事業所) ・テレビCMや新聞広告等を実施(5月、10月)</p> <p>その他の生活習慣の改善</p> <p>○ 乳幼児期からのむし歯予防のため、妊産婦無料歯科健診や未就学児施設でのフッ化物洗口または歯みがき教室を実施。また、成人の歯周疾患予防のため、歯科健診受診勧奨を実施</p> <p>・妊産婦を対象に無料歯科健診を実施 ・未就学児施設において、フッ化物洗口もしくは親子歯みがき教室を実施</p>	<p>・がん検診受診率 53% (R6:51.6%)</p> <p>10月公表予定</p> <p>・フッ化物洗口または歯みがき教室を実施する未就学児施設 120施設 (R6:111施設)</p> <p>140施設(3月末)</p>	<p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>
<p>【施策13-2】</p> <p>○地域における全世代のチャレンジ・活躍を応援</p> <p>若者からシニア世代まですべての県民が地域で活躍できるよう、人材育成や活動応援を実施します。また、地域住民による活動の土台づくりに取り組み、様々な地域課題や福祉分野における「共助」活動を活性化します。</p>	<p>若者のチャレンジ拡大(再掲)</p> <p>○ 「ワクワクチャレンジプランコンテスト」や「チャレンジ応援フェス」の開催など、若者の活動を広く県民に伝える機会を作るなどし、新たに活動する若者を応援</p> <p>・ワクワクチャレンジプランコンテストにおいて19件の団体・個人を支援(うち学生8件)</p> <p>シニア世代の活躍の場の創出</p> <p>○ 新たに生きがいづくり活動を行うシニアグループへの支援や活動発表の場となる「シニア応援文化祭」を開催し、シニア世代の活躍を応援</p> <p>・シニアグループ87団体の活動を支援 ・シニア応援文化祭にて6団体がステージ発表、166名が作品を出展</p> <p>社会の支え手として活躍できる環境整備</p> <p>○ 技能・経験と就労・ボランティアニーズをマッチングさせる「モザイク型就労」の社会実装として、東京大学が開発した就労マッチングアプリ「GBER」を活用し、高齢者の地域における就労等活躍の場の創出を推進</p> <p>・県民せいきょうで、GBERを活用した高齢者の就労等支援を実施 ・R7GBER登録者70名、募集件数48件、マッチング件数35件(マッチング率72.9%)</p> <p>eスポーツを通じたシニア世代の社会参加・世代間交流の促進</p> <p>○ 老人クラブや介護事業所にeスポーツの導入を支援し、高齢者の生きがいの場や多世代交流の機会を創出し、フレイル予防や認知症予防を推進</p> <p>・各市町の老人クラブにおいてeスポーツ交流会を開催(7市町、うち多世代交流3市町) ・モデルとなる高齢者施設に対しeスポーツ導入に必要な環境整備を支援(7施設)</p>	<p>・地域活動に取り組む若者グループ数 170グループ (R6:160グループ)</p> <p>172グループ(3月末)</p> <p>・生きがいづくり活動を行うシニアグループへの支援数 70団体 (R6:26団体)</p> <p>87団体(3月末)</p> <p>・就労マッチングアプリ「GBER」を活用したモデル事業の延べマッチング件数 150件 (R6:105件)</p> <p>140件(3月末)</p> <p>・eスポーツ導入 11団体 (R6:17団体)</p> <p>14団体(3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>地域の活力を生み出す集落活性化</p> <p>○ 集落や市町が取組む担い手の育成や、複数集落が連携した活動、地域の実状に応じた独自の取組などを支援することで、集落を活性化させ地域の活力を生み出します</p> <p>・担い手育成のための研修会や複数集落で行う活動支援、自主防災組織の活動に要する備品整備、防災士の育成、電子回覧板導入支援等を実施</p>	<p>・ 集落活性化に向けた市町を取組支援 51事業 (R6:42事業)</p> <p>48事業 (3月末)</p>	<p>総務部</p>
<p>【施策13-3】</p> <p>○ 県全体で進める健康づくり</p> <p>地域全体で健康づくりの取組みを進めるため、市町や関係団体、企業等との連携を推進し、全県的な健康づくり施策を展開します。</p>	<p>市町・関係団体等との連携</p> <p>○ 市町保険者等と連携し、県民の医療、健診に関するデータにより地域ごとの健康課題などを調査分析 (R6は心筋梗塞について分析)</p> <p>・福井大学に委託し、医療・健診・介護に関するデータを基に健康課題を調査分析</p> <p>県民の働き方に合った「健康経営」の普及啓発</p> <p>○ 商工会議所や協会けんぽ等と連携し、生命保険会社の健康経営セミナーなどを通じて「健康経営」の考え方を啓発し、従業員の健康づくりを促進する「ふくい健康づくり実践事業所」を認定</p> <p>・協会けんぽやアクサ生命等と連携し、「ふくい健康づくり実践事業所」を認定 ・3月に、取組みの優れた事業所を表彰するとともに、事例発表等を実施</p>	<p>・ 医療・健診に関する分析結果を提供する市町数 17市町 (R6:17市町)</p> <p>17市町 (3月末)</p> <p>・ ふくい健康づくり実践事業所の認定数 170事業所 (R6:157事業所)</p> <p>202事業所 (3月末)</p>	<p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>

政策13 人生100年時代の充実生活応援

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
平均歩数の増加(20~64歳) (県民健康・栄養調査)	男性 6,821歩 女性 5,398歩 (2023年度)	— (2024年度)	—	男性 8,700歩 女性 7,800歩 (2029年度)	—
食塩摂取量の減少(20歳以上) (県民健康・栄養調査)	男性 11.9g 女性 9.9g (2023年度)	— (2024年度)	—	男性 8.0g未満 女性 7.0g未満 (2029年度)	—
特定健康診査実施率(40~74歳) (特定健康診査・特定保健指導に関するデータ)	57.0% (2023年度)	58.0% (2024年度)	—	70% (2029年度)	—
「ちょこっと就労」の新規参加者数 (福井県調べ)	108人 (2023年度)	134人 (2024年度)	105人 (2025年度)	550人 (2025~2029年度)	○
シニアチャレンジ応援事業による活動実施団体数 (福井県調べ)	92団体 (2019~2023年度)	26団体 (2024年度)	87団体 (2025年度)	100団体 (2025~2029年度)	◎
ふくい健康づくり実践事業所認定数 (福井県調べ)	130事業所 (2023年度)	157事業所 (2024年度)	202事業所 (2025年度)	250事業所 (2029年度)	◎

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策14 誰も取り残されない安心の医療・介護・福祉の充実

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策14-1】</p> <p>○地域完結型の医療体制の確立</p> <p>急性期医療からリハビリ、在宅医療、介護施設まで、症状に応じた医療サービスを県内どの地域においても安心して受けられる医療体制を整備します。</p>	<p>医師の偏在是正</p> <p>○嶺南地域に勤務する医師への奨励金支給制度の創設、地域のニーズが高い診療科を志す県内外医学生等への資金貸与など医師確保に努めるとともに、福井大学医学部との連携により医師不足医療機関に医師を派遣するなど地域偏在対策を推進</p> <p>・特定診療科奨学金について新たに2名に資金貸与 ・令和8年度の公立公的医療機関の医師派遣要望(92人)について、自治医等の派遣調整 ・令和8年度から福井大学地域枠奨学生の定員を拡大(10人→15人)</p> <p>「上手な医療のかかり方」による救急医療体制の確保</p> <p>○かかりつけ医をもつメリットや、#7119や#8000の活用、救急医療の適正利用等について、SNS等を活用したわかりやすい周知や市町等と連携した広報を実施</p> <p>・2件同時に電話相談に対応できる体制へ強化 ・GWやお盆、年末年始などにSNS、新聞やラジオなどを通じて活用を周知</p> <p>医療ニーズに応じた体制づくり</p> <p>○医療機関の役割分担と連携を進め、高度急性期医療を担う中核病院の施設・設備の充実やリハビリを行う回復期病床の整備等を支援するとともに、医療・介護の複合ニーズを抱える85歳以上人口の増加に対応できるよう、在宅医療や医療・介護連携を強化</p> <p>・地域医療構想調整会議において、令和8年度以降の新構想策定に向けた論点整理を行うとともに、医療・介護連携の課題を共有した上で具体的な対応策について協議</p> <p>医療人材の確保・育成</p> <p>○将来の医療体制を支える看護職員確保のため看護師養成所が実施する学生確保の取組みを支援するほか、看護補助者に関する業務説明会・体験会を実施し医療機関への就業を促進</p> <p>・看護師養成所が実施する学生確保の取組み(レストルームの改修、地域貢献等)を支援 ・看護補助者に関する業務説明会・体験会を4回実施、参加者21名</p>	<p>・県が医療機関へ派遣する医師数 90人(R6:87人)</p> <p>86人(3月末)</p> <p>・#7119の相談件数 7,000件(R6:3,246件)</p> <p>7,793件(3月末)</p> <p>・救急搬送人数に占める軽症者の割合 40%未満(R6:42.0%)</p> <p>令和9年1月公表予定</p> <p>・健康福祉センター単位の地域医療構想調整会議の開催 12回(R6:12回)</p> <p>13回(3月末)</p> <p>・新たに学生確保の取組みを実施する看護師養成所 1校(R6:-)</p> <p>1校(3月末)</p>	<p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>○ 薬剤師確保奨学金返還支援事業、薬剤師確保修学資金貸与事業の実施、県外薬学生の県内就職促進や薬学部進学者の増加を図るとともに、薬剤師の資質向上などにより、医療機関・薬局等に必要な薬剤師を確保</p> <p>・薬剤師職説明会の開催(高校生等131名参加) ・GWやお盆、年末年始に、薬学生全員(273名)に奨学金返還支援、修学資金貸与事業を周知 ・奨学金返還支援者1名、修学資金貸与者3名</p>	<p>・病院薬剤師新規採用者数 15人(R6:12人)</p> <p>22人(3月末)</p>	健康福祉部
<p>【施策14-2】</p> <p>○医療・福祉現場でのDX推進</p> <p>医療・福祉の担い手不足に対応した現場の生産性向上を実現するとともに、医療の質の向上・高度な福祉サービス提供に向けて、ICTやロボット等の先端技術を活用した医療・介護DXを推進します。</p>	<p>ICT等による医療水準の向上</p> <p>○急性期医療の専門的治療を担う医療機関と地域のかかりつけ医との連携による医療ICTを活用したネットワーク構築を支援し、急性期医療連携体制を強化</p> <p>・脳卒中に関して福井地域の専門病院と丹南地域の4医療機関が、医療ICTを活用したネットワークを構築し運用を開始</p> <p>○へき地等における医療MaaS導入に関する検討会や車両の展示会を実施したうえで、市町や医療機関に実証実験(令和8年度を想定)への参加を要請</p> <p>・検討会を年3回開催し、嶺南地域医療の課題共有を共有し、医療機関や市町の意向を踏まえ実証実験の候補先を決定するとともに、実証実験の内容を議論 ・車両展示および先進地の医師、自治体職員による遠隔医療セミナーを開催(8/28,30)</p> <p>DXによる省力化・人材確保</p> <p>○介護ロボットやICTの導入のための研修や専門家の派遣、相談対応ができるワンストップ窓口「ふくい介護テクノロジー・業務改善支援センター」において、介護施設における生産性向上等の取組みを支援</p> <p>・ワンストップ相談窓口「ふくい介護テクノロジー・業務改善支援センター」を運営 ・モデルとなる9事業所に対して専門家による伴走支援を実施し、成果報告会を開催するなど、生産性向上等の取組みを県内の介護事業所へ展開</p>	<p>・急性期医療連携強化を図るため構築したネットワークの数 1ネットワーク(R6:1ネットワーク)</p> <p>1ネットワーク(3月末)</p> <p>・医療MaaS実証実験の候補先選定 1か所(R6:-)</p> <p>2か所(3月末)</p> <p>・介護事業所におけるICT導入割合 75%(R6:62%)</p> <p>71.2%</p>	健康福祉部 健康福祉部 健康福祉部
<p>【施策14-3】</p> <p>○「次世代型包括ケアシステム」の推進</p> <p>医療と介護の連携強化に加え、フレイル予防、生活支援など、シニア世代が必要な支援を受けながら住み慣れた地域で暮らすことができる体制を強化します。</p>	<p>東京大学とのジェロントロジー共同研究</p> <p>○「高齢者の健康づくり(フレイル予防)」と「高齢者の貢献寿命の検証」をテーマとする第5期ジェロントロジー共同研究の協定を東京大学と締結、始動</p> <p>・第5期ジェロントロジー共同研究の協定を東京大学と締結(7/25) ・「貢献寿命セミナー」を開催し、貢献寿命の概念やその延伸につながる要因を検討(9/10)</p> <p>シニア世代の自発的な健康づくりの促進</p> <p>○幅広い世代にフレイル予防の重要性を普及し、フレイルチェックの参加者を拡大するとともに、結果のフィードバック体制を構築することで取組みの継続を支援</p> <p>・全市町でフレイルチェックを実施(98回、参加1,262名うち新規参加者637人) ・フレイルサポーター 新たに104名養成</p>	<p>・人生満足度をテーマとするセミナーの受講者数 50人(R6:-)</p> <p>91人(3月末)</p> <p>・新規フレイルチェック参加者数 700人以上(R6:765人)</p> <p>637人(3月末)</p>	健康福祉部 健康福祉部

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>認知症予防や理解の促進</p> <p>○ 認知症サポーターやチームオレンジの活動の充実により、認知症になっても安心して自分らしく生活できる地域づくりを推進</p> <div data-bbox="801 225 1599 320" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・認知症サポーター養成数 6,801人 ・チームオレンジの活動充実に向け、会議・研修の開催や、オレンジチューター派遣を実施 ・チーム数は、15市町21チームから15市町27チームに増加</p> </div> <p>住民主体の生活支援体制の充実</p> <p>○ 生活支援コーディネーター向けの研修や情報交換会の開催を通して、住民主体の活動団体等による多様な生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築し、地域の支え合いの体制づくりを推進</p> <div data-bbox="801 472 1599 536" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・生活支援コーディネーター初任者研修(7/3)、全体研修(10/6)、情報交換会(2/18,19)を実施</p> </div> <p>在宅ケア提供体制の充実</p> <p>○ 健康福祉センター単位で地域の病院、診療所、介護関係事業所、市町などが集まり、課題や対策を具体的に協議</p> <div data-bbox="801 679 1599 743" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・医療・介護の連携に関する協議の場について、福井1回、坂井3回、奥越1回、丹南1回、二州2回、若狭4回(計12回)実施</p> </div> <p>本人の意思決定支援とACPの普及・啓発</p> <p>○ 「つぐみ(福井県版エンディング)」を活用し、ACPの出前講座や研修会、啓発イベント等を通じて、患者や家族等が望む医療・ケアを受けられる環境づくりを推進</p> <div data-bbox="801 887 1599 951" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・「つぐみ」やACPIに関する出前講座、研修会、意見交換会、普及イベント、県民公開講座等を実施</p> </div>	<p>・ チームオレンジの設置市町数(累計) 17市町 (R6:15市町)</p> <div data-bbox="1646 225 2013 288" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>15市町(3月末)</p> </div> <p>・ 生活支援コーディネーター向け研修等の参加者数 90人以上 (R6:92人)</p> <div data-bbox="1646 472 2013 536" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>115人(3月末)</p> </div> <p>・ 健康福祉センター単位の協議の場の開催 全圏域で開催 (R6:-)</p> <div data-bbox="1646 679 2013 743" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>全圏域で開催</p> </div> <p>・ 「つぐみ」配布部数 12,000部 (R6:16,500部)</p> <div data-bbox="1646 887 2013 951" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>12,000部(3月末)</p> </div>	<p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>
<p>【施策14-4】</p> <p>○福祉の担い手不足への対応</p> <div data-bbox="136 1046 759 1147" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>必要となる福祉人材の確保を図るため、若者・外国人など多様な人材の育成・登用や、定着に向けた待遇改善、相談体制の充実などに取り組みます。</p> </div>	<p>外国人介護人材の就労・定着促進</p> <p>○ 介護施設のニーズに応じた外国人介護人材の確保を実現するため、介護福祉士養成校に通う全ての外国人留学生に対し支援をするとともに、タイやミャンマーの現地教育機関と連携した介護人材の現地育成、継続した受入れを促進</p> <div data-bbox="801 1150 1599 1214" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・タイの技能実習生19名を受け入れ、県内10施設で実習 ・ミャンマーの「福井クラス」で学んだ技能実習生7名を受け入れ、県内4施設で実習</p> </div> <p>○ 外国人材と受入事業所の双方にミスマッチを無くすための研修や巡回相談を実施し、外国人材が障がい福祉事業所において末永く活躍できる環境を整備</p> <div data-bbox="801 1326 1599 1390" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・県研修を通じて障がい福祉の基礎を学んだ9名の人材が4法人とマッチング</p> </div>	<p>・ 県の事業により受入れる技能実習生 32人 (R6:34人)</p> <div data-bbox="1646 1150 2013 1214" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>26人(3月末)</p> </div> <p>・ 障がい福祉分野における外国人材の新規入職者数 10名 (R6:-)</p> <div data-bbox="1646 1326 2013 1390" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>9名 (R8入職予定)</p> </div>	<p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>介護職の魅力向上</p> <p>○ 介護への関心を高めるとともに、現場の負担軽減を図るため、介護の補助的業務を行う「ちよこっと就労」を若年層等へ拡大</p> <div data-bbox="806 231 1601 351" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・「ちよこっと就労」就職面談会を計12回開催するとともに、スポットワーカー活用を促進するため、就職面談会において、試験的にスポットワークの相談ブース等を設置(1回)</p> <p>・介護の魅力発信アンバサダーが高校を訪問し、介護の魅力発信や生徒とのディスカッションを実施</p> </div> <p>○ 将来の担い手となる若者を対象とした障がい福祉の魅力発信パネルディスカッションや、福祉の現場をより深く知る機会を提供し、関心・就業意欲を高める有償インターンシップ等を実施</p> <div data-bbox="806 462 1601 526" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・高校生を対象としたパネルディスカッションを5回開催するとともに、障がい福祉8法人において14名の学生が有償インターンシップを実施</p> </div> <p>地域のニーズに応える介護施設の整備</p> <p>○ 第9期福井県高齢者福祉計画・介護保険事業支援計画に基づき、各市町における特別養護老人ホームなどの整備を支援(2026年度までに258床増加)</p> <div data-bbox="806 662 1601 774" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・老人保健施設(40床)を介護医療院(40床)に転換</p> <p>・認知症対応型共同生活介護(グループホーム) 27床増加</p> <p>・特定施設入居者生活介護 54床増加 計81床増床</p> </div>	<p>・「ちよこっと就労」の新規参加者数 108人(R6:134人)</p> <div data-bbox="1646 231 2016 295" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>105人(3月末)</p> </div> <p>・魅力発信パネルディスカッション参加生徒数 100名(R6:96名)</p> <div data-bbox="1646 462 2016 526" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>176名(3月末)</p> </div> <p>・特別養護老人ホーム等の増床数 145床(R6:65床)</p> <div data-bbox="1646 662 2016 726" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>81床(3月末)</p> </div>	<p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>
<p>【施策14-5】</p> <p>○複合化・複雑化した福祉ニーズへの対応</p> <div data-bbox="134 861 761 1077" style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>複合化・複雑化する福祉分野の支援ニーズや、福祉資源の不足により対応が困難な事例等に対処するため、地域住民による課題解決力の強化や専門職の高度な知見を共有することにより、誰一人取り残されない福祉サービスを充実します。</p> </div>	<p>支援が届きにくい地域住民への支援体制の強化</p> <p>○ 支援が必要な地域住民の見守り活動を推進するため、地域福祉の多様な担い手同士がつながるプラットフォームの構築や世代や属性を問わない新たな住民同士の関わりを促す居場所づくりを支援し、地域住民の共助の活性化を図る。</p> <div data-bbox="806 941 1601 1013" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・モデル市町(3市)が実施する地域住民の共助による地域づくり事業への支援</p> <p>・地域住民の意識醸成と取組事例の情報共有を目的としたシンポジウムの開催(10/5)</p> </div> <p>強度行動障がい児者への支援</p> <p>○ 強度行動障がい児者の受入事業所への指導・助言や支援現場の中核的な役割を担える専門的人材を育成、事例検討会を通じた支援者同士のネットワークを構築</p> <div data-bbox="806 1157 1601 1276" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・事業所内で標準的支援をチームで実施する中核的人材2名、状態が悪化した方の支援の助言を行う広域的支援人材2名の専門的人材を養成</p> <p>・事例検討会の実施(3/24)および専門的人材による意見交換会を開催し、支援者同士のネットワークを構築</p> </div>	<p>・地域のプラットフォーム設置数 30か所(R6:20か所)</p> <div data-bbox="1646 941 2016 1013" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>43か所(3月末)</p> </div> <p>・強度行動障がい児者支援専門的人材数 10名(R6:4名)</p> <div data-bbox="1646 1157 2016 1228" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>8名(3月末)</p> </div>	<p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>医療的ケア児者への支援</p> <p>○ 医療的ケア児者支援センターによる助言・指導、医療的ケアに対応できる看護師やコーディネーターの育成、意識啓発を行うとともに、医療的ケアが必要な方を受け入れる事業所の拡大するほか、新たに嶺南に相談拠点を設置し、安心して生活できる環境を整備</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・看護師向け研修を年4回、コーディネーター養成研修を年1回開催し、人材育成を実施 ・医療的ケア児者受入れ事業所数が55事業所から60事業所に拡大 ・嶺南に2カ所（敦賀市、高浜町）医ケアセンターの相談拠点を設置</p> </div> <p>小児療育支援体制の充実</p> <p>○ 事業所や医療機関等に対する療育指導や、療育拠点病院による家族支援プログラムの実施、地域支援体制の整備状況の把握・分析により、障がい児とその家族が身近な地域で療育に関する相談・診療を受けられる体制の整備・強化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・県内2つの医療機関において、保護者向けの家族支援プログラムを実施 ・児童発達支援センターを中心とした療育体制整備に向け、地域支援体制の整備状況の把握・分析のための調査を実施し、県と市町の役割を整理</p> </div> <p>ひきこもり対策の充実</p> <p>○ ひきこもり支援機関の周知や職員研修による資質向上により、市町に対する困難案件への後方支援を強化し、居場所となるフリースペースを設置するなど、ひきこもり支援体制の充実を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・ひきこもり支援機関職員研修の開催 4回 ・福井県ひきこもり対策連絡協議会の開催（14機関参加） ・市町支援チーム派遣 6件（小浜市2件、美浜町4件） ・フリースペース参加 延1,073人</p> </div> <p>自殺対策の充実</p> <p>○ SNSを使った夜間や休日の相談体制の充実や、自殺対策への協力者等に対する支援など、地域における総合的な支援体制を強化し、世代や生活環境別の対策やハイリスク者への支援の充実を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・NPO法人 自殺対策支援センターライフリンクと「連携自治体事業」の協定を締結（R8.1.5） ・若者の多くが利用するSNS等を活用した相談・支援が受けられる環境を整備するとともに、高リスク者の希望に応じ、居住自治体の地域支援者につなげる体制を整備 ・若者の自殺危機対応チームを設置、自殺リスクを抱える若者の支援を行う機関に専門家が助言を行う体制を整備</p> </div>	<p>・ 医療的ケア児者受入事業所数 60事業所（R6:55事業所）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>60事業所（3月末）</p> </div> <p>・ こどもの発達特性等に関する保護者向け講座の実施機関数 4カ所（R6:ー）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>2カ所（3月末）</p> </div> <p>・ ひきこもり支援を強化した市町 8市町（R6:7市町）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>10市町（3月末）</p> </div> <p>・ 自殺死亡率 13.4以下（R6:14.0）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>12.7（暫定値）</p> </div>	<p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p> <p>健康福祉部</p>

政策14 誰も取り残されない安心の医療・介護・福祉の充実

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
外国人介護人材受入数(タイ・ミャンマー) (福井県調べ)	13人 (2023年度)	34人 (2024年度)	26人 (2025年度)	150人 (2025~2029年度)	△
医療的ケア児者を受け入れる事業所数 (福井県調べ)	50事業所 (2023年度)	55事業所 (2024年度)	60事業所 (2025年度)	65事業所 (2029年度)	○
家族支援プログラムを実施する療育拠点 病院数(福井県調べ)	0か所 (2023年度)	0か所 (2024年度)	2か所 (2025年度)	6か所 (2029年度)	△
県が医療機関へ派遣した医師数 (福井県調べ)	86人 (2024年度)	87人 (2024年度)	86人 (2025年度)	93人 (2029年度)	○
救急搬送人数に占める軽症者の割合 (消防庁 救急・救助の現況)	41.7% (2022年)	42.0% (2024年)	— (2027年1月公表予定)	40%未満 (2029年)	—
地域のプラットフォーム(日常生活圏域単位の協議 体)設置数 (福井県調べ)	20か所 (2024年度)	20か所 (2024年度)	43か所 (2025年度)	70か所 (2029年度)	◎

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策15 豊かで美しいふくいの環境の継承

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策15-1】</p> <p>○脱炭素社会の実現と気候変動への対応</p> <p>2050年の温室効果ガス排出実質ゼロ実現に向けて、その中間目標として、2030年度の温室効果ガス排出量の49%削減(2013年度比)を目指します。</p>	<p>エネルギー源の転換</p> <p>○次世代自動車(EV・PHV・FCV)、V2H充放電設備、急速・普通充電設備の購入・導入を支援し、CO2削減を推進。特に若年層に対するEV購入支援を強化</p> <p>・県民、県内企業の次世代自動車転換を支援(309件) ・県内の充電環境の向上に向け、急速・普通充電設備の整備を支援(39件) ・県民のV2H充放電設備の導入を支援(9件)</p> <p>○県内全域に再エネの普及を図るため、県内企業を対象に、太陽光発電および蓄電池設備の導入に係る経費を支援</p> <p>・県内企業27社に対し、太陽光発電および蓄電池設備の導入を支援</p> <p>○県内全域に再エネの普及を図るため、県内住宅を対象に、太陽光発電および蓄電池設備の導入に係る経費を支援</p> <p>・県内住宅116軒に対し、太陽光発電および蓄電池設備の導入を支援</p> <p>省エネの推進</p> <p>○省エネ性能の高い製品(エアコン・冷蔵庫・高効率給湯器)への購入・買替を支援し、電力使用量の削減による家計負担軽減を図るとともに、県民の省エネ実践を後押し</p> <p>・電力使用量の削減による家計負担軽減を図るため、エネルギー使用量の大きい家電(エアコン、冷蔵庫、エコキュート等)の購入・買替を支援(4月～9月)</p>	<p>・県内における次世代自動車(EV, PHV,FCV)の保有台数 5,320台(R6:4,800台)</p> <p>5,340台(3月末)</p> <p>・県内急速充電設備導入台数 129口(R6:114口)</p> <p>148口(3月末)</p> <p>・県内普通充電設備導入台数 500口(R6:411口)</p> <p>624口(3月末)</p> <p>・企業の太陽光発電設備支援 1,930kW分(R6:1,927kW)</p> <p>2,712kW(3月末)</p> <p>・住宅の太陽光発電設備支援 600kW分(R6:467kW)</p> <p>647kW(3月末)</p> <p>・省エネ家電の購入・買替支援件数 8,420件(R6:5,598件)</p> <p>7,694件(3月末)</p>	<p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>○ 省エネ対策に関する相談窓口の設置や省エネ専門家の派遣、CO2排出量の算定支援などにより、中小企業の省エネ対策を促進</p> <div data-bbox="801 193 1601 261" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・中小企業の省エネ化を推進するため、省エネに関する補助金や省エネ化に資するツール、支援事業などについて、相談対応、助言を行う省エネ相談窓口を開設</p> </div> <p>再生可能エネルギーの導入拡大</p> <p>○ あわら市沖の洋上風力発電について、「有望な区域」への選定に向けた関係者の理解を促進するため、関係者との意見交換を継続的に実施</p> <div data-bbox="801 421 1601 489" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・関係者の理解を促進するため、意見交換会を実施</p> </div> <p>気候変動への適応</p> <p>○ 県民の気候変動適応に関する理解度の向上を図るため、気候変動による影響や適応に関する情報を発信</p> <div data-bbox="801 628 1601 697" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・県や市が実施する環境フェア等にて、気候変動適応に関するパネル展を実施(7回) ・情報誌「ふくてき」の発行(4回)</p> </div> <p>「オール福井」での取組み強化</p> <p>○ 企業・団体の実務担当者を対象にしたテーマ別勉強会・交流会(オープンフォーラム)を開催し、関係者のネットワーク構築と課題解決を推進</p> <div data-bbox="801 841 1601 909" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・オープンフォーラムを計15回開催し、企業・団体の実務担当者の課題解決等を推進</p> </div>	<p>・ 中小企業向け省エネ相談窓口における助言・支援件数 40件(R6:40件)</p> <div data-bbox="1646 193 2011 261" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>40件(3月末)</p> </div> <p>・ 漁業関係者、経済・観光関係者との意見交換会を各2回実施 (R6:漁業2回、経済・観光3回)</p> <div data-bbox="1646 421 2011 489" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>漁業1回、経済・観光2回(3月末)</p> </div> <p>・ オープンフォーラムへの参加者数(延べ) 550名(R6:550名)</p> <div data-bbox="1646 841 2011 909" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>804名(3月末)</p> </div> <p>・ 脱炭素・省エネに取り組む事業者数(累計) 430件(R6:406件)</p> <div data-bbox="1646 1016 2011 1085" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>624件(3月末)</p> </div>	<p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部 産業労働部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策15-2】 ○エネルギーを活用した地域の活性化</p> <p>「嶺南Eコスト計画」に基づき、嶺南地域を中心に、原子力をはじめ再生可能エネルギーを含む様々なエネルギーを活用した地域経済の活性化やまちづくりを進めます。また、脱炭素化への対応による新たな付加価値づくりを進め、県内企業の成長につなげます。</p>	<p>新試験研究炉の利活用促進</p> <p>○「もんじゅ」サイトに新たに整備される試験研究炉について、県内の企業や研究機関等が参画する研究会を運営し、新試験研究炉に関する情報提供、中性子利用に必要な支援体制の構築、実験設備や利用促進体制の国等への提言取りまとめを実施</p> <p>・県内企業や研究機関等が参加する研究会の総会(2回)および4分科会(9回)の開催、提言とりまとめ(1/25) ・試験研究炉を利用する人材の育成のため、講習会を開催(大学生対象5回・企業対象2回) ・県内企業対象の県外研究炉の見学会・利用体験実験を実施(1回) ・既存研究炉等の利用に向けた県内企業への支援(3社)</p> <p>廃炉(デコミッション)ビジネスの育成</p> <p>○クリアランス集中処理事業を行う株式会社を設立し、操業に向けて詳細設計等を進めるとともに、地元企業参入に向けた研修計画の策定、クリアランス金属製品(鉄筋等)の利活用による理解促進活動を実施</p> <p>・県、嶺南市町、原子力事業者、地元金融機関の13者により包括連携協定を締結(5/30) ・溶融処理に関して、原子力規制委員会がクリアランス審査基準の改正を実施(6/25) ・県が過半数を出資して「福井県原子力リサイクルビジネス準備株式会社」設立(8/1) ・フランスにおける最大の電力会社EDF社と協力協定を締結(11/14) ・元請業務受注に向けた地元企業対象の研修計画の作成、地元企業SHGの開催(2回)、地元企業向け研修会の開催(2回) ・地域住民SHGの開催(嶺南6市町+高校生)、高校生による消費財の企画・制作・モニター実証の実施</p> <p>スマートエリアの整備</p> <p>○嶺南市町におけるスマートタウンの整備に向けた市町の特色ある施策への支援や民間企業のVPP参画に向けた実証を行うとともに、農林水産業のスマート化に向け、自動栽培システムなど最先端技術を導入した植物工場を誘致</p> <p>・嶺南スマートエリア推進協議会等を通じて、各市町の取組みの共有、先進事例の紹介等を実施することにより、スマートタウン整備を進める市町を支援(10月) ・若狭町が進めるスマートタウンの整備に要する費用を支援(9/20分譲開始) ・関西電力・嶺南市町と連携し、「嶺南版ゼロカーボン・スマートタウン」の実現に向け検討 ・VPPリソースの一つである小浜市および高浜町の上下水道施設を活用し、新たな電力市場である「容量市場」へ参画中。また、VPPリソース拡大のため、県や嶺南市町の公共施設等12箇所が新たに市場テストに参加。また、民間施設等58箇所において電力需要抑制効果の実証を実施し、候補施設23箇所を選定 ・嶺南地域住民向けに、ふくいはぴこインを活用した節電チャレンジイベントを実施(8~9月、11~12月) ・「水素ステーションおおうみんびあ」で製造した原子力由来の水素を大阪・関西万博で運航された水素燃料電池船に供給(4~10月)</p> <p>脱炭素技術の開発と資源循環モデルの構築および産業化(再掲)</p> <p>○脱炭素技術に関する協定を締結した福井大学、産総研等と協力し、ふくいオープンイノベーション推進機構(FOIP)において、脱炭素や資源循環技術に関する情報提供や技術コーディネートを行い、オープンイノベーションによる技術開発を促進</p> <p>・脱炭素に資する技術など、成長分野における県内企業の研究開発・可能性調査を支援</p>	<p>・中性子を利用する県内の企業数 2社(R6:1社)</p> <p>2社(3月末)</p> <p>・R7夏頃にクリアランス集中処理事業を行う株式会社の設立</p> <p>R7.8.1会社設立</p> <p>・嶺南地域においてVPPに参加可能な電力 800kW(R6:735kW)</p> <p>2,443kW(3月末)</p> <p>・脱炭素技術に関する共同研究数 5件(R6:4件)</p> <p>5件(3月末)</p>	<p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部 農林水産部</p> <p>産業労働部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策15-3】</p> <p>○ 自然と共生する社会づくり</p> <p>自然と触れ合う機会を増やし、保全・再生活動につなげることにより、自然の豊かな恵みを楽しみ続けることができる持続可能な社会を構築します。</p>	<p>里山里海湖の自然再生と活用</p> <p>○ 三方五湖、北潟湖等において、地域住民と協働してヒシの刈取や外来種防除等の自然再生を進めるとともに、学びの森・海湖等での体験プログラム提供を促進</p> <p>・地域住民や専門家、行政が協力して外来生物の駆除や希少種の保全等を実施 (5/8 北潟湖 オオキンケイギク駆除、5/25 三方五湖 アカミガメ駆除、6月～12月 坂井市・越前町 希少昆虫保全のためのアメリカザリガニ駆除ほか) ・三方湖において、5月から7月にかけて漁業者と協力してヒシの刈取を実施</p> <p>○ コウノトリの飛来地等において、巣塔など生息環境の整備や環境に配慮した農法等を推進し、コウノトリの定着・野外繁殖を促進</p> <p>・巣塔3箇所(南越前町堂宮、越前市村岡、美浜町麻生)、ピオトープ1箇所(小浜市神宮寺)を設置 ・越前市、小浜市、鯖江市、越前町においてヒナが誕生し、野外コウノトリ12羽が巣立ち</p> <p>自然体験拠点の形成</p> <p>○ 六呂師高原開発計画に基づき、自然保護センターの改修の検討を進めるとともに、日本一の本県の星空の魅力を普及する活動を推進</p> <p>・天体観望会や季節の天体現象に合わせた特別天体観望会、プラネタリウム等を開催(501回) ・R7.7月に開業したキャンプ場SORAtoDAICHIと連携した天体観望会を実施(11/15、24) ・星空案内人養成講座を開催(座学講義:5~6月、実技試験:5~12月・3月) 2名を星空案内人(星のソムリエ)に認定、18名を準星空案内人に認定</p> <p>年縞博物館の機能強化</p> <p>○ 特別展や周辺・近県施設と連携した企画等を開催、立命館大学など関係機関と連携した年縞研究を推進し、年縞の価値を国内外に発信</p> <p>・年縞掘削開始にあわせたオープニング記念式典の開催(6/1) ・恐竜博物館と連携した、恐竜と年縞を巡る歴史と地層の特別ツアーを立命館大学の中川教授の解説付きで実施(6/21、22) ・年縞研究者によるトークショーの開催(7/13) ・観光船レイクルーズで研究員2名が年縞掘削の解説を実施(7/13) ・YUMI KATSURA MUSEUM WAKASAや縄文博物館とのコラボイベントを実施(6/21、7/6)</p> <p>自然と触れ合う機会の充実</p> <p>○ 自然保護センターや海浜自然センターにおいて、自然観察の森での観察ガイドや海のふれあい教室などの自然観察会等の開催により自然体験活動を推進</p> <p>・自然観察の森での観察ガイド(54回)や冬の野鳥レストラン(R8.1~2月)を実施 ・スノーケリング自然教室(19回)や海のふれあい教室(14回)、個人・団体向け各種講座(団体74回)を実施</p>	<p>・ 自然再生取組地域数(累計) 15地域(R6:14 地域)</p> <p>15地域(3月末)</p> <p>・ 巣塔・ピオトープの設置箇所数(累計) 16箇所(R6:14 箇所)</p> <p>18箇所(3月末)</p> <p>・ 天体観望会等への参加者数 5,300人(R6:4,736人)</p> <p>5,583人(3月末)</p> <p>・ 年縞博物館の入館者数 60,000人(R6:50,665人)</p> <p>55,151人(3月末)</p> <p>・ 自然観察会等の参加者数 55,000人(R6:50,106人)</p> <p>52,934人(3月末)</p>	<p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部</p> <p>エネルギー環境部</p>

政策15 豊かで美しいふくいの環境の継承

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
県内の温室効果ガス排出量の削減(2013年度比) (福井県調べ)	28% (2021年度)	26.7% (2022年度確定値)	31.5% (2023年度速報値)	49% (2030年度)	—
再生可能エネルギーの導入量 (福井県調べ)	898千kW (2022年度)	-	912千kW (2023年度)	1,336千kW (2030年度)	—
脱炭素・省エネに取り組む事業者数 (福井県調べ)	154件 (2023年度)	406件(累計) (2024年度)	624件 (2025年度)	700件(累計) (2029年度)	◎
嶺南地域においてVPPIに参加可能な電力 (福井県調べ)	664kW (2023年度)	735kW (2024年度)	2,443kW (2025年度)	1,000kW (2029年度)	◎
自然再生取組地域数 (福井県調べ)	13地域 (2023年度)	14地域 (2024年度)	15地域 (2025年度)	19地域 (2029年度)	○

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策16 防災・治安先進県ふくいの実現



目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策16-1】 ○人と技術による地域防災力の向上</p> <p>県と市町の連携・協力の強化のほか、地域の自助・共助の力とデジタル技術の力を融合し、自然災害への対応力を向上します。</p>	<p>地域の防災力を多面的に強化</p> <p>○ 地域防災の要である消防団員の活動環境を整備するとともに、災害時に情報収集や避難所運営支援、特殊技能を生かした活動を行う大規模災害団員の確保を促進</p> <p>・福井県消防協会理事会および消防長会、担当課長会議において、また、すべての消防本部を直接訪問し、団員の確保に係る制度の導入促進や県支援制度の利活用を呼びかけ ・各地域の消防団による女性、若者、学生への団員加入の呼びかけ</p> <p>「自分の命は自分で守る」防災意識の醸成</p> <p>○ 優先度の高い避難行動要支援者について、個別避難計画作成が進むよう、市町を支援</p> <p>・市町担当課長に対し、計画作成のベースアップや県の支援事業の活用について説明会を開催 ・県の専門家派遣支援事業を活用し、個別避難計画作成を促進 事業活用実績 6月：勝山市、11月：池田町、12月：美浜町、2月：越前市</p> <p>○ 防災士を養成するとともに、防災士の協力を得て地域での防災マップ作成を支援</p> <p>・県内2会場において防災士養成研修を実施 参加者計295名 第1回嶺南会場 日程：11/22～23 於：プラザ万象 参加者144名 第2回嶺北会場 日程：11/29～30 於：福井県産業会館 参加者151名</p> <p>デジタル技術による防災力の向上</p> <p>○ 災害用ドローンを最大限活用し、被災状況を早期に把握することで、県民に対して迅速かつ正確に情報を提供</p> <p>・通常訓練(5月：6回、3月：7回)、県・市町防災訓練等(9月から11月：9回)の実施</p> <p>○ 河川監視カメラ、水位計を増設し、防災情報の提供を充実</p> <p>・河川監視カメラ17箇所(県11箇所、市町6箇所)、水位計33箇所(県29箇所、市町4箇所)を増設し、河川の状況を県ホームページ「福井県河川・砂防総合情報」で公開</p> <p>○ 災害時に携帯電話に障害が発生したことを想定し、ドローン映像と衛星通信設備を組み合わせ、リアルタイムで情報共有する仕組みを構築し、訓練</p> <p>・県総合防災訓練において、衛星通信設備を活用し、自動飛行ルートにより撮影しているドローン映像を現地対策本部に伝送する訓練を実施</p>	<p>・ 大規模災害団員数(累計) 535人(R6:491人)</p> <p>532人(3月末)</p> <p>・ 避難行動要支援者(優先度の高い避難行動要支援者(計画作成同意者))の個別避難計画作成率 90%(R6:62%)</p> <p>72.8%(3月末)</p> <p>・ 防災士数(累計) 4,800人(R6:4,666人)</p> <p>4,965人(3月末)</p> <p>・ 災害用ドローンによる訓練の実施 21回(R6:16回)</p> <p>22回(3月末)</p> <p>・ 県ホームページで確認できる河川監視カメラおよび水位計箇所数 375箇所(R6:335箇所)</p> <p>385箇所(3月末)</p>	<p>防災安全部</p> <p>防災安全部</p> <p>防災安全部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>防災安全部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>行政の連携による防災体制強化</p> <p>○ 道路啓開計画の実行性を高めるため、国・建設業協会・電力通信事業者など複数の関係者が参加した啓開計画に基づく訓練を実施</p> <div data-bbox="801 225 1599 293" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・国、啓開業者、電力事業者、自衛隊などが参加した啓開計画に基づく訓練を4回実施 (6/3、9/2、10/24、3/17)</p> </div> <p>○ あらゆる関係者と協働し、雨水流出を抑制する施設整備等により流域治水の取り組みを促進</p> <div data-bbox="801 416 1599 485" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・新たに雨水流出を抑制する施設の整備 整備済:8箇所</p> </div> <p>○ 自然災害を想定した市町の訓練において、タイムラインの活用を支援</p> <div data-bbox="801 608 1599 676" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・水害・土砂災害の発生を前提とした防災行動を時系列に整理した「ふくい県域タイムライン」に基づき、国、県、17市町、報道機関など関係機関の参加による机上訓練を実施 (5/8)</p> </div>	<p>・ 啓開計画に基づく訓練の実施 1回 (R6:1回)</p> <div data-bbox="1644 225 2011 293" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>4回 (3月末)</p> </div> <p>・ 新たに雨水流出抑制に取り組む施設数 (累計) 15箇所 (R6:10箇所)</p> <div data-bbox="1644 416 2011 485" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>18箇所 (3月末)</p> </div> <p>・ タイムラインを活用した訓練実施市町数 17市町 (R6:-)</p> <div data-bbox="1644 608 2011 676" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>17市町 (3月末)</p> </div>	<p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p>
	<p>避難所における生活環境の向上</p> <p>○ 避難所に指定されている県有施設に対し、段ボールベッドやパーティションなど、避難所の生活環境の向上に資する資機材を整備するとともに、市町に対し整備を促進</p> <div data-bbox="801 815 1599 884" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・避難所に指定されている県有35施設に、段ボールベッドやパーティションなど、避難所の生活環境の向上に資する資機材を整備</p> </div>		<p>防災安全部</p>
	<p>新興感染症による感染爆発 (パンデミック) への備え</p> <p>○ 平時からの備えを充実させるため、協定締結医療機関 (医療機関、訪問看護事業所等) において、感染症に関する研修を実施するとともに個人防護具の備蓄を促進</p> <div data-bbox="801 1023 1599 1091" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・協定締結医療機関等の医療従事者向け研修会を開催 (2/23) ・協定締結医療機関に対する個人防護具備蓄の協力依頼 (9/8)</p> </div>	<p>・ 個人防護具の備蓄医療機関 80% (R6:71%)</p> <div data-bbox="1644 1023 2011 1091" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>70.1% (3月末)</p> </div>	<p>健康福祉部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策16-2】 ○災害に強く、安心して暮らせるふくいの基盤の構築</p> <p>自然災害による被害を最小限に抑え、県民の生命や財産を守るため、県土の強靱化を推進するとともに、地域防災力の維持に向けて建設産業の担い手確保に取り組み、将来にわたって誰もが安心して暮らせるための基盤を構築します。</p>	<p>事前防災対策による「県土強靱化」の推進</p> <p>○ 災害対応により得た新たな知見等を反映するなど、国土強靱化計画を必要に応じて見直し</p> <p>・国土強靱化地域計画において取り組む施策を、441施策から482施策に拡充</p> <p>○ 緊急輸送道路等における道路法面の斜面対策を推進</p> <p>・国道305号(福井市大味町)など6箇所において道路法面の斜面対策を実施</p> <p>○ ダム建設事業や九頭竜川上流ダム再生事業の促進</p> <p>・足羽川ダム、吉野瀬川ダムの建設</p> <p>・足羽川ダムの本体工事、導水トンネル、付替道路等を工事中 ・吉野瀬川ダム本体工事が完成</p> <p>○ 河道整備および浚渫債を活用した河道掘削等を実施</p> <p>・底喰川、七瀬川等、21河川の整備のほか、浚渫・伐木を実施</p> <p>・底喰川、七瀬川、笹の川等の河川整備を実施 ・足羽川、日野川等で浚渫および伐木を実施</p> <p>○ 土砂災害警戒区域における土砂災害対策施設整備を実施</p> <p>・未更毛川支川、西木田第2地区等の整備を実施</p> <p>・未更毛川支川等において砂防堰堤工事が完了 ・西木田第2地区等において急傾斜地崩壊対策工事が完了</p> <p>○ 耐震性の低い木造住宅の耐震化を促進</p> <p>・所有者が行う耐震改修に対し補助を実施する市町への支援を実施</p> <p>予防保全に基づいた老朽化対策による社会インフラの安全確保</p> <p>○ 九頭竜橋や谷田部トンネルをはじめとした道路施設、龍ヶ鼻ダムや狐川排水機場、上下水道など社会インフラの長寿命化を推進</p> <p>・一般県道赤礁崎公園線の志摩橋他15橋の修繕が完了 ・狐川排水機場3号ポンプの整備完了、1号ポンプの整備着手</p>	<p>緊急輸送道路における道路斜面対策率 42.3% (R6:41.0%)</p> <p>42.3% (3月末)</p> <p>吉野瀬川ダム本体打設 100% (R6:90%)</p> <p>100% (3月末)</p> <p>河川の整備延長(県管理)(累計) 62.3km (R6:61.6km)</p> <p>62.5km (3月末)</p> <p>土砂災害警戒区域(保全人家10戸以上)における土砂災害対策施設整備率 43.8% (6箇所) (R6:43.5%)</p> <p>43.8% (6箇所) (3月末)</p> <p>木造住宅の耐震改修戸数 200戸 (R6:116戸)</p> <p>211戸 (3月末)</p> <p>橋梁の長寿命化修繕完了率(R1~R5点検のⅢ判定285箇所を対象) 45% (R6:40%)</p> <p>45% (3月末)</p>	<p>防災安全部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>誰もが安心して暮らせるための環境・基盤づくり</p> <p>○ 児童、生徒の安全を確保するため、通学路等において歩道整備や防護柵設置など道路の安全対策を実施</p> <div data-bbox="801 225 1599 293" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・一般県道血谷大野線(大野市中野)等において道路の安全対策を実施</p> </div> <p>○ 県内全域に宅地造成等工事規制区域または特定盛土等規制区域を指定し、一定規模以上の盛土等について安全性を確認するため許可制とするとともに、不法・危険な盛土等の監視体制を構築</p> <div data-bbox="801 416 1599 485" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・県、市町が連携し、許可手続きや監視の体制を構築し、規制区域を指定。区域指定後は許可業務等を適切に運用</p> </div> <p>○ 空き家の購入・リフォームや老朽空き家等の除却に対する補助を実施</p> <div data-bbox="801 592 1599 660" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・空き家の購入・リフォームや老朽空き家の除却等に対し補助を行う市町への支援を実施</p> </div>	<p>・通学路における安全対策実施箇所数 25箇所 (R6:30箇所)</p> <div data-bbox="1646 225 2013 293" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>25箇所(3月末)</p> </div> <p>・6月末までに、県内全域において規制区域を指定し、盛土等の許可制、監視の運用開始</p> <div data-bbox="1646 416 2013 485" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>規制区域を指定し、運用開始(6月)</p> </div> <p>・空き家購入・リフォーム等件数 150戸 (R6:141戸)</p> <div data-bbox="1646 592 2013 660" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>144戸(3月末)</p> </div> <p>・老朽空き家等の除却戸数 140戸 (R6:126戸)</p> <div data-bbox="1646 767 2013 836" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>123戸(3月末)</p> </div>	<p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p>
	<p>建設産業の担い手確保</p> <p>○ 建設産業での女性活躍を推進するため、女性の採用促進や女性のキャリアアップに取り組む事業者への支援を実施</p> <div data-bbox="801 991 1599 1059" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・建設ディレクターの資格取得や女性が働きやすい環境づくりに取り組む36社を支援</p> </div>	<p>・建設産業女性活躍推進事業による女性技術者増加数 20人 (R6:19人)</p> <div data-bbox="1646 991 2013 1059" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>29人(3月末)</p> </div>	<p>土木部</p>
	<p>農山漁村地域の防災・減災機能の向上と基盤整備(再掲)</p> <p>○ 水田の持つ雨水貯留能力を強化する田んぼダムの取組み</p> <div data-bbox="801 1198 1599 1267" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・農業者の理解と協力のもと、大雨時に水田に雨水を一時的に貯留し排水路に流れる水量を抑制する取組みを推進</p> </div> <p>○ 施設の適期適切な更新に向けた長寿命化計画の策定を推進</p> <div data-bbox="801 1374 1599 1442" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・長寿命化計画に基づき優先順位を決定し、長寿命化対策工事を実施</p> </div>	<p>・田んぼダムに取組む集落数 100集落 (R6:96集落)</p> <div data-bbox="1646 1198 2013 1267" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>111集落(3月末)</p> </div> <p>・長寿命化計画策定箇所数 37箇所 (R6:25箇所)</p> <div data-bbox="1646 1374 2013 1442" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>62箇所(3月末)</p> </div>	<p>農林水産部</p> <p>農林水産部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>○ 豪雨・耐震補強や水位計設置によるため池対策の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・ため池の改修等による豪雨・耐震補強対策を実施 ・豪雨時の円滑な避難に繋げるため水位計設置によりため池水位情報を発信</p> </div>	<p>・ ため池対策の実施箇所数 11箇所 (R6:2箇所)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>11箇所 (3月末)</p> </div>	農林水産部
<p>【施策16-3】 ○ 県民を守る犯罪・事故等の対策</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>子ども、女性、高齢者をはじめ、県民を犯罪や事故から守る対策を推進し、治安の維持・向上を図ります。</p> </div>	<p>子ども、女性、高齢者を守る対策の推進</p> <p>○ 地域の防犯力向上を図るため、自治会等による防犯カメラ等の防犯インフラ整備を支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・新たに51地区の防犯インフラ整備を支援</p> </div> <p>○ 令和8年度からの高校生の自転車通学時のヘルメット着用の許可条件化に向け、各学校においてヘルメット着用についての取組みを推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・高教研究生徒指導部会総会で各校でのヘルメット着用に向けた取組を依頼 (5月) ・各校のヘルメット着用率の調査 (9月) ・各校におけるヘルメット着用に向けた取組事例集を共有 (10月) ・県立校長会で令和8年4月からのヘルメットの許可条件化とヘルメット着用の取組みの継続を依頼 (2月)</p> </div> <p>交通事故防止対策の推進</p> <p>○ 県民の交通安全意識向上を図るため、高齢者や若者などターゲットごとに効果的な媒体を活用した広報や、横断歩道における歩行者優先キャンペーンを実施</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・毎月テーマを定め、それぞれのメインターゲットに効果的な媒体を活用して、クイズ形式の交通安全広報を実施 (6~12月・参加者15,902人) ・横断歩道の事前予告標示であるダイヤマークに着目したキャッチフレーズを募集し、審査を通じて選ばれたキャッチフレーズによる広報を実施 (応募数8,252件)</p> </div>	<p>・ 防犯インフラ整備支援地区数 (累計) 90地区 (R6:63地区)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>114地区 (3月末)</p> </div> <p>・ ヘルメット着用に向けた取組みを行った高校数 10校 (R6:-校)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>36校 (特別支援学校11校を含む) (3月末)</p> </div> <p>・ 信号機のない横断歩道における車の一時停止率 55% (R6:34.7% JAF調べ)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>35.8%</p> </div>	<p>防災安全部</p> <p>教育庁</p> <p>防災安全部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策16-4】 ○県民の安全最優先の原子力政策</p> <p>廃炉、高経年化炉の安全対策、使用済燃料対策など、原子力の様々な課題に対して、県民の安全を最優先に対応します。</p>	<p>責任ある原子力・エネルギー政策の実行を国に要請</p> <p>○ 原子力の将来像のさらなる明確化や使用済燃料対策、核燃料サイクルなど原子力の様々な課題に対して責任ある政策を執行するよう国に要請</p> <p>・国への重要要望において、2050年以降も見据えた原子力の将来像のさらなる明確化や使用済燃料対策等について、国が責任を持って取り組むことを要請(6/4) ・経済産業大臣に対し、関西電力の使用済燃料対策ロードマップの着実な実行や、六ヶ所再処理工場の竣工目標実現に向けた国の主体的な対応等を要請(7/17)</p> <p>原子力発電所の運転、もんじゅをはじめとする廃炉作業等を安全最優先に対応</p> <p>○ 原子力発電所の運転や廃炉作業等の安全性について、県原子力安全専門委員会の審議等を通じて厳正に確認し、県民の安全最優先で対応</p> <p>・県原子力安全専門委員会での審議(2回) ・高浜1・2号機の炉内構造物取替および高浜発電所1期目、美浜発電所の乾式貯蔵施設に係る規制委員会の審査結果について専門委員会で審議し、安全性を確認(6/13,11/25)</p> <p>原子力防災対策の充実・強化</p> <p>○ 国の広域避難計画(緊急時対応)に基づき、大規模地震との複合災害を想定した原子力防災訓練を実施</p> <p>・美浜地域の広域避難計画に基づき、原子力総合防災訓練を実施(10/24、25) ・兵庫県、奈良県、石川県への住民避難や、実動機関のヘリコプター・船舶・民間の遊覧船など多様な手段による住民搬送訓練を実施 ・円滑な避難のためLINEによる事故進展等の情報提供を実施</p> <p>嶺南地域への自衛隊誘致</p> <p>○ 原子力発電所が集中立地する嶺南地域において、いかなる状況においても迅速な事態対処を可能とするための自衛隊配備について、国に要請</p> <p>・防衛省に対し、嶺南地域への部隊配備など、原子力発電所の防護体制に万全を期すよう、嶺南市町と合同で要請(7月)</p>	<p>防災安全部</p> <p>防災安全部</p> <p>防災安全部</p> <p>防災安全部</p>	<p>防災安全部</p> <p>防災安全部</p> <p>防災安全部</p> <p>防災安全部</p>
<p>【施策16-5】 ○拉致問題への対応</p> <p>北朝鮮による拉致問題の解決のための的確に対応します。</p>	<p>拉致問題の啓発と国への要請</p> <p>○ 拉致問題の風化を防ぐため、国に対し問題解決に向けた取組みを要請するとともに、国や関係団体と連携し、高校での出前講座や街頭啓発活動等を実施</p> <p>・健康福祉部長が政府拉致対策本部 総務・拉致被害者等支援室長に要望書を手交(6/4) ・出前講座を実施(7/15勝山高校、11/13高志高校、12/2敦賀高校、2/16武生東高校)</p>	<p>・高校での出前講座実施 1,200人(R6:1,105人)</p> <p>1,127人(3月末)</p>	<p>健康福祉部</p>

政策16 防災・治安先進県ふくいの実現

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
防災士数 (日本防災士機構調べ)	4,398人 (2023年度)	4,666人 (2024年度)	4,965人 (2025年度)	5,600人 (2029年度)	◎
緊急輸送道路における道路斜面对策率 (福井県調べ)	41.0% (2024年度)	41.0% (2024年度)	42.3% (2025年度)	47.8% (2029年度)	○
河川の整備延長(県管理) (福井県調べ)	59.6km (2023年度)	61.6km (2024年度)	62.5km (2025年度)	66.6km (2029年度)	◎
土砂災害警戒区域(保全家10戸以上)における 土砂災害対策施設整備率 (福井県調べ)	43.5% (2024年度)	43.5% (2024年度)	43.8% (2025年度)	45.1% (2029年度)	○
防犯インフラ整備支援地区数(地域全体で犯罪抑 止に取り組むため防犯カメラ等を設置する地区) (福井県調べ)	28地区 (2023年度)	63地区 (2024年度)	114地区 (2025年度)	200地区 (2029年度)	◎

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、―…判断時期未到来

政策17 「チームふくい」の行政運営

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策17-1】</p> <p>○クレドを推進し、官民共創で地域課題を解決</p> <p>クレドに基づく徹底現場主義や政策デザインを通じて、県と市町、民間、大学、県民等のつながりを創出します。また、事業構想段階から官民が連携し、柔軟に人事交流を行うふくい型の「官民共創モデル」を作りながら、県単独では対応困難な課題を解決し、地域力を強化します。</p>	<p>クレドの実践による課題解決力の強化</p> <p>○ 福井県職員行動規範「福井県職員クレド」に掲げる現場、挑戦、協働、創意工夫、効率化に基づく実践事例の紹介、職員研修および職員表彰制度等を通じ、目標の達成に向け生じる課題の解決策を考え、挑戦、行動できる職員を育成</p> <p>・クレドスピーチの対象者を本庁の所属長に拡大し、管理職の理解を促進 ・新たに「クレド川柳」の募集および発表を行うとともに、クレドの本庁舎階段蹴上への掲示を実施するなど、組織全体でクレドへの理解・周知を強化</p> <p>ふくい型の官民共創を拡大</p> <p>○ 職員の兼業を通じ、民間事業者等が行う地域課題の解決を図るため、兼業人材の派遣を望む民間事業者と職員を繋ぐ「官民共創ポータルサイト」を構築 民間派遣研修や地域ビジネス兼業促進制度など、庁外での職員のチャレンジを応援するため、勤勉手当での加算制度を創設</p> <p>・職員の派遣を希望する事業者を「官民協創ポータルサイト」で紹介(6事業者)</p>	<p>・ 職員エンゲージメント調査「福井県職員クレド」実践度 3.4 (R6:3.2)</p> <p>3.3</p> <p>・ 地域ビジネス兼業促進制度の利用件数 30件 (R6:19件)</p> <p>30件(3月末)</p>	<p>総務部</p> <p>総務部</p>
<p>【施策17-2】</p> <p>○市町協働を深化し、地域の未来づくりをバックアップ</p> <p>県と市町の職員交流や事業支援、技術職派遣などを継続・拡大するとともに、防災やDX、水道事業等の広域連携を推進し、県全体の行政サービスを向上させます。</p>	<p>県と市町の相互連携を促進する勤務環境づくり</p> <p>○ 県と市町の職員がテレワークを実施しながら、必要に応じて双方の職場で仕事ができる勤務環境づくりを検討</p> <p>・市町職員がテレワークや県職員との打ち合わせ等で利用できる共創スペース「協働ルーム+」を県庁1階に設置。また、県職員が市町庁舎に出向き、テレワークを実施</p> <p>市町をサポートする体制の充実</p> <p>○ 採用が困難な土木、建築、林学等の技術職について、各市町に対する人的支援を実施</p> <p>・総務省の「復旧・復興支援技術職員派遣制度」を活用して技術職8名を県内市町に派遣</p>	<p>・ 県庁内に市町協働スペースの設置 (R7年度) 試行的に県職員が市町庁舎に出向きテレワークを実施</p> <p>「協働ルーム+」をR7.8月供用開始。県職員が複数市町でテレワークを実施</p>	<p>総務部</p> <p>総務部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策17-3】 ○便利でやさしいDXにより、県民とのつながりを創出</p> <p>県民の利便性と生産性の向上を目的として、行政手続きの完全オンライン化や対面や書面での手続き等のアナログ規制の見直しを進めるとともに、デジタル広報などを積極的に展開し便利でやさしい行政DXを推進します。また、デジタルに不慣れな方に対するサポート体制により、誰一人取り残されない環境づくりを推進します。</p>	<p>行政手続きの完全オンライン化によるノンストップ行政サービスの拡大</p> <p>○住民目線に立った行政手続きのオンライン化の促進や住民向けデジタルサービスの活用を進めるなど、県・市町共同で行政DXを推進</p> <p>・住民向けにライフイベントに合わせた手続きを案内する「手続きナビゲーション」の市町普及を図り、次年度から5団体での共同利用に拡大</p> <p>デジタル活用による県民・事業者の生産性向上</p> <p>○電子契約サービス導入に伴い、契約がオンライン化による簡素化と収入印紙不要</p> <p>・電子契約サービスの運用により、契約書の印刷や製本、郵送が不要となり、契約締結までの時間短縮につながるとともに、事業者側は印紙代が不要となる等、利便性が向上</p> <p>デジタルデバインド(情報格差)対策の推進</p> <p>○市町と協働し、地域の拠点において住民にスマートフォンの操作などを教え合う場(スマホ教室、スマホ相談会など)を創設</p> <p>・実証事業に参画した5市の公民館等において、地域住民や市職員が講師となり、スマホ教室やスマホ相談会を開催(30回)</p> <p>プッシュ型情報発信の強化</p> <p>○県民の属性や興味関心に合わせた情報発信や県民ニーズにあわせたサービスの導入などプッシュ型行政の実現に向けて市町の副首長をメンバーとする協議会を設置し、具体的な検討を開始</p> <p>・福井県プッシュ型行政推進協議会を通して市町等と協議(21回)を重ね、令和9年度にプッシュ型情報発信システムを県市町共同で構築することで合意</p> <p>県・市町情報システムの共同化</p> <p>○県民のサービス向上や行政の効率化の実現のため、新たな情報システムでの共同化について市町と共に検討を開始</p> <p>・福井県で導入した電子契約サービスについて、市町との同一システムの利用を開始(2市町)</p>	<p>・共同で取り組む行政DXの事業数 12事業(R6:10事業)</p> <p>13事業(3月末)</p> <p>・利用回数 2,600件(R6:—)</p> <p>5,993件(3月末)</p> <p>・参加者数 20人(R6:—)</p> <p>194人(3月末)</p> <p>・市町、事業者との協議回数 19回(R6:—)</p> <p>21回(3月末)</p> <p>・共同で利用する情報システム数 9システム(R6:9システム)</p> <p>10システム(3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策17-4】 ○健全財政の堅持</p> <p>歳入の確保や歳出の合理化に取り組み、大型主要プロジェクトや子育て応援策に必要な財源を確保するとともに、財政指標目標を設定し、中長期的な収支見通しに基づく健全財政を堅持します。</p>	<p>歳入の確保</p> <p>○ 脱炭素化事業の推進に向けたグリーンボンド(環境債)の発行や、子育て応援のための基金への積立て、「ふるさと納税」の拡大、宝くじの販売促進を実施</p> <p>・グリーンボンドを50億円発行 ・子育て応援のための基金を9億円積立て(高校授業料無償化に伴う財源4億円を含む) ・宝くじ販売促進キャンペーンを実施(11~12月)</p> <p>歳出の合理化</p> <p>○ 「政策トライアル枠予算」を活用して、若手職員が提案する事業の実証を行いチャレンジを促進するほか、道路、河川などへの維持管理(小規模な緊急対応)について「地域の景観対応枠」を創設し、地域の声に対して迅速に対応</p> <p>・トライアル枠:42事業、92,884千円 ・地域の景観対応枠:49箇所、300,000千円</p> <p>県有資産マネジメントの推進</p> <p>○ 公共施設等総合管理計画を改訂し、計画的な施設の修繕や施設保有量の適正化について検討</p> <p>・公共施設の延床面積を令和6年度末以下に抑制することを基本とする公共施設等総合管理計画に改訂 ・施設の改修等を計画的に実施するため、福井県県有建築物整備基金を設置</p> <p>中長期的な見通しに基づく財政運営</p> <p>○ 財政調整基金残高の確保、県債残高の適正管理</p> <p>・県税収入の動向等を見極めながら、健全財政を維持 【R7末(見込み):基金残高168億円、将来負担比率一、県債残高5,855億円】</p>	<p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>・ 行財政改革アクションプラン2024に基づき健全な財政を維持 財政調整基金残高 130億円以上(R6見込:167億円) 将来負担比率 全国中位水準の維持(R6:-) 県債残高 これまでの県債残高の最大を超えない水準を維持(R6見込:5,743億円)</p> <p>9月頃公表予定</p>	<p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>総務部</p> <p>総務部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策17-5】 ○政策オープンイノベーションの推進</p> <p>「デザイン思考」や官民共創などにより、多くの人々の知恵と行動力を結集し、政策レベルと実行力を向上させる政策オープンイノベーションを推進します。</p>	<p>ウェルビーイング(幸福度)政策の推進</p> <p>○ 県内外の大学、企業、行政の共創する組織を設け、官民の垣根を越えて、県民の幸せ実感を高めるプロジェクトを推進</p> <p>・都道府県初の幸福実感向上を目指す官民共創組織として、幸福実感共創ラボ「ふくウェル」を6月に設置し、大学・企業・市町等との研究や実践などのプロジェクトを推進。客観・主観の幸福度全国トップや、書籍への掲載やアワードの受賞など幸福県としてのブランド向上に貢献</p> <p>SDGsの推進</p> <p>○ 「ふくいSDGsパートナー」登録企業・団体等が一体となってSDGsの普及啓発を図るとともに、パートナー同士の連携・協働を拡大し、「福井の未来を担う次世代の育成」を核とした持続可能な地域づくりを推進</p> <p>・県内で排出される繊維廃材の再資源化や廃棄食材の商品化など、SDGsパートナーが協働する新規プロジェクトを創出 ・SDGsパートナーの活動や課題を見える化しマッチングする「ふくいSDGsポータルサイト」の開設(2月)、事業開発等の専門家との視察・商談イベントの実施(3回)</p> <p>デザイン力を活かした政策推進</p> <p>○ 県内デザイナー・クリエイター等のアイデアを政策に反映する「政策デザイン」の仕組みを活用し、県民目線で質の高い政策立案を全庁的に実施するとともに、デザインの視点や発想の有用性を県内外に発信</p> <p>・県内デザイナー・クリエイター等との政策デザインワークショップを43回開催 ・特定テーマにデザイナー等が長期伴走支援を行う「共創」型プログラムを2テーマで実施 ・デザイン思考セミナー(4月、5月)を開催</p> <p>官民共創による課題解決の拡大</p> <p>○ 民間事業者が先進的・革新的な技術を活用して行う実証事業の応援や、包括連携協定等に基づく民間感覚を活かした連携事業実施、フォーラム開催による職員の官民共創への理解促進を実施</p> <p>・地域課題解決プロジェクトではスタートアップ企業を6社採択し、AI自動検反システムによる省人化やフェムテックアプリを活用した女性の働きやすさの改善等の実証を実施 ・連携協定に基づき「香り」による恐竜ブランドの発信、ビッグデータを用いた情報発信に関する共同研究を新たに実施。県・市町職員向けのセミナー等を通じて官民共創の理解を促進</p> <p>福井県ブランド戦略の推進</p> <p>○ 福井県ブランド戦略で定めた活動方針「千年文化を未来へ」に基づき、県民が地域の良さを学び、語る参加型プロジェクトを実施</p> <p>・県外進学を考え始める前から地域への愛着醸成につなげるため、福井の歴史、文化、自然、産業、くらしの充実などを題材としたクイズ大会「中学生福井王決定戦」を開催(6月~9月) ・地域の特徴や魅力について主体的な学びを促す出前授業を小中学校10校で開催(6月~1月)</p>	<p>・ 民間企業等と連携した幸せ実感プロジェクトの企画数 15件(R6:14件)</p> <p>36件(3月末)</p> <p>・ 「SDGsパートナー」新規登録数 210機関(R6:203機関)</p> <p>171機関(3月末)</p> <p>・ 政策デザインによる政策立案件数 17件(R6:15件)</p> <p>17件(3月末)</p> <p>・ 地域課題解決に向けたプロジェクト件数 10件(R6:7件)</p> <p>17件(3月末)</p> <p>・ プロジェクト参加人数 1000人(R6:582人)</p> <p>1,034人(3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p>

政策17 「チームふくい」の行政運営

指標	実行プラン 記載の現状	2024年	実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
福井県職員クレドの実践度 (職員エンゲージメント調査)	3.1点 (2023年度)	3.2点 (2024年度)	3.3点 (2025年度)	3.5点以上 (2028年度)	○
財政調整のための3基金残高 (一般会計決算)	163億円 (2023年度)	167億円 (2024年度)	168億円(見込) (2025年度)	130億円以上 (2028年度)	◎
県債残高(臨時財政対策債を除く) (一般会計決算)	5,655億円 (2023年度)	5,731億円 (2024年度)	5,855億円(見込) (2025年度)	これまでの県債残高の最大(6, 684億円)を超えない水準を維持 (2028年度)	◎
将来負担比率 (健全化判断比率)	153.8% (2023年度)	146.6% (2024年度)	— (9月頃公表予定)	全国中位水準を維持(2028年度)	—

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、—…判断時期未到来

政策18 広域連携の強化

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策18-1】 ○広域連携による高速交通網等の整備促進</p> <p>関西・中部・北陸の各府県と足並みを揃えた国への要請等により、県境フロンティア政策の基盤となる北陸新幹線や中部縦貫自動車道といった高速交通網等の整備を促進します。</p>	<p>北陸新幹線の整備促進(再掲)</p> <p>○ 1日も早い認可・着工および全線開業に向け、沿線自治体・経済界と連携して、地元の理解促進や財源議論等を加速するよう、政府・与党に要請。関西など沿線の機運醸成に向けて、イベントやYoutube、新聞広告等を通じて小浜京都ルートの必要性を発信</p> <p>・早期に詳細な駅位置・ルートを決し、令和8年度政府予算に着工予算を計上するよう、沿線の関係者と連携して政府・与党に要請 (5/12、6/4、10/30、11/19、11/21、12/15、3/9)</p> <p>・フォーラム(12/20)や京都駅・大阪駅でのPRイベント(4月、9月)、Youtubeにおけるニュース番組風理解促進動画の配信(11月～)、新聞広告(11月)、ファミマビジョンへの広告放映(2月～3月)など、関西など沿線の機運醸成に向けて整備効果等を発信</p> <p>福井を拓く高規格道路の整備促進</p> <p>○ 沿線自治体や中部地域等の関係者と連携し、中部縦貫自動車道大野油坂道路の早期開通を国等へ要請</p> <p>・国土交通省、財務省、与党への要望活動を実施 (6/4、7/10、7/29、8/4、11/4、11/5、11/12、2/9、2/13、2/16)</p> <p>○ 沿線自治体や京都府等の関係者と連携し、舞鶴若狭自動車道の早期全線4車線化を国等へ要請</p> <p>・国土交通省、財務省、与党、高速道路会社への要望活動を実施 (6/4、6/9、7/29、7/30、10/8、11/4、2/10)</p> <p>県境道路の整備促進</p> <p>○ 国道8号牛ノ谷道路・金津道路、国道27号青葉改良、国道161号愛発除雪拡幅、国道365号栃ノ木峠道路の整備を促進</p> <p>・国交省への要望活動を実施(6/4、7/29、8/27、11/4、11/5、11/19)</p>	<p>・敦賀以西の延伸のための政府予算の確保</p> <p>着工予算は計上されず 北陸新幹線事業推進調査14.5億円 (前年度比同額)</p> <p>・早期開通に向けた要望活動を実施 10回(R6:10回)</p> <p>10回(3月末)</p> <p>・早期全線4車線化に向けた要望活動を実施 5回(R6:5回)</p> <p>7回(3月末)</p> <p>・直轄事業、直轄権限代行事業の事業促進を国に要請 5回(R6:-)</p> <p>6回(3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p> <p>土木部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
<p>【施策18-2】</p> <p>○広域連携による防災・医療体制の強化</p> <p>自然災害や疾病等に備えた情報共有や広域的な訓練、災害発生時の迅速な対応に向け、広域連携を強化します。</p>	<p>行政の連携による防災体制強化</p> <p>○北陸三県や、応援協定を締結している他の自治体の総合防災訓練に相互参加し、応援手順を確認するとともに、備蓄物資等の情報を共有。また、本県で開催されるDMAT中部ブロック実働訓練において、関係機関との連携体制を確認</p> <p>・富山県や岐阜県の防災訓練に相互参加したほか、南海トラフ地震における即時応援県として、三重県の総合防災訓練に参加し、現地調整会議開催による応援ニーズの確認訓練や福井県活動本部への情報伝達訓練の実施など、三重県との連携体制を確認</p> <p>・本県において中部ブロックDMAT実働訓練に開催し、DMAT(災害派遣医療チーム)および関係機関との連携体制を確認し、災害対応力を強化</p> <p>災害からの復旧・復興</p> <p>○中部圏知事会や近畿ブロック知事会における災害時の相互応援に関する協定に基づき、人員確保が困難となる土木、建築、保健師等の技術職員や行政職員について、被災地自治体の状況を把握し、迅速に派遣</p> <p>・能登半島地震・豪雨による被害があった石川県に対して、令和5~6年度の短期派遣17,264人日に加え、今年度は県職員2人(730人日)を中長期派遣し、災害復旧工事の査定・設計積算や埋蔵文化財保護業務等を実施</p> <p>家畜伝染病対策</p> <p>○隣接県との県境防疫会議や中部ブロックでの防疫連携対策会議を開催し、広域連携を強化します。</p> <p>・北陸三県家畜衛生技術会議(8/1)</p> <p>・中部圏家畜伝染病防疫対策連携会議(8/22)</p> <p>・石川福井県境防疫会議(8/27)</p> <p>・関東甲信越東海ブロック家畜衛生協議会(9/18)</p>	<p>各領域で家畜伝染病に関する協議を実施 3回(R6:3回)</p> <p>4回(3月末)</p>	<p>防災安全部 健康福祉部</p> <p>未来創造部 総務部</p> <p>農林水産部</p>
<p>【施策18-3】</p> <p>○広域連携による交流の拡大</p> <p>高速交通・物流ネットワークの整備により時間的に近くなる近隣都府県との連携を強化し、人・モノ・情報の交流を拡大します。</p>	<p>国内外からの広域観光</p> <p>○教育旅行の誘致について、教育旅行の訪問先に福井が選ばれるように、石川県、富山県と連携し首都圏および関西圏の学校等に対しPR</p> <p>・教育旅行関係者向け現地研修会を実施(7/31~8/2、8/20~8/22)合計参加者数57名</p> <p>・首都圏の旅行会社と北陸三県修学旅行商談会を実施(12月)全体の参加者数107名</p> <p>広域周遊観光の促進【再掲】</p> <p>○近隣の自治体やDMO、交通機関などと連携し、外国人旅行者に刺さる観光コースの造成や宣伝を行い、外国人旅行者を本県に誘客</p> <p>・石川県や滋賀県等と連携し、海外の旅行博に共同出展(香港、タイ、インドネシア、アメリカ)</p>	<p>県内宿泊者数 372万人(R6:403万人)</p> <p>387万人(速報値)</p> <p>外国人宿泊者数 140,000人(R6:89,040人)</p> <p>110,240人(速報値)</p>	<p>交流文化部</p> <p>交流文化部</p>

目指す姿	主な施策	目標 (KPI)	部局
	<p>港湾の利活用</p> <p>○ 富裕層向けの豪華客船の誘致に向け、乗船客への訴求力の高い伝統工芸などの体験ツアーを充実させ、船会社への誘致を強化</p> <p>・クルーズ船社や船社代理店への訪問面談やWEB面談のほか、船社のキーマンを県内に招聘し、敦賀港・福井港の港湾施設、県内観光地を紹介</p>	<p>・クルーズ船寄港回数 10回 (R6:2回)</p> <p>10回 (3月末)</p>	産業労働部
<p>【施策18-4】</p> <p>○自治体ネットワークによる政策立案と提言</p> <p>全国規模で共通の課題を持つ関係自治体が連携し、地域の実情を踏まえた施策を立案するほか、国等に対しても提言を行います。</p>	<p>都道府県連携の推進</p> <p>○ 全国知事会、ブロック知事会、近隣県知事との懇談会を通じ、地方としての課題を共有し、解決のための施策を企画・集約して国に提言</p> <p>以下の会議を実施し、国に提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿ブロック知事会議 (5/29・徳島県、10/23・和歌山県) ・中部圏知事会議 (6/9・愛知県、10/21・長野県) ・全国知事会議 (7/23~24・青森県、11/26・東京都) ・岐阜県知事懇談会 (10/14・福井県丹南地域) ・北陸三県知事懇談会 (10/20・石川県七尾市) <p>共通する課題に関する政策研究</p> <p>○ 近隣県が参加する政策研究チームを立ち上げ、課題に関する現状分析、課題把握、新たな施策を企画・立案し、国への共同要望や広域連携による連携事業を実施</p> <p>・「北陸は一つ政策研究チーム」を設置。北陸地域の社会減の現状・課題を研究し、北陸三県知事懇談会 (10/20) にて、今後の連携事業の方向性を合意</p> <p>・「社会減克服を目指す北陸三県の「地方創生2.0」実現に向けた要望」を国に提出 (10/27)</p> <p>共通意識をもつ自治体の広域連携</p> <p>○ 将来世代応援知事同盟において、持続可能で若い世代が夢を描くことができる社会の実現に向けた支援を充実させるとともに、人や企業等の地方への流れを創出するための制度改正などを国へ提言</p> <p>・ハートピア春江で「日本創生のための将来世代応援知事同盟サミットinふくい」(5/22・23)を開催</p> <p>・「ふくい声明」を国に提出 (6/4)</p>	<p>・他都府県等と新たに連携して実施するプロジェクト数 6件 (R6:3件)</p> <p>7件 (3月末)</p>	<p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p> <p>未来創造部</p>

政策18 広域連携の強化

指標	実行プラン記載の現状		実績 (2025年度)	目標 (2029年度)	達成度
		2024年			
他都道府県等と新たに連携し実施するプロジェクト数 (福井県調べ)	27件 (2020~2024年度)	3件 (2024年度)	7件 (2025年度)	30件 (2025~2029年度)	◎

(達成度の区分)◎…想定を超えて進捗、○…概ね順調に進捗、△…対策強化が必要、―…判断時期未到来